

1 市民向け意識調査

(1) 調査対象者

札幌市がん検診の対象となる40～74歳の男性と、20～74歳の女性を対象とし、5,000人を無作為抽出により選定し、アンケート調査を実施した。

(2) 調査方法と回収率

アンケート調査は、郵送とwebの2種類の方法で行った。郵送では、アンケートを対象者に調査票と返信用封筒を同封して発送し、郵送によって回収した。Webでは、googleフォームにより専用ページを作成し、回答を受け付けた。

本調査は令和4年9月に実施し、全体で5,000件を発送した。そのうち1,677件の回答（回収率約33.5%）を得た。（うちweb回答109件）。

	実数	構成比
アンケート発送数	5,000	100.0%
回収数 (うちWEB回答)	1,677 (109)	33.5% (6.5%※)
		※ 回収数1,677での比率

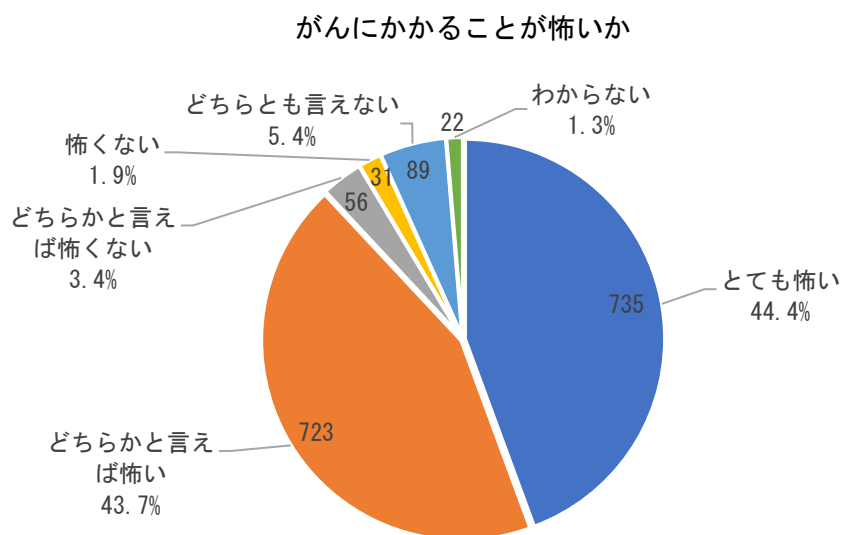
注) 端数処理により、比率の合計が100%とならない場合がある。

集計結果

問1 あなたのがんに関するご認識についてお答えください。

(1) がんにかかることが怖いか（択一回答）

がんにかかることが怖いか聞いたところ、「とても怖い」が44.4%で最も高く、次いで「どちらかと言えば怖い」が43.7%となっている。



(回答者数 : 1,656 人)

性別で見ると、男性は「どちらかと言えば怖い」が48.2%、女性は「とても怖い」が47.6%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
とても怖い	216	38.2%	515	47.6%	1	33.3%
どちらかと言えば怖い	273	48.2%	446	41.3%	2	66.7%
どちらかと言えば怖くない	18	3.2%	38	3.5%	0	0.0%
怖くない	18	3.2%	13	1.2%	0	0.0%
どちらとも言えない	32	5.7%	57	5.3%	0	0.0%
わからない	9	1.6%	12	1.1%	0	0.0%
回答数	566	100.0%	1081	100.0%	3	100.0%

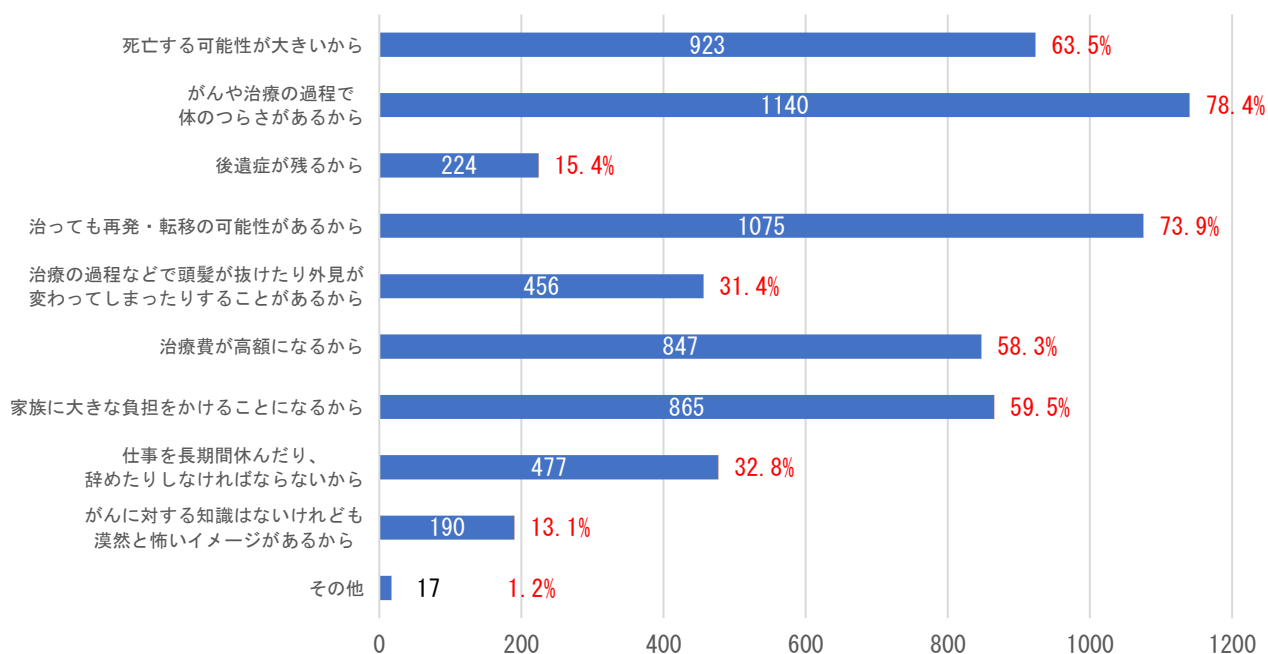
就労別に見ると、就労ありは「とても怖い」が45.7%、就労なしは「どちらかと言えば怖い」が45.1%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
とても怖い	491	45.7%	229	42.0%
どちらかと言えば怖い	460	42.8%	246	45.1%
どちらかと言えば怖くない	36	3.4%	17	3.1%
怖くない	18	1.7%	13	2.4%
どちらとも言えない	57	5.3%	31	5.7%
わからない	12	1.1%	9	1.7%
回答数	1074	100.0%	545	100.0%

(2) がんが怖い理由（複数回答）

問1(1)で、「とても怖い」「どちらかと言えば怖い」を選択した回答者にその理由を聞いたところ、「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」が78.4%と最も高く、次いで「治っても再発・転移の可能性があるから」が73.9%となっている。

がんが怖い理由（複数回答）



(サンプル計：1,454人)

性別に見ると、男女共に「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」最も高くなっており、男性は71.8%、女性は81.8%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
死亡する可能性が大きいから	323	66.5%	596	62.1%	1	33.3%
がんや治療の過程で体のつらさがあるから	349	71.8%	785	81.8%	3	100.0%
後遺症が残るから	58	11.9%	164	17.1%	1	33.3%
治っても再発・転移の可能性があるので	328	67.5%	741	77.2%	3	100.0%
治療の過程などで頭髪が抜けたり外見が変わってしまったりすることがあるから	94	19.3%	358	37.3%	2	66.7%
治療費が高額になるから	262	53.9%	578	60.2%	3	100.0%
家族に大きな負担をかけることになるから	274	56.4%	586	61.0%	2	66.7%
仕事を長期間休んだり、辞めたりしなければならないから	152	31.3%	320	33.3%	3	100.0%
がんに対する知識はないけれども漠然と怖いイメージがあるから	47	9.7%	139	14.5%	2	66.7%
その他	4	0.8%	13	1.4%	0	0.0%
サンプル計	486	100.0%	960	100.0%	3	100.0%

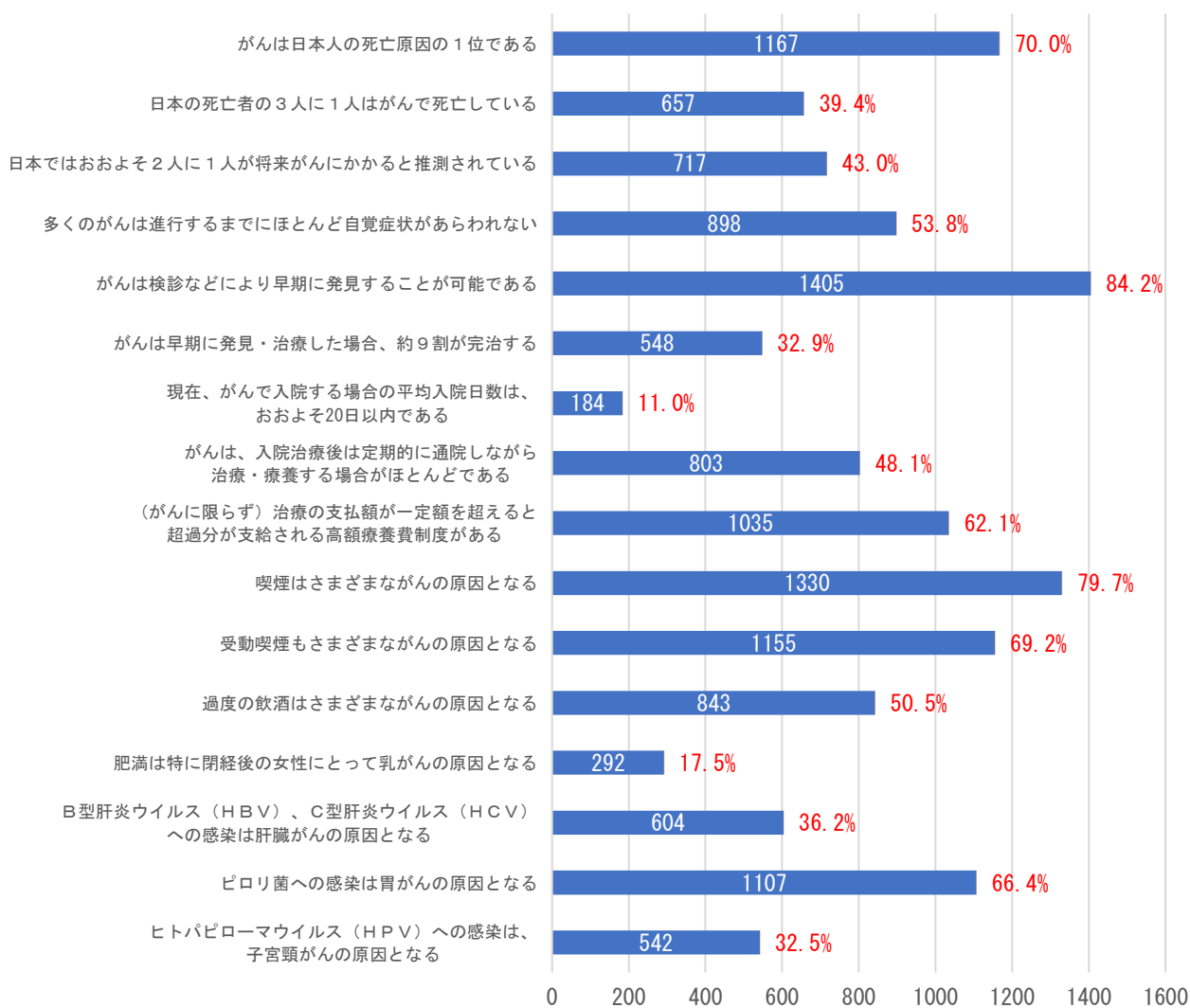
就労別に見ると、就労ありなし共に「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」が最も高くなっており、就労ありは78.0%、就労なしは80.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
死亡する可能性が大きいから	601	63.4%	304	64.1%
がんや治療の過程で体のつらさがあるから	739	78.0%	379	80.0%
後遺症が残るから	154	16.2%	65	13.7%
治っても再発・転移の可能性があるので	695	73.3%	357	75.3%
治療の過程などで頭髪が抜けたり外見が変わってしまったりすることがあるから	312	32.9%	136	28.7%
治療費が高額になるから	570	60.1%	257	54.2%
家族に大きな負担をかけることになるから	573	60.4%	275	58.0%
仕事を長期間休んだり、辞めたりしなければならないから	425	44.8%	41	8.6%
がんに対する知識はないけれども漠然と怖いイメージがあるから	105	11.1%	79	16.7%
その他	11	1.2%	6	1.3%
サンプル計	948	100.0%	474	100.0%

(3) がんに関する知識（複数回答）

がんについて知っていることを聞いたところ、「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が84.2%で最も高く、次いで「喫煙はさまざまながんの原因となる」が79.7%、「がんは日本人の死亡原因の1位である」が70.0%となっている。

がんに対する知識（複数回答）



(サンプル計：1,668人)

性別に見ると、男女共に「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が最も高くなっており、男性は78.7%、女性は87.2%となっている。

がんに対する知識（複数回答）

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がんは日本人の死亡原因の1位である	413	72.6%	747	68.5%	2	66.7%
日本の死亡者の3人に1人はがんで死亡している	240	42.2%	412	37.8%	0	0.0%
日本ではおおよそ2人に1人が将来がんにかかる と推測されている	239	42.0%	476	43.7%	0	0.0%
多くのがんは進行するまでにほとんど自覚症状が あられない	298	52.4%	594	54.5%	3	100.0%
がんは検診などにより早期に発見することが可能 である	448	78.7%	950	87.2%	1	33.3%
がんは早期に発見・治療した場合、約9割が完治 する	214	37.6%	332	30.5%	0	0.0%
現在、がんで入院する場合の平均入院日数は、お おおよそ20日以内である	52	9.1%	131	12.0%	0	0.0%
がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治 療・療養する場合がほとんどである	219	38.5%	580	53.2%	0	0.0%
（がんに限らず）治療の支払額が一定額を超え ると超過分が支給される高額療養費制度がある	304	53.4%	725	66.5%	2	66.7%
喫煙はさまざまながんの原因となる	444	78.0%	880	80.7%	3	100.0%
受動喫煙（他人が吸うたばこの煙を吸うこと）も さまざまながんの原因となる	362	63.6%	787	72.2%	3	100.0%
過度の飲酒はさまざまながんの原因となる	275	48.3%	564	51.7%	2	66.7%
肥満は特に閉経後の女性にとって乳がんの原因と なる	54	9.5%	237	21.7%	0	0.0%
B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス （HCV）への感染は肝臓がんの原因となる	177	31.1%	426	39.1%	1	33.3%
ピロリ菌への感染は胃がんの原因となる	346	60.8%	758	69.5%	2	66.7%
ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染は、 子宮頸がんの原因となる	80	14.1%	459	42.1%	2	66.7%
サンプル計	569	100.0%	1090	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が最も高くなっており、就労ありは83.4%、就労なしは86.1%となっている。

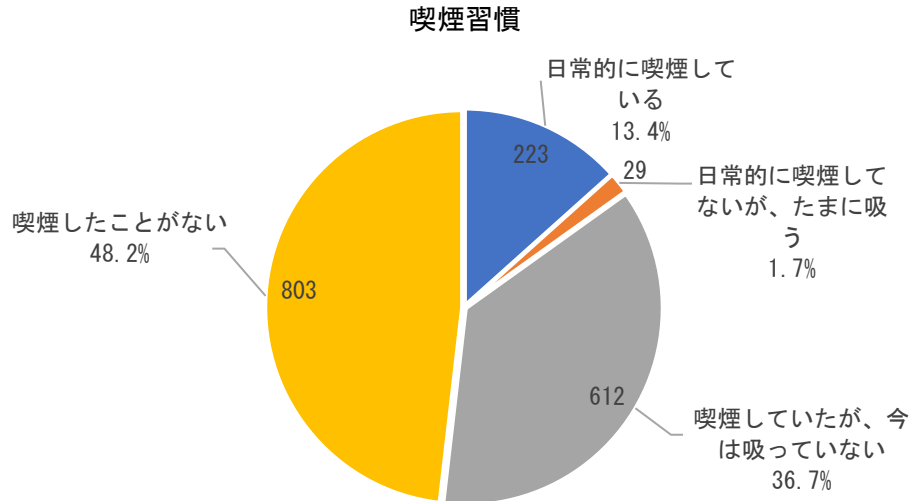
がんに対する知識（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がんは日本人の死亡原因の1位である	785	72.8%	359	65.0%
日本の死亡者の3人に1人はがんで死亡している	437	40.5%	203	36.8%
日本ではおおよそ2人に1人が将来がんにかかると推測されている	435	40.3%	267	48.4%
多くのがんは進行するまでにほとんど自覚症状があらわれない	581	53.8%	299	54.2%
がんは検診などにより早期に発見することが可能である	900	83.4%	475	86.1%
がんは早期に発見・治療した場合、約9割が完治する	332	30.8%	205	37.1%
現在、がんで入院する場合の平均入院日数は、おおよそ20日以内である	114	10.6%	66	12.0%
がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治療・療養する場合がほとんどである	494	45.8%	289	52.4%
（がんに限らず）治療の支払額が一定額を超えると超過分が支給される高額療養費制度がある	651	60.3%	362	65.6%
喫煙はさまざまながんの原因となる	862	79.9%	445	80.6%
受動喫煙（他人が吸うたばこの煙を吸うこと）もさまざまながんの原因となる	750	69.5%	383	69.4%
過度の飲酒はさまざまながんの原因となる	549	50.9%	278	50.4%
肥満は特に閉経後の女性にとって乳がんの原因となる	191	17.7%	97	17.6%
B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）への感染は肝臓がんの原因となる	383	35.5%	207	37.5%
ピロリ菌への感染は胃がんの原因となる	713	66.1%	374	67.8%
ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染は、子宮頸がんの原因となる	364	33.7%	166	30.1%
サンプル計	1079	100.0%	552	100.0%

問2 あなたの喫煙・飲酒の状況についてお答えください。

(1) 喫煙習慣（択一回答）

喫煙習慣について聞いたところ、「喫煙したことがない」の48.2%が最も高く、次いで「喫煙していたが、今は吸っていない」が36.7%となっている。



(回答者数：1,667人)

性別で見ると、男性は「喫煙していたが今は吸っていない」が55.9%、女性は「喫煙したことがない」が62.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
日常的に喫煙している	123	21.5%	100	9.2%	0	0.0%
日常的に喫煙してないが、たまに吸う	10	1.8%	19	1.7%	0	0.0%
喫煙していたが、今は吸っていない	319	55.9%	290	26.7%	1	33.3%
喫煙したことがない	119	20.8%	679	62.4%	2	66.7%
回答数	571	100.0%	1088	100.0%	3	100.0%

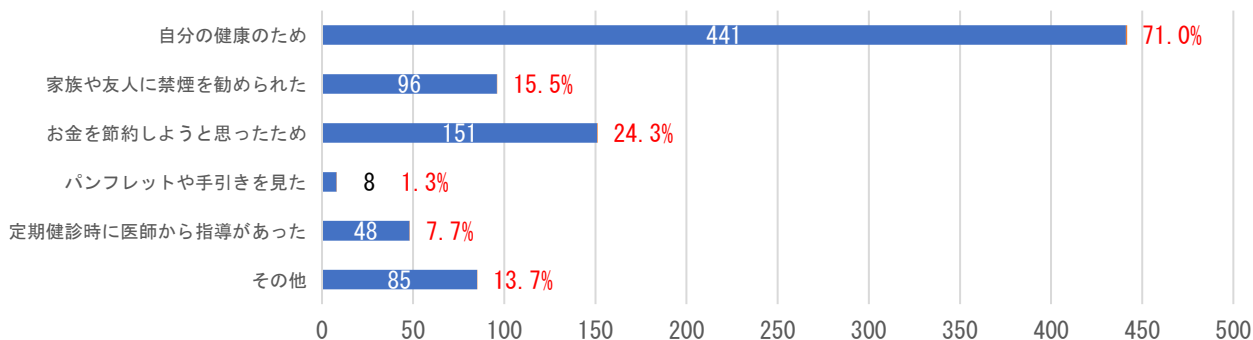
就労別に見ると、就労ありなし共に「喫煙したことがない」が最も高くなっており、就労ありは45.8%、就労なしは52.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
日常的に喫煙している	166	15.3%	51	9.3%
日常的に喫煙してないが、たまに吸う	21	1.9%	8	1.5%
喫煙していたが、今は吸っていない	399	36.9%	203	36.9%
喫煙したことがない	496	45.8%	288	52.4%
回答数	1082	100.0%	550	100.0%

(2) 喫煙を辞めるきっかけ（複数回答）

問2(1)で、「喫煙したことがない」を選んだ回答者以外に、喫煙をやめるきっかけになるか（なったか）聞いたところ、「自分の健康のため」が71.0%で最も高く、次いで、「お金を節約しようと思ったため」が24.3%となっている。

喫煙を辞めるきっかけ（複数回答）



（サンプル計：621人）

性別に見ると、男女共に「自分の健康のため」が最も高く、男性は73.9%、女性は67.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自分の健康のため	243	73.9%	197	67.7%	0	0.0%
家族や友人に禁煙を勧められた	60	18.2%	35	12.0%	0	0.0%
お金を節約しようと思ったため	75	22.8%	76	26.1%	0	0.0%
パンフレットや手引きを見た	7	2.1%	1	0.3%	0	0.0%
定期健診時に医師から指導があった	29	8.8%	19	6.5%	0	0.0%
その他	29	8.8%	56	19.2%	0	0.0%
サンプル計	329	100.0%	291	100.0%	0	100.0%

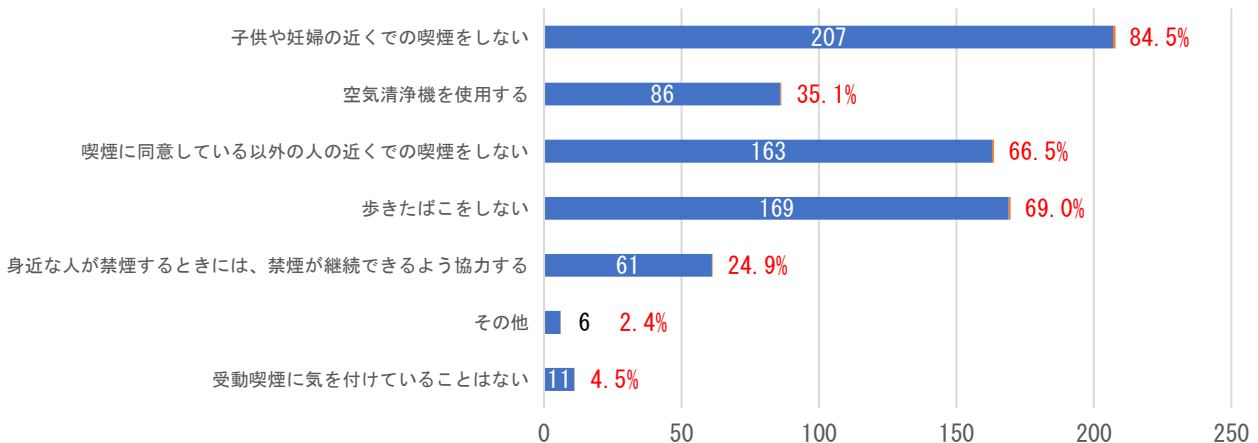
就労別に見ると就労ありなし共に「自分の健康のため」が最も高く、就労ありは67.4%、就労なしは77.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自分の健康のため	279	67.4%	154	77.8%
家族や友人に禁煙を勧められた	66	15.9%	28	14.1%
お金を節約しようと思ったため	114	27.5%	36	18.2%
パンフレットや手引きを見た	4	1.0%	4	2.0%
定期健診時に医師から指導があった	33	8.0%	15	7.6%
その他	61	14.7%	23	11.6%
サンプル計	414	100.0%	198	100.0%

(3) 喫煙者が受動喫煙について気をつけていること（複数回答）

問2(1)で、「日常的に喫煙している」「日常的に喫煙していないが、たまに吸う」を選択した回答者に、受動喫煙について気をつけていることを聞いたところ、「子供や妊婦の近くで喫煙をしない」が84.5%で最も高く、次いで「歩きたばこをしない」が69.0%、「喫煙に同意している以外の人の近くで喫煙をしない」が66.5%となっている。

受動喫煙について気をつけていること（複数回答）



(サンプル計：245人)

性別に見ると、男女共に「子供や妊婦の近くでの喫煙をしない」が最も高く、男性は79.7%、女性は89.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
子供や妊婦の近くでの喫煙をしない	102	79.7%	105	89.7%	0	0.0%
空気清浄機を使用する	34	26.6%	52	44.4%	0	0.0%
喫煙に同意している以外の人の近くでの喫煙をしない	73	57.0%	90	76.9%	0	0.0%
歩きたばこをしない	72	56.3%	97	82.9%	0	0.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	17	13.3%	44	37.6%	0	0.0%
その他	2	1.6%	4	3.4%	0	0.0%
受動喫煙に気をつけていることはない	7	5.5%	4	3.4%	0	0.0%
サンプル計	128	100.0%	117	100.0%	0	100.0%

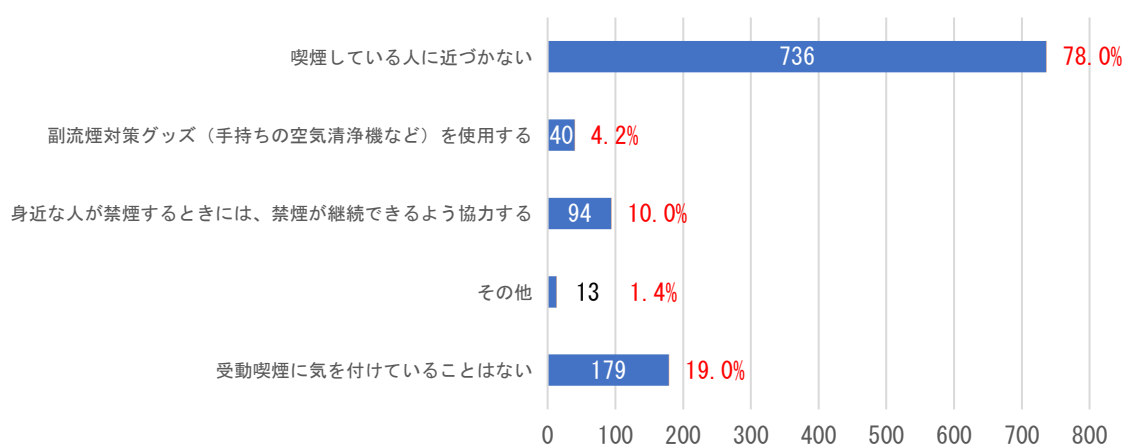
就労別に見ると、就労ありなし共に「子供や妊婦の近くでの喫煙をしない」が最も高く、就労ありは85.2%、就労なしは84.2%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
子供や妊婦の近くでの喫煙をしない	155	85.2%	48	84.2%
空気清浄機を使用する	65	35.7%	20	35.1%
喫煙に同意している以外の人との近くでの喫煙をしない	121	66.5%	38	66.7%
歩きたばこをしない	124	68.1%	44	77.2%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	41	22.5%	18	31.6%
その他	4	2.2%	2	3.5%
受動喫煙に気を付けていることはない	11	6.0%	0	0.0%
サンプル計	182	100.0%	57	100.0%

(4) 非喫煙者が受動喫煙について気をつけていること（複数回答）

問2(1)で、「喫煙していたが、今は吸っていない」または「喫煙したことがない」を選択した回答者に、受動喫煙について気をつけていることを聞いたところ、「喫煙している人に近づかない」が78.0%で最も高く、次いで「受動喫煙に気をつけていることはない」が19.0%、「身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する」が10.0%となっている。

受動喫煙について気をつけていること（複数回答）



（サンプル計：944人）

性別に見ると、男女ともに「喫煙している人に近づかない」が最も高く、男性は76.3%、女性は79.4%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
喫煙している人に近づかない	270	76.3%	465	79.4%	0	0.0%
副流煙対策グッズ（手持ちの空気清浄機など）を使用する	16	4.5%	24	4.1%	0	0.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	34	9.6%	59	10.1%	0	0.0%
その他	4	1.1%	9	1.5%	0	0.0%
受動喫煙に気をつけていることはない	73	20.6%	104	17.7%	2	100.0%
サンプル計	354	100.0%	586	100.0%	2	100.0%

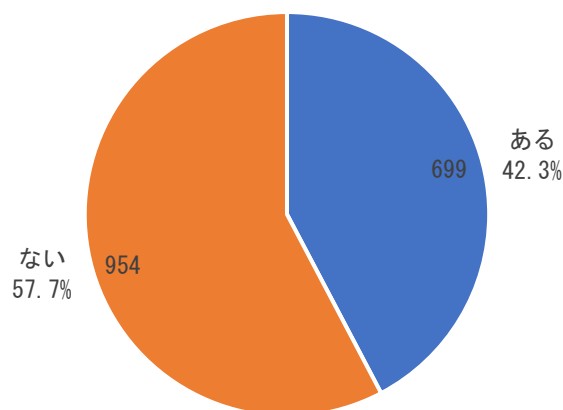
就労別に見ると、就労ありなし共に「喫煙している人に近づかない」が最も高く、就労ありは76.8%、就労なしは80.9%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
喫煙している人に近づかない	459	76.8%	267	80.9%
副流煙対策グッズ（手持ちの空気清浄機など）を使用する	17	2.8%	23	7.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	56	9.4%	37	11.2%
その他	10	1.7%	3	0.9%
受動喫煙に気を付けていることはない	121	20.2%	53	16.1%
サンプル計	598	100.0%	330	100.0%

(5) 飲酒習慣（択一回答）

週一回以上飲酒をする習慣があるか聞いたところ、「ある」が42.3%、「ない」が57.7%となっている。

週一回以上飲酒をする習慣があるか



(回答者数：1,653人)

性別に見ると、男性は「ある」が61.3%、女性は「ない」が67.6%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	347	61.3%	349	32.4%	2	66.7%
ない	219	38.7%	729	67.6%	1	33.3%
回答数	566	100.0%	1078	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「ない」が最も高く、就労ありは52.6%、就労なしは67.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	507	47.4%	180	32.9%
ない	562	52.6%	367	67.1%
回答数	1069	100.0%	547	100.0%

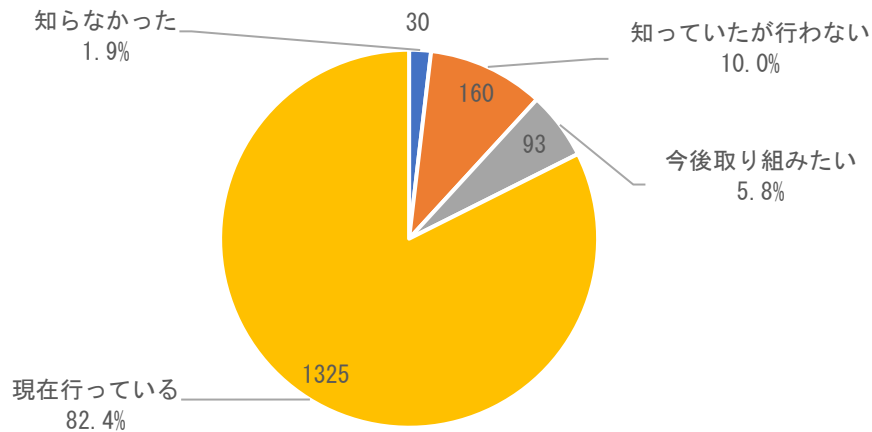
問3 がんの予防についてお答えください。

(1) がんの予防行動（ア～サの各項目について、択一回答）

がん予防に関して、現在有効であると明らかになっている行動を実行しているか聞いた。

ア 喫煙をしない

「現在行っている」が82.4%で最も高く、次いで「知っていたが行わない」が10.0%、「今後取り組みたい」が5.8%となっている。



(回答者数：1,608人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は74.1%、女性は86.8%となっている。

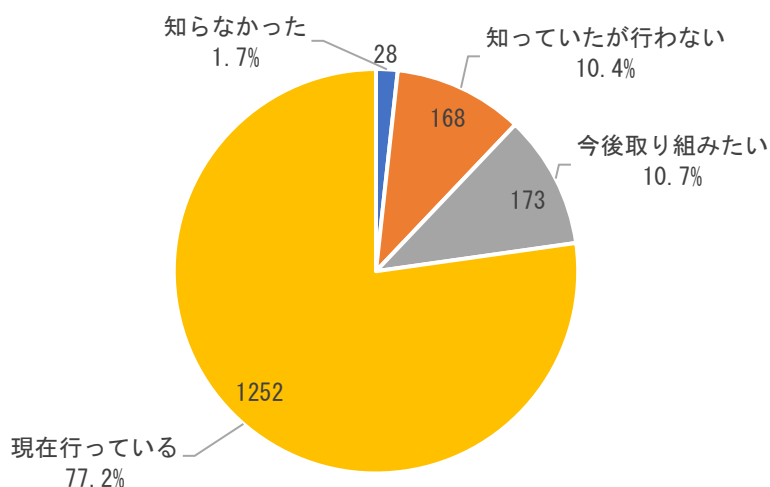
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	11	2.0%	19	1.8%	0	0.0%
知っていたが行わない	85	15.2%	75	7.2%	0	0.0%
今後取り組みたい	49	8.8%	44	4.2%	0	0.0%
現在行っている	414	74.1%	904	86.8%	3	100.0%
回答数	559	100.0%	1042	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは80.3%、就労なしは87.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	22	2.1%	7	1.4%
知っていたが行わない	119	11.2%	36	7.0%
今後取り組みたい	67	6.3%	24	4.6%
現在行っている	850	80.3%	450	87.0%
回答数	1058	100.0%	517	100.0%

イ 受動喫煙を避ける

「現在行っている」が77.2%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が10.7%、「知っていたが行わない」が10.4%となっている。



(回答者数：1,621人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は72.2%、女性は80.1%となっている。

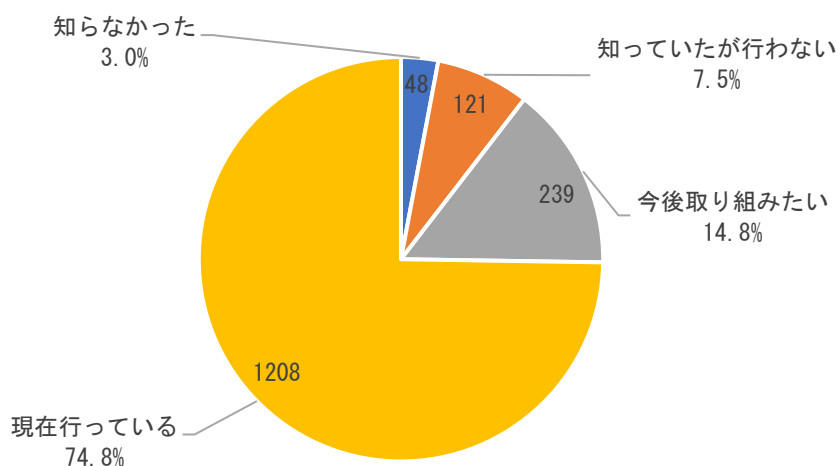
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	11	2.0%	17	1.6%	0	0.0%
知っていたが行わない	83	14.8%	83	7.9%	2	66.7%
今後取り組みたい	62	11.1%	110	10.4%	0	0.0%
現在行っている	405	72.2%	843	80.1%	1	33.3%
回答数	561	100.0%	1053	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは75.9%、就労なしは80.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	20	1.9%	7	1.3%
知っていたが行わない	115	10.8%	48	9.2%
今後取り組みたい	121	11.4%	46	8.8%
現在行っている	808	75.9%	423	80.7%
回答数	1064	100.0%	524	100.0%

ウ 過度な飲酒を控える

「現在行っている」が74.8%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が14.8%、「知っていたが行わない」が7.5%となっている。



(回答者数：1,616人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は63.3%、女性は80.9%となっている。

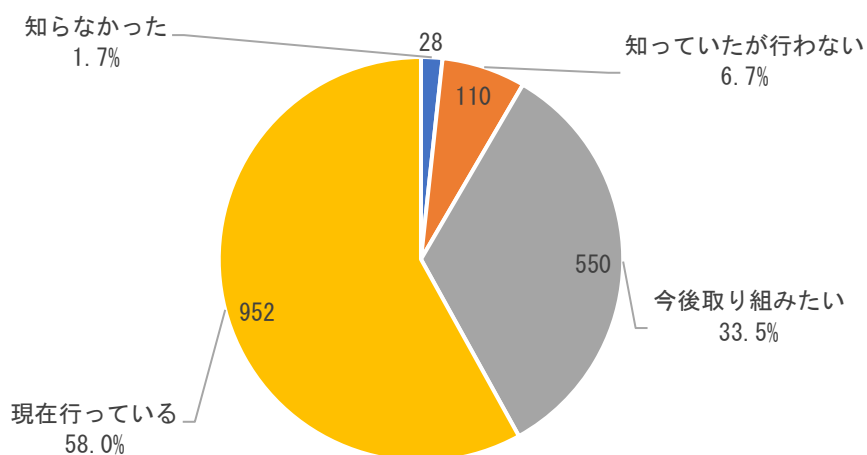
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	23	4.1%	25	2.4%	0	0.0%
知っていたが行わない	74	13.2%	47	4.5%	0	0.0%
今後取り組みたい	108	19.3%	129	12.3%	1	33.3%
現在行っている	354	63.3%	849	80.9%	2	66.7%
回答数	559	100.0%	1050	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは70.0%、就労なしは84.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	36	3.4%	11	2.1%
知っていたが行わない	91	8.5%	26	5.0%
今後取り組みたい	192	18.0%	44	8.5%
現在行っている	746	70.0%	436	84.3%
回答数	1065	100.0%	517	100.0%

エ バランスの取れた食生活を送る

「現在行っている」が58.0%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が33.5%、「知っていたが行わない」が6.7%となっている。



(回答者数：1,640人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は54.5%、女性は60.1%となっている。

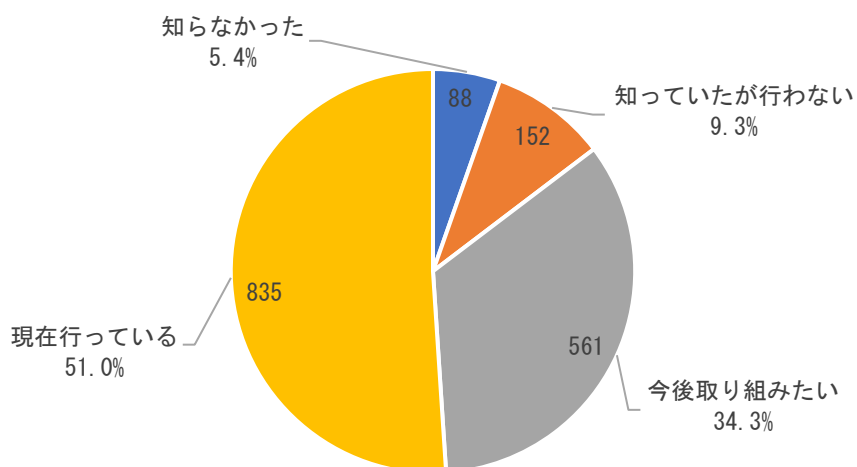
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	18	1.7%	0	0.0%
知っていたが行わない	53	9.3%	56	5.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	195	34.4%	351	32.9%	2	66.7%
現在行っている	309	54.5%	641	60.1%	0	0.0%
回答数	567	100.0%	1066	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは54.2%、就労なしは66.2%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	18	1.7%	8	1.5%
知っていたが行わない	73	6.8%	34	6.3%
今後取り組みたい	399	37.3%	140	26.0%
現在行っている	579	54.2%	356	66.2%
回答数	1069	100.0%	538	100.0%

オ 塩辛い食品をなるべく控える

「現在行っている」が51.0%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が34.3%、「知っていたが行わない」が9.3%となっている。



(回答者数：1,636人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は46.2%、女性は53.7%となっている。

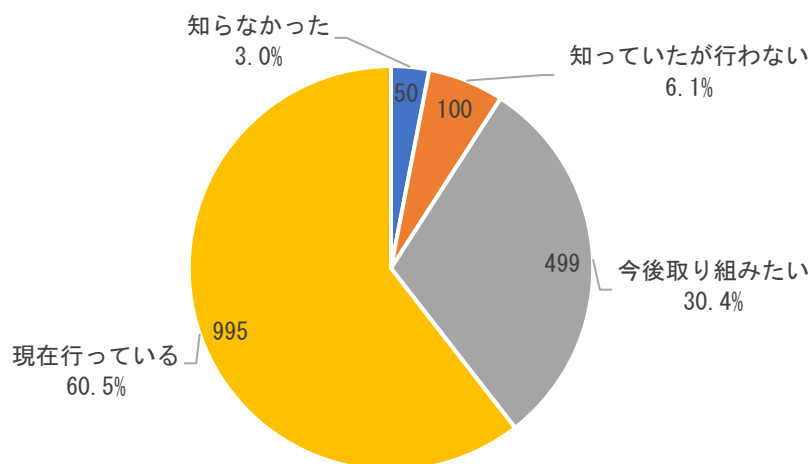
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	25	4.5%	63	5.9%	0	0.0%
知っていたが行わない	73	13.0%	78	7.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	204	36.4%	353	33.1%	2	66.7%
現在行っている	259	46.2%	574	53.7%	0	0.0%
回答数	561	100.0%	1068	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは46.2%、就労なしは60.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	65	6.1%	19	3.6%
知っていたが行わない	103	9.6%	44	8.3%
今後取り組みたい	408	38.1%	147	27.6%
現在行っている	494	46.2%	323	60.6%
回答数	1070	100.0%	533	100.0%

カ 野菜や果物を多めにとる

「現在行っている」が60.5%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が30.4%、「知っていたが行わない」が6.1%となっている。



(回答者数：1,644人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性57.1%、女性は62.3%となっている。

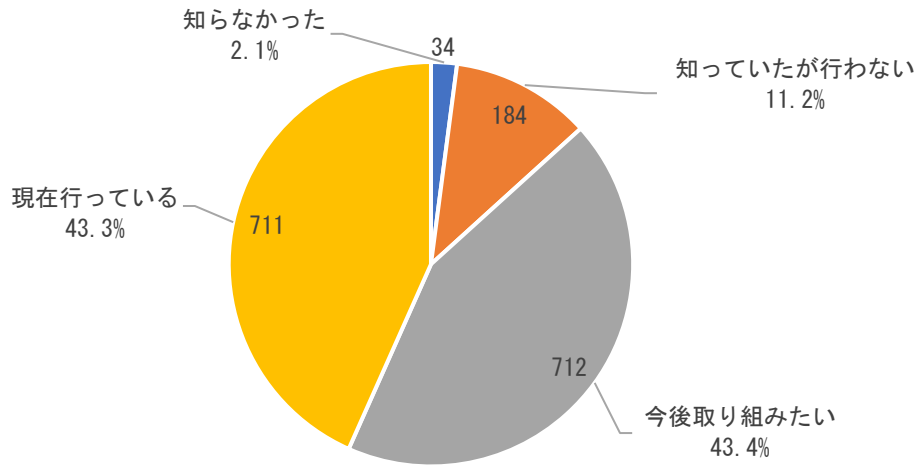
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	13	2.3%	37	3.5%	0	0.0%
知っていたが行わない	53	9.3%	46	4.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	177	31.2%	320	29.9%	1	33.3%
現在行っている	324	57.1%	667	62.3%	1	33.3%
回答数	567	100.0%	1070	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労あり55.5%、就労なしは70.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	37	3.5%	12	2.2%
知っていたが行わない	60	5.6%	38	7.1%
今後取り組みたい	379	35.4%	111	20.6%
現在行っている	594	55.5%	378	70.1%
回答数	1070	100.0%	539	100.0%

キ 適度な運動を心がける

「今後取り組みたい」が43.4%で最も高く、次いで「現在行っている」が43.3%、「知っていたが行わない」が11.2%となっている。



(回答者数：1,641人)

性別に見ると、男性は「現在行っている」が47.9%、女性は「今後取り組みたい」が46.7%で最も高くなっている。

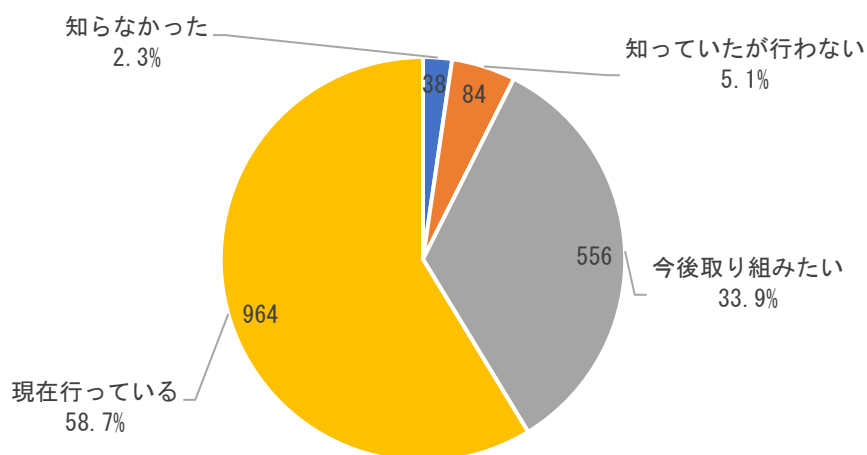
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	24	2.2%	0	0.0%
知っていたが行わない	75	13.3%	107	10.0%	2	66.7%
今後取り組みたい	209	37.1%	500	46.7%	1	33.3%
現在行っている	270	47.9%	439	41.0%	0	0.0%
回答数	564	100.0%	1070	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が46.7%、就労なしは「現在行っている」が48.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	25	2.3%	8	1.5%
知っていたが行わない	112	10.5%	69	12.8%
今後取り組みたい	499	46.7%	199	36.9%
現在行っている	432	40.4%	263	48.8%
回答数	1068	100.0%	539	100.0%

ク 適切な体重を維持する

「現在行っている」が58.7%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が33.9%、「知っていたが行わない」が5.1%となっている。



(回答者数：1,642人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性59.8%、女性は57.9%となっている。

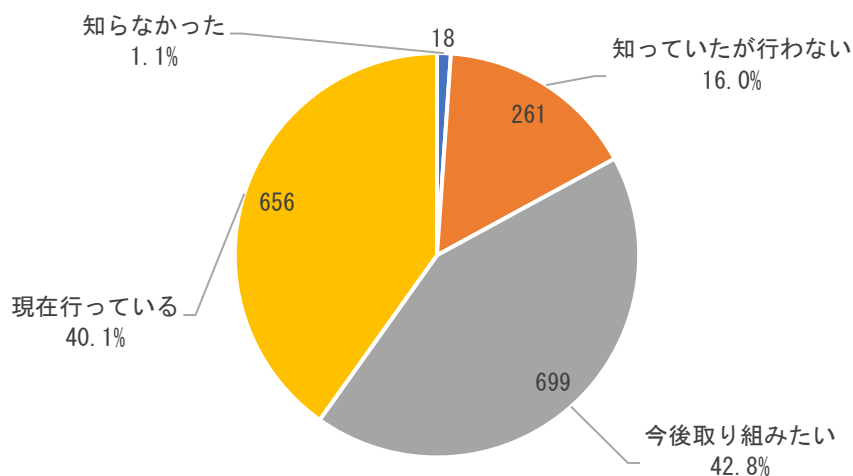
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	9	1.6%	29	2.7%	0	0.0%
知っていたが行わない	36	6.4%	48	4.5%	0	0.0%
今後取り組みたい	182	32.3%	374	34.9%	0	0.0%
現在行っている	337	59.8%	621	57.9%	3	100.0%
回答数	564	100.0%	1072	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労あり55.1%、就労なしは65.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	28	2.6%	9	1.7%
知っていたが行わない	46	4.3%	37	6.9%
今後取り組みたい	406	37.9%	141	26.1%
現在行っている	590	55.1%	353	65.4%
回答数	1070	100.0%	540	100.0%

ケ 定期的にがん検診を受ける

「今後取り組みたい」が42.8%で最も高く、次いで「現在行っている」が40.1%、「知っていたが行わない」が16.0%となっている。



(回答者数：1,634人)

性別に見ると、男性は「今後取り組みたい」が43.4%、女性は「今後取り組みたい」と「現在行っている」が同率42.3%で最も高くなっている。

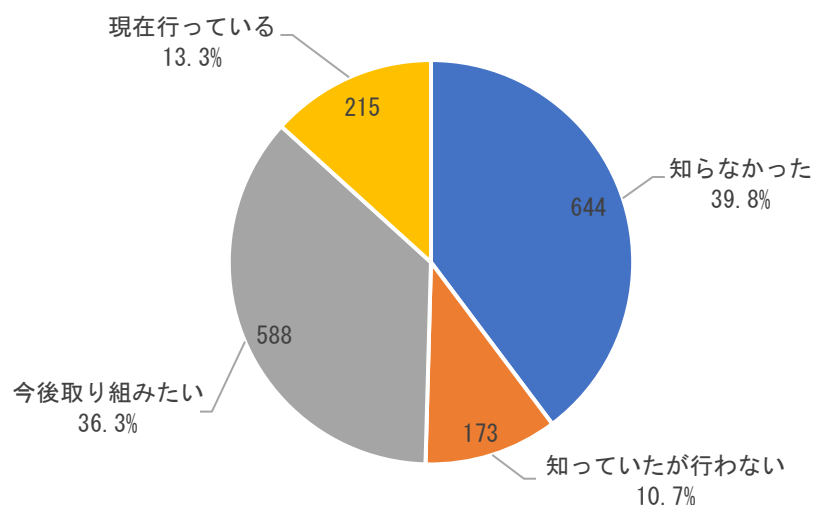
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	8	0.8%	0	0.0%
知っていたが行わない	103	18.3%	156	14.6%	2	66.7%
今後取り組みたい	244	43.4%	451	42.3%	1	33.3%
現在行っている	205	36.5%	450	42.3%	0	0.0%
回答数	562	100.0%	1065	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が45.8%、就労なしは「現在行っている」39.5%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	12	1.1%	6	1.1%
知っていたが行わない	132	12.4%	121	22.7%
今後取り組みたい	489	45.8%	195	36.7%
現在行っている	434	40.7%	210	39.5%
回答数	1067	100.0%	532	100.0%

コ 口腔がんの自己検診・観察

「知らなかった」が39.8%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が36.3%、「現在行っている」が13.3%となっている。



(回答者数：1,620人)

性別に見ると、男女共に「知らなかった」が最も高く、男性42.3%、女性は38.4%となっている。

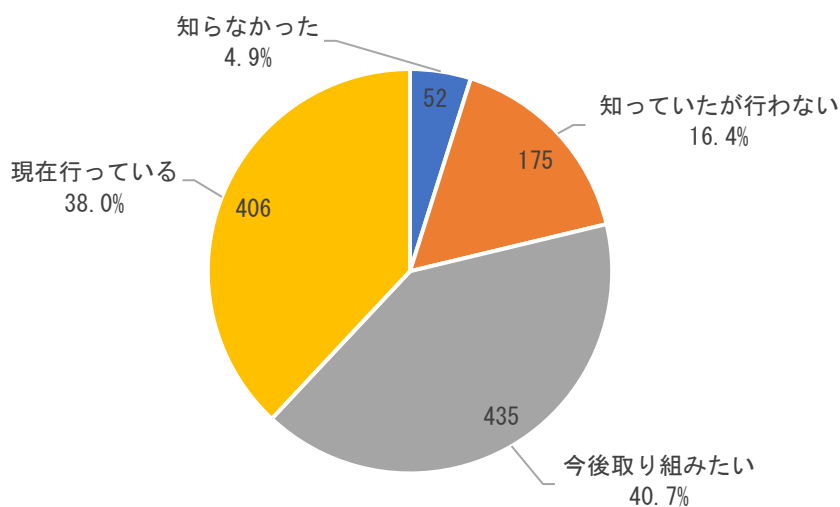
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	233	42.3%	408	38.4%	1	33.3%
知っていたが行わない	78	14.2%	94	8.9%	0	0.0%
今後取り組みたい	188	34.1%	397	37.4%	2	66.7%
現在行っている	52	9.4%	163	15.3%	0	0.0%
回答数	551	100.0%	1062	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「知らなかった」が最も高く、就労あり41.5%、就労なしは36.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	440	41.5%	191	36.3%
知っていたが行わない	104	9.8%	67	12.7%
今後取り組みたい	403	38.0%	175	33.3%
現在行っている	113	10.7%	93	17.7%
回答数	1060	100.0%	526	100.0%

サ 乳がんの自己検診・観察（女性のみ）

「今後取り組みたい」が40.7%で最も高く、次いで「現在行っている」が38.0%、「知っていたが行わない」が16.4%となっている。



（回答者数：1,068人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が42.6%、就労なしは「現在行っている」が38.1%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	37	5.5%	15	4.0%
知っていたが行わない	94	13.9%	79	21.2%
今後取り組みたい	289	42.6%	137	36.7%
現在行っている	258	38.1%	142	38.1%
回答数	678	100.0%	373	100.0%

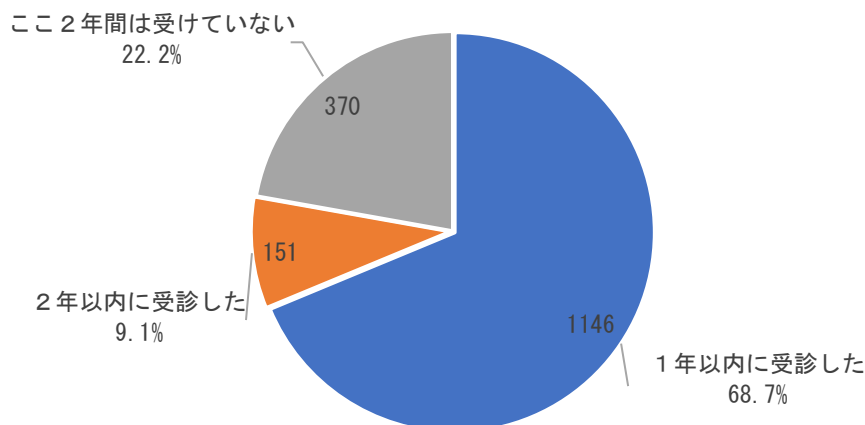
問4 健康診断やがん検診についてお答えください。

(1) 健康診断受診の有無（択一回答）

最近、健康診断を受診したか聞いたところ、「1年以内に受診した」が68.7%となっている。

一方で、「ここ2年間は受けていない」が22.2%となっている。

健康診断受診の有無



(回答者数：1,667人)

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性74.3%、女性は66.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	422	74.3%	720	66.0%	1	33.3%
2年以内に受診した	35	6.2%	115	10.5%	1	33.3%
ここ2年間は受けていない	111	19.5%	256	23.5%	1	33.3%
回答数	568	100.0%	1091	100.0%	3	100.0%

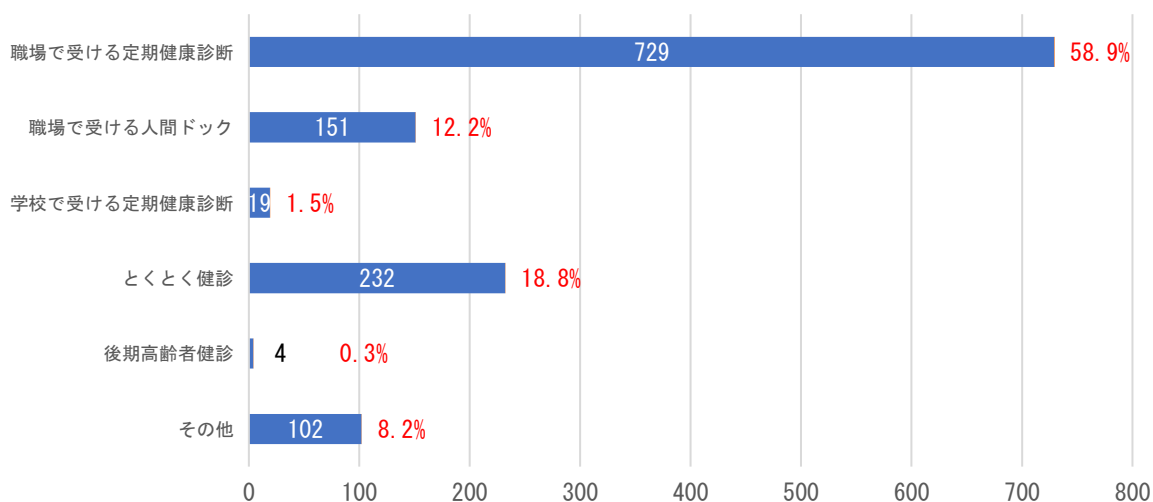
就労別に見ると就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労あり80.1%、就労なしは46.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	867	80.1%	257	46.8%
2年以内に受診した	86	7.9%	62	11.3%
ここ2年間は受けていない	129	11.9%	230	41.9%
回答数	1082	100.0%	549	100.0%

(2) 受診した健康診断（複数回答）

問4(1)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」を選択した回答者に、どこで健康診断を受診したか聞いたところ、「職場で受ける定期健康診断」が58.9%で最も高く、次いで「とくとも健診」が18.8%、「職場で受ける人間ドック」が12.2%となっている。

受診した健康診断（複数回答）



(サンプル計：1,237人)

性別に見ると、男女共に「職場で受ける定期健康診断」が最も高く、男性59.7%、女性は58.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
職場で受ける定期健康診断	261	59.7%	467	58.7%	0	0.0%
職場で受ける人間ドック	75	17.2%	74	9.3%	1	50.0%
学校で受ける定期健康診断	0	0.0%	18	2.3%	1	50.0%
とくとも健診（札幌市の国民健康保険による特定 検診。40～74歳が対象）	72	16.5%	159	20.0%	0	0.0%
後期高齢者健診	1	0.2%	3	0.4%	0	0.0%
その他	28	6.4%	74	9.3%	0	0.0%
回答数	437	100.0%	795	100.0%	2	100.0%

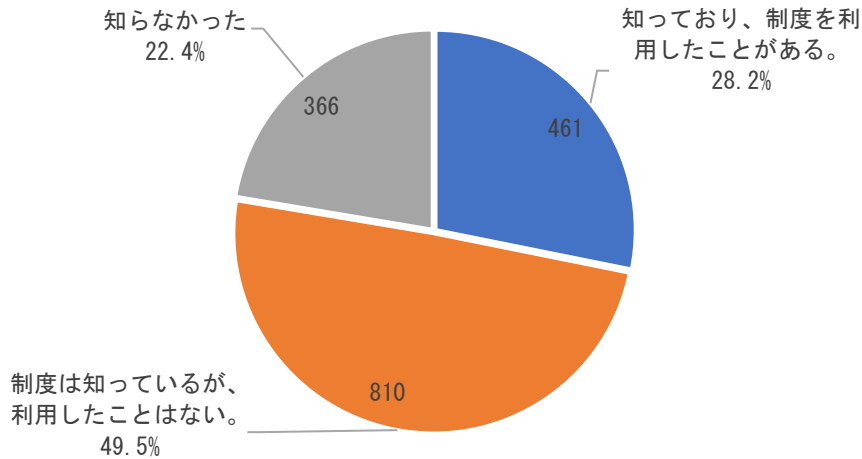
就労別に見ると、就労ありは「職場で受ける定期健康診断」が72.0%、就労なしは「とくとく健診」が52.4%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
職場で受ける定期健康診断	667	72.0%	48	16.6%
職場で受ける人間ドック	131	14.1%	17	5.9%
学校で受ける定期健康診断	5	0.5%	14	4.8%
とくとく健診（札幌市の国民健康保険による特定検診。40～74歳が対象）	78	8.4%	152	52.4%
後期高齢者健診	1	0.1%	3	1.0%
その他	44	4.8%	56	19.3%
回答数	926	100.0%	290	100.0%

(3) 札幌市のがん検診制度について（択一回答）

札幌市実施のがん検診制度について知っているか聞いたところ、「制度は知っているが、利用したことはない」が49.5%で最も高く、「知っており、制度を利用したことがある」は28.2%となっている。

札幌市実施のがん検診制度について



(回答者数：1,637人)

性別に見ると、男女共に「制度は知っているが、利用したことはない」が最も高く、男性57.0%、女性は45.6%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知っており、制度を利用したことがある	60	10.7%	399	37.3%	0	0.0%
制度は知っているが、利用したことはない	320	57.0%	488	45.6%	0	0.0%
知らなかった	181	32.3%	183	17.1%	2	100.0%
回答数	561	100.0%	1070	100.0%	2	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「制度は知っているが、利用したことはない」が最も高く、就労あり49.6%、就労なしは48.6%となっている。

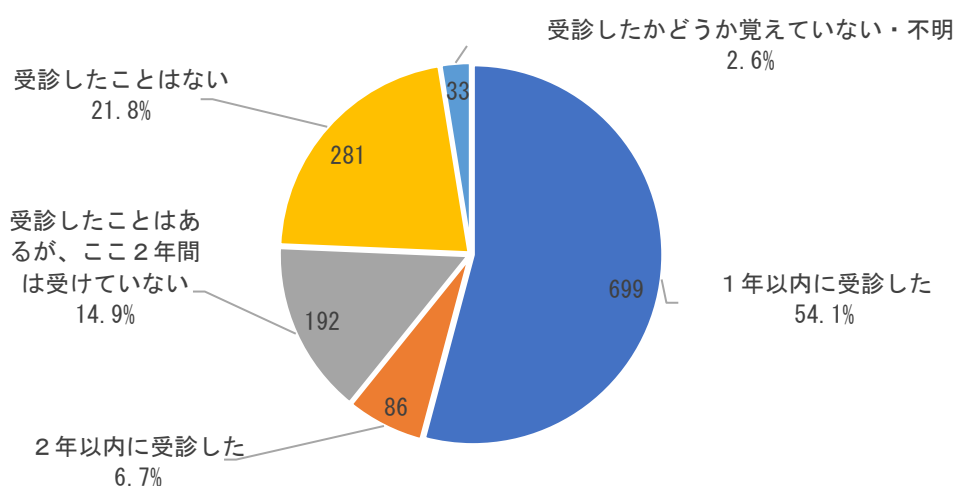
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知っており、制度を利用したことがある。	252	23.8%	202	37.2%
制度は知っているが、利用したことはない。	526	49.6%	264	48.6%
知らなかった	283	26.7%	77	14.2%
回答数	1061	100.0%	543	100.0%

(4) がん検診の受診状況（択一回答）

がん検診の受診状況について、がん検診の種類ごとに聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が54.1%で最も高く。次いで、「受診したことはない」が21.8%となっている。



（回答者数：1,291人）

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性は58.9%、女性は51.0%となっている。

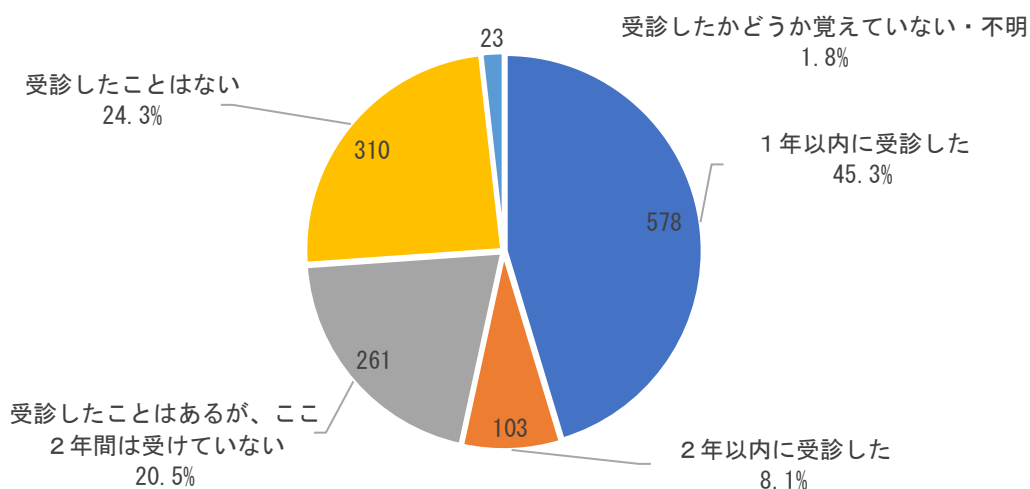
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	302	58.9%	397	51.0%
2年以内に受診した	34	6.6%	52	6.7%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	64	12.5%	128	16.5%
受診したことはない	102	19.9%	179	23.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	11	2.1%	22	2.8%
回答数	513	100.0%	778	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労ありは64.8%、就労なしは35.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	533	64.8%	155	35.0%
2年以内に受診した	44	5.3%	39	8.8%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	64	7.8%	127	28.7%
受診したことはない	164	19.9%	110	24.8%
受診したかどうか覚えていない・不明	18	2.2%	12	2.7%
回答数	823	100.0%	443	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が45.3%で最も高く。次いで「受診したことはない」が24.3%となっている。



（回答者数：1,275人）

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性は51.0%、女性は41.6%となっている。

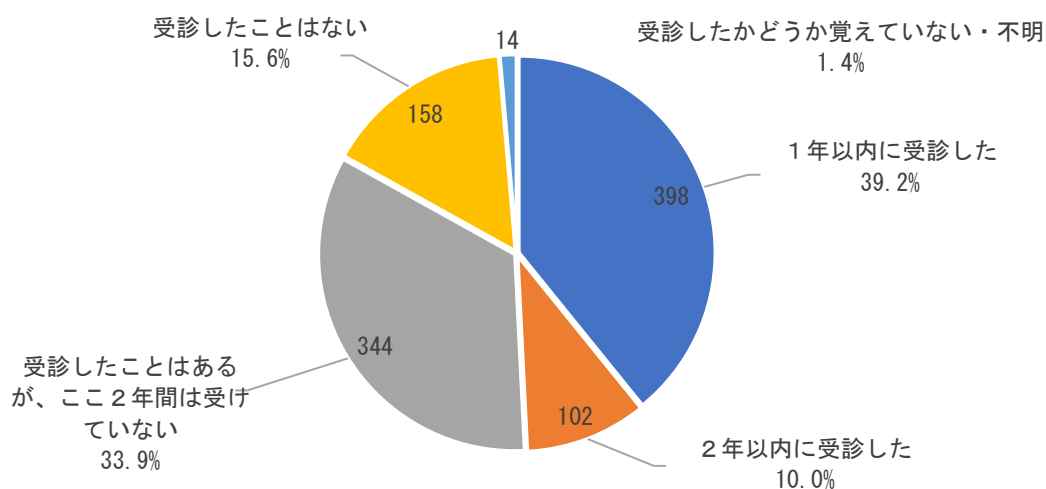
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	257	51.0%	321	41.6%
2年以内に受診した	39	7.7%	64	8.3%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	95	18.8%	166	21.5%
受診したことはない	105	20.8%	205	26.6%
受診したかどうか覚えていない・不明	8	1.6%	15	1.9%
回答数	504	100.0%	771	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労ありは51.7%、就労なしは33.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	422	51.7%	147	33.8%
2年以内に受診した	55	6.7%	43	9.9%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	132	16.2%	126	29.0%
受診したことはない	194	23.7%	110	25.3%
受診したかどうか覚えていない・不明	14	1.7%	9	2.1%
回答数	817	100.0%	435	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が39.2%で最も高く、次いで、「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が33.9%となっている。



（回答者数：1,016人）

性別に見ると、男性は「1年以内に受診した」が48.6%、女性は「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が38.4%で最も高くなっている。

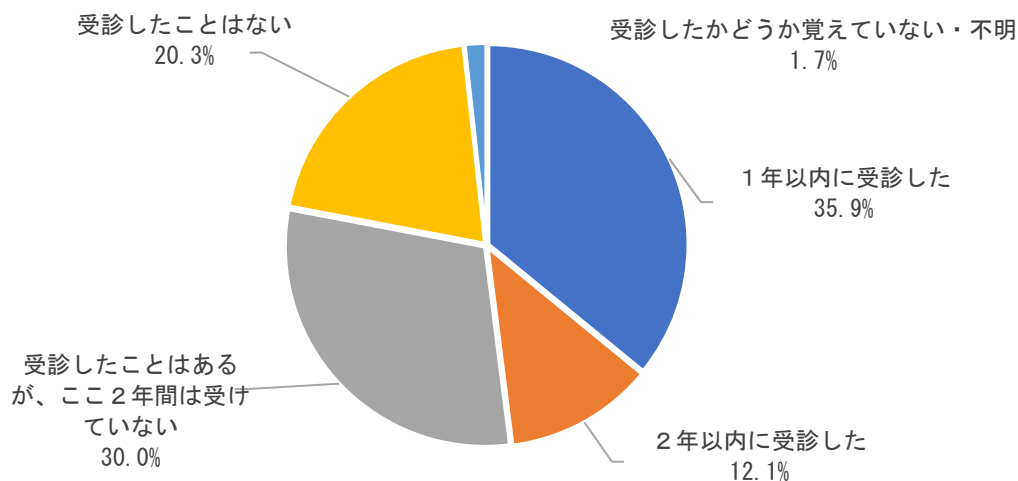
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	209	48.6%	189	32.3%
2年以内に受診した	40	9.3%	62	10.6%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	119	27.7%	225	38.4%
受診したことはない	58	13.5%	100	17.1%
受診したかどうか覚えていない・不明	4	0.9%	10	1.7%
回答数	430	100.0%	586	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が48.1%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が42.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	278	48.1%	113	26.9%
2年以内に受診した	54	9.3%	47	11.2%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	158	27.3%	180	42.9%
受診したことはない	85	14.7%	70	16.7%
受診したかどうか覚えていない・不明	3	0.5%	10	2.4%
回答数	578	100.0%	420	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「1年以内に受診した」が35.9%で最も高く。次いで「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が30.0%となっている。



（回答者数：977人）

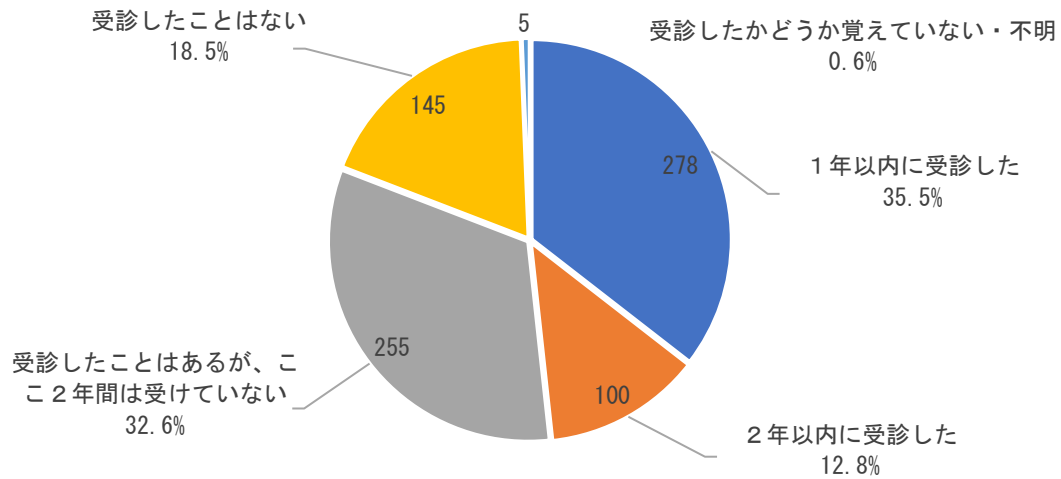
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が41.5%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が32.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	264	41.5%	84	25.6%
2年以内に受診した	70	11.0%	47	14.3%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	181	28.5%	108	32.9%
受診したことはない	112	17.6%	82	25.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	9	1.4%	7	2.1%
回答数	636	100.0%	328	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「1年以内に受診した」が35.5%で最も高く、次いで「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が32.6%となっている。



（回答者数：783人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が43.2%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が38.9%で最も高くなっている。

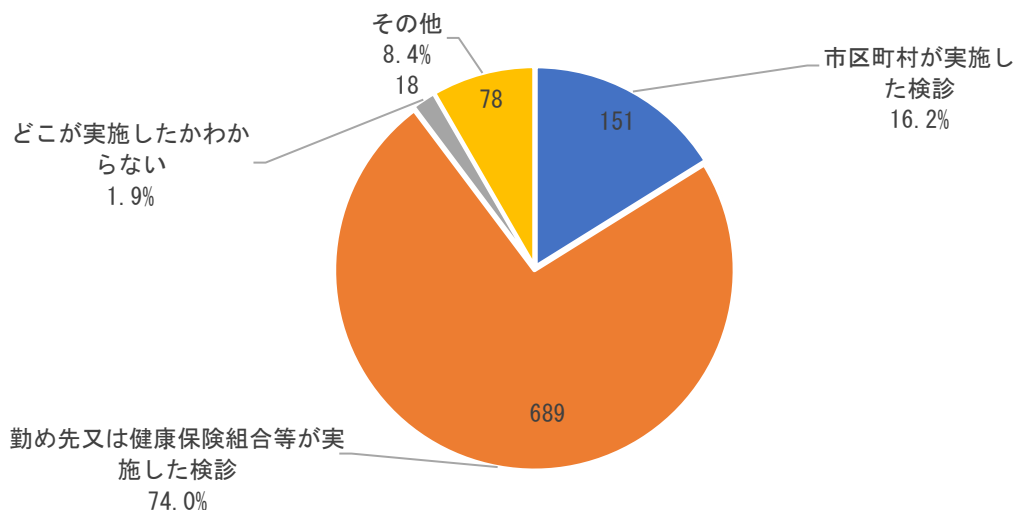
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	205	43.2%	69	23.3%
2年以内に受診した	56	11.8%	43	14.5%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	137	28.9%	115	38.9%
受診したことはない	75	15.8%	65	22.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	1	0.2%	4	1.4%
回答数	474	100.0%	296	100.0%

(5) がん検診の受診先（複数回答）

問4(4)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」「受診したことはあるあるが、ここ2年間は受けていない」を選択した回答者に、がん検診の受診先について聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が74.0%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が16.2%となっている。



（サンプル計：931人）

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は77.2%、女性は71.8%となっている。

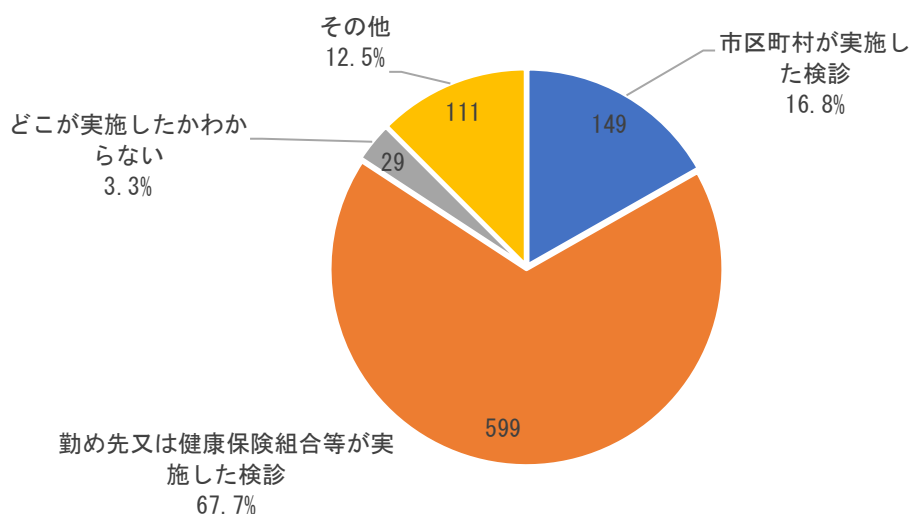
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	55	14.6%	96	17.4%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	292	77.2%	397	71.8%
どこが実施したかわからない	7	1.9%	11	2.0%
その他	26	6.9%	52	9.4%
サンプル計	378	100.0%	553	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは86.3%、就労なしは45.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	53	8.3%	98	35.1%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	552	86.3%	127	45.5%
どこが実施したかわからない	12	1.9%	5	1.8%
その他	27	4.2%	50	17.9%
サンプル計	640	100.0%	279	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が67.7%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が16.8%となっている。



（サンプル計：885人）

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は72.2%、女性は64.5%となっている。

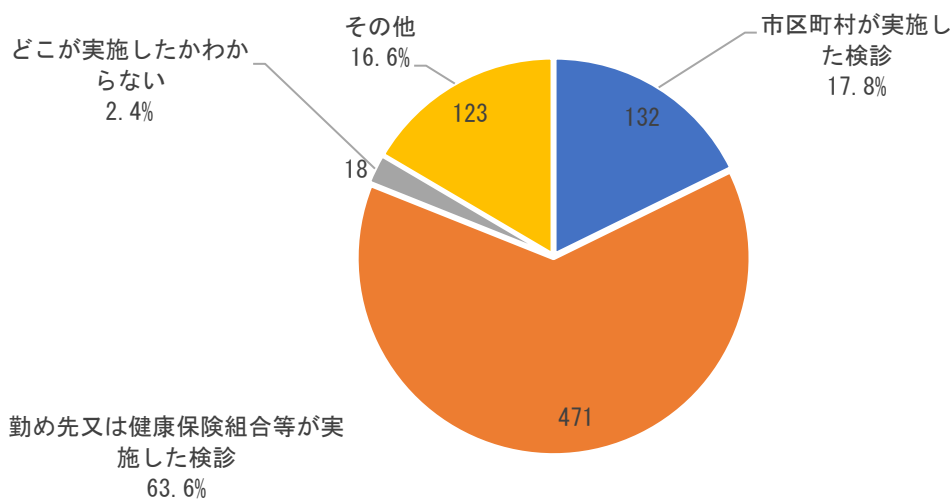
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	52	14.1%	97	18.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	267	72.2%	332	64.5%
どこが実施したかわからない	12	3.2%	17	3.3%
その他	41	11.1%	70	13.6%
サンプル計	370	100.0%	515	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは80.6%、就労なしは39.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	52	8.8%	96	34.4%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	478	80.6%	111	39.8%
どこが実施したかわからない	18	3.0%	11	3.9%
その他	48	8.1%	61	21.9%
サンプル計	593	100.0%	279	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が63.6%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が17.8%となっている。



（サンプル計：741人）

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は72.0%、女性は56.3%となっている。

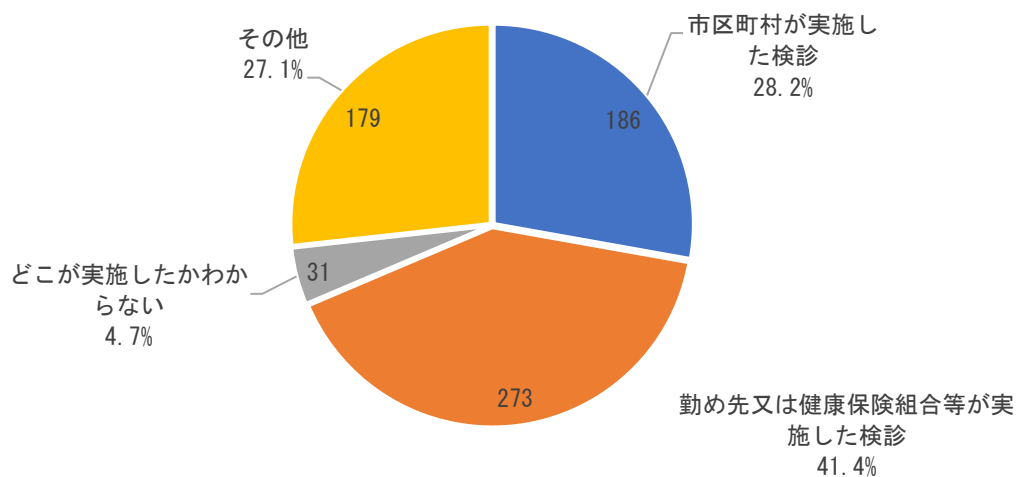
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	50	14.6%	82	20.6%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	247	72.0%	224	56.3%
どこが実施したかわからない	10	2.9%	8	2.0%
その他	38	11.1%	85	21.4%
サンプル計	343	100.0%	398	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは76.1%、就労なしは42.9%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	48	10.6%	84	29.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	343	76.1%	121	42.9%
どこが実施したかわからない	12	2.7%	6	2.1%
その他	49	10.9%	73	25.9%
サンプル計	451	100.0%	282	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が41.4%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が28.2%となっている。



（サンプル計：660人）

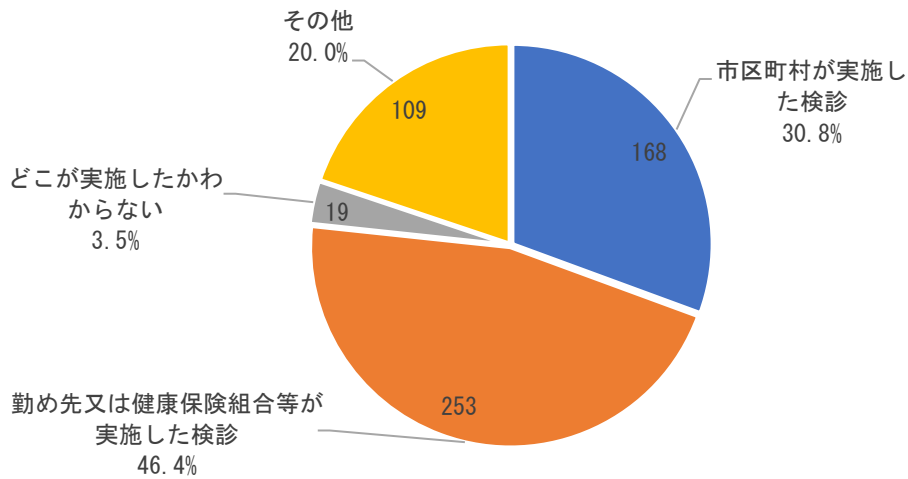
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が45.3%、就労なしは「市区町村が実施した検診」が33.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	116	25.8%	69	33.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	204	45.3%	65	31.9%
どこが実施したかわからない	20	4.4%	10	4.9%
その他	115	25.6%	64	31.4%
サンプル計	450	100.0%	204	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が46.4%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」の30.8%が続いている。



（サンプル計：545人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が51.9%、就労なしは「市区町村が実施した検診」が37.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	95	27.2%	72	37.7%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	181	51.9%	68	35.6%
どこが実施したかわからない	13	3.7%	6	3.1%
その他	61	17.5%	48	25.1%
サンプル計	349	100.0%	191	100.0%

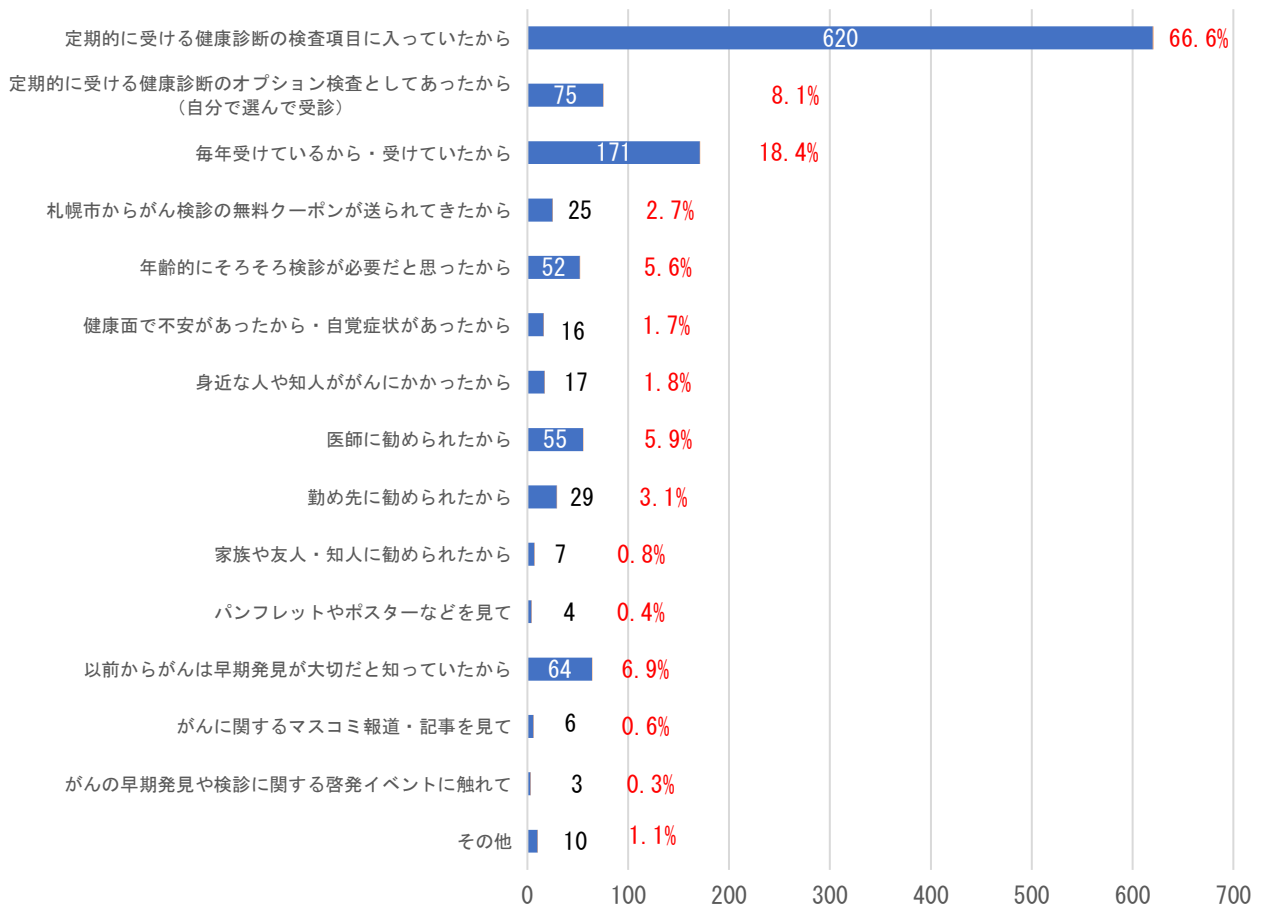
(6) 検診・検査を受診した理由・きっかけ（複数回答）

問4(4)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」「受診したことはあるあるが、ここ2年間は受けていない」を選択した回答者に、検診・検査を受診した理由・きっかけについて聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が66.6%で最も高く。次いで「毎年受けているから・受けていたから」が18.4%となっている。

肺がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：931人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は70.8%、女性は63.8%となっている。

肺がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	264	70.8%	356	63.8%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	30	8.0%	45	8.1%
毎年受けているから・受けていたから	71	19.0%	100	17.9%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	9	2.4%	16	2.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	11	2.9%	41	7.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	6	1.6%	10	1.8%
身近な人や知人ががんにかかったから	3	0.8%	14	2.5%
医師に勧められたから	25	6.7%	30	5.4%
勤め先に勧められたから	10	2.7%	19	3.4%
家族や友人・知人に勧められたから	2	0.5%	5	0.9%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	3	0.5%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	27	7.2%	37	6.6%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.5%	4	0.7%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	1	0.3%	2	0.4%
その他	6	1.6%	4	0.7%
サンプル計	373	100.0%	558	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは76.3%、就労なしは45.0%となっている。

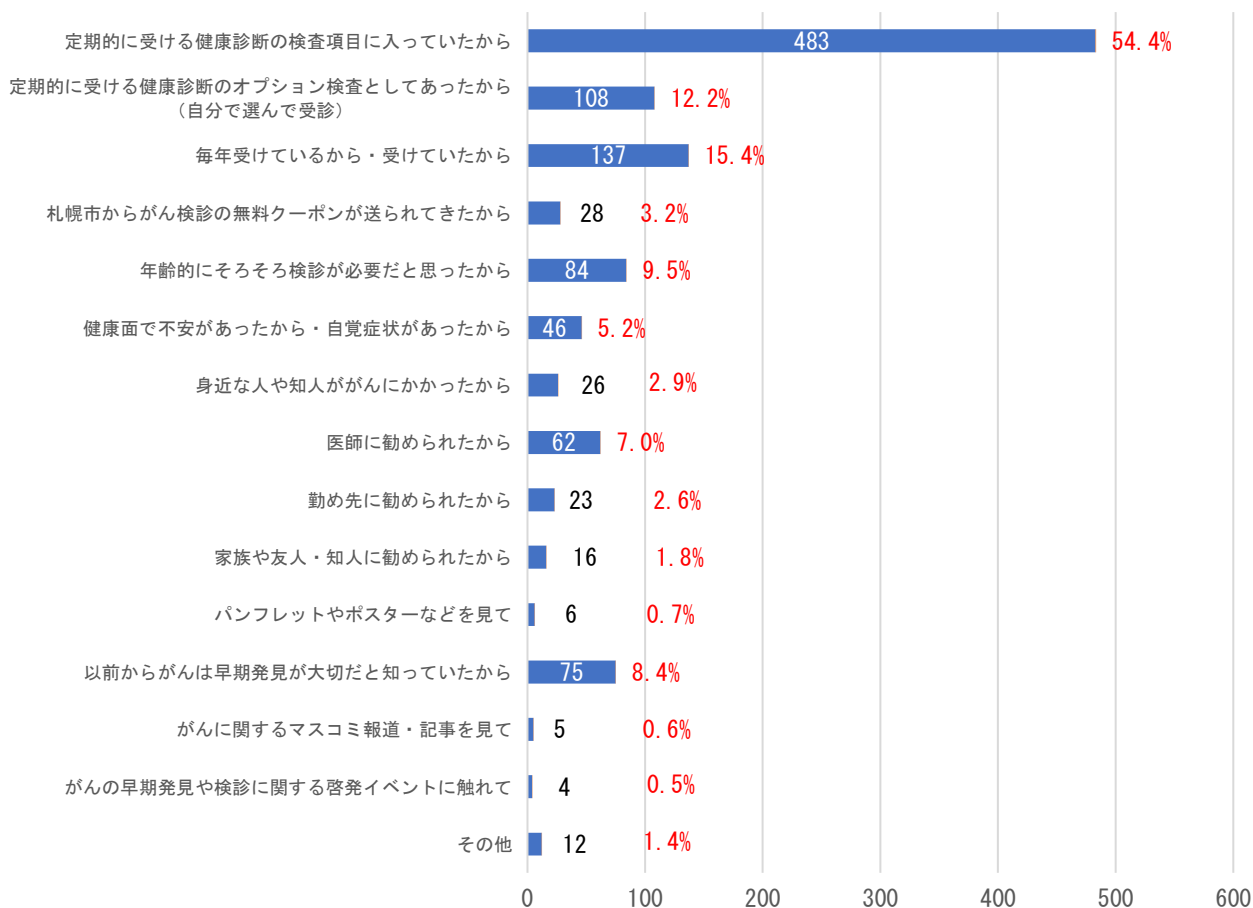
肺がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	480	76.3%	130	45.0%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	42	6.7%	32	11.1%
毎年受けているから・受けていたから	105	16.7%	64	22.1%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	7	1.1%	18	6.2%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	28	4.5%	24	8.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	7	1.1%	9	3.1%
身近な人や知人ががんにかかったから	12	1.9%	5	1.7%
医師に勧められたから	18	2.9%	36	12.5%
勤め先に勧められたから	19	3.0%	10	3.5%
家族や友人・知人に勧められたから	2	0.3%	4	1.4%
パンフレットやポスターなどを見て	0	0.0%	4	1.4%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	30	4.8%	33	11.4%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.3%	4	1.4%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	2	0.3%	1	0.3%
その他	6	1.0%	4	1.4%
サンプル計	629	100.0%	289	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が54.4%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が15.4%となっている。

大腸がん検診を受けた理由（複数回答）



（サンプル計：888人）

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は61.9%、女性は49.2%となっている。

大腸がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	224	61.9%	259	49.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	41	11.3%	67	12.7%
毎年受けているから・受けていたから	59	16.3%	78	14.8%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	13	3.6%	15	2.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	24	6.6%	60	11.4%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	12	3.3%	34	6.5%
身近な人や知人ががんにかかったから	5	1.4%	21	4.0%
医師に勧められたから	25	6.9%	37	7.0%
勤め先に勧められたから	10	2.8%	13	2.5%
家族や友人・知人に勧められたから	5	1.4%	11	2.1%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	5	1.0%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	28	7.7%	47	8.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	1	0.3%	4	0.8%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	2	0.6%	2	0.4%
その他	6	1.7%	6	1.1%
サンプル計	362	100.0%	526	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは64.5%、就労なしは33.2%となっている。

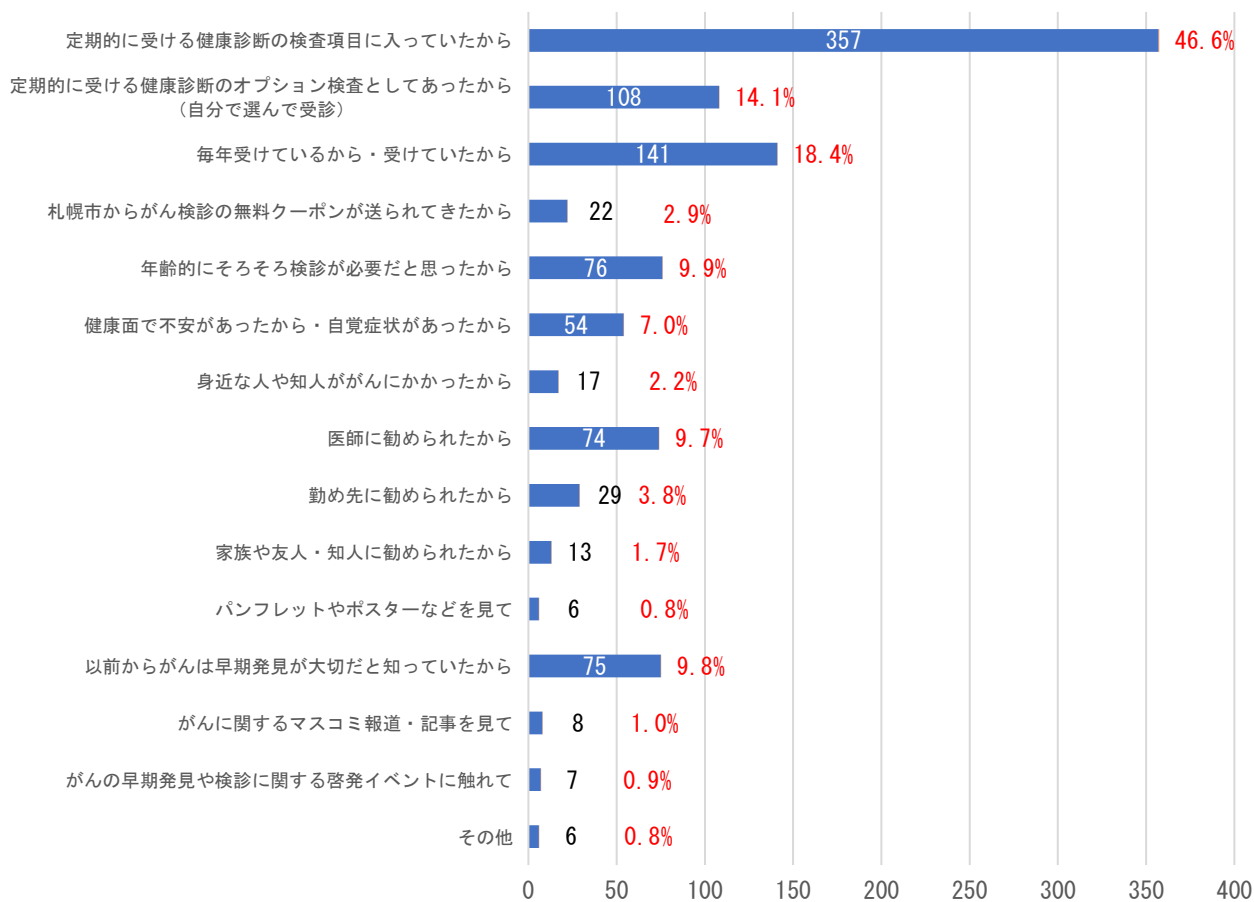
大腸がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	379	64.5%	95	33.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	58	9.9%	49	17.1%
毎年受けているから・受けていたから	81	13.8%	54	18.9%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	13	2.2%	14	4.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	47	8.0%	37	12.9%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	25	4.3%	21	7.3%
身近な人や知人ががんにかかったから	16	2.7%	10	3.5%
医師に勧められたから	25	4.3%	36	12.6%
勤め先に勧められたから	16	2.7%	7	2.4%
家族や友人・知人に勧められたから	9	1.5%	6	2.1%
パンフレットやポスターなどを見て	3	0.5%	3	1.0%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	40	6.8%	34	11.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.3%	3	1.0%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	3	0.5%	1	0.3%
その他	5	0.9%	6	2.1%
サンプル計	588	100.0%	286	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が46.6%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が18.4%となっている。

胃がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：766人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は59.1%、女性は36.6%となっている。

胃がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	201	59.1%	156	36.6%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	43	12.6%	65	15.3%
毎年受けているから・受けていたから	65	19.1%	76	17.8%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	11	3.2%	11	2.6%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	22	6.5%	54	12.7%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	11	3.2%	43	10.1%
身近な人や知人ががんにかかったから	1	0.3%	16	3.8%
医師に勧められたから	33	9.7%	41	9.6%
勤め先に勧められたから	16	4.7%	13	3.1%
家族や友人・知人に勧められたから	3	0.9%	10	2.3%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	5	1.2%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	30	8.8%	45	10.6%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.6%	6	1.4%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	1	0.3%	6	1.4%
その他	2	0.6%	4	0.9%
サンプル計	340	100.0%	426	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは55.9%、就労なしは31.3%となっている。

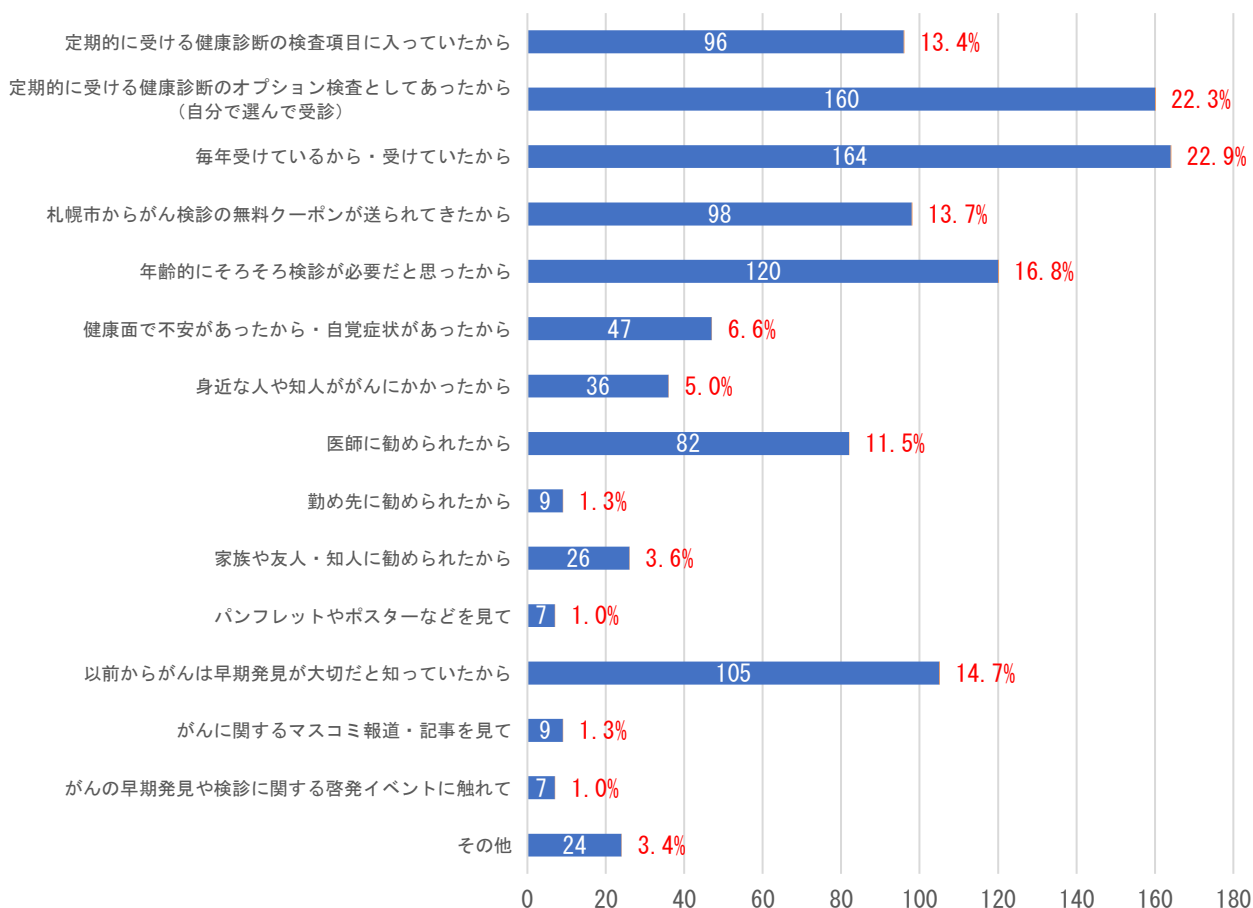
胃がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	255	55.9%	94	31.3%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	69	15.1%	39	13.0%
毎年受けているから・受けていたから	82	18.0%	58	19.3%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	11	2.4%	11	3.7%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	39	8.6%	37	12.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	26	5.7%	27	9.0%
身近な人や知人ががんにかかったから	9	2.0%	8	2.7%
医師に勧められたから	32	7.0%	41	13.7%
勤め先に勧められたから	15	3.3%	14	4.7%
家族や友人・知人に勧められたから	5	1.1%	7	2.3%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.2%	5	1.7%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	33	7.2%	41	13.7%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.4%	6	2.0%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	4	0.9%	3	1.0%
その他	2	0.4%	4	1.3%
サンプル計	456	100.0%	300	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「毎年受けているから・受けていたから」が22.9%で最も高く、次いで「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が22.3%となっている。

子宮（頸）がん検診を受けた理由（複数回答）



（サンプル計：716人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が23.6%、就労なしは「毎年受けているから・受けていたから」が25.0%で最も高くなっている。

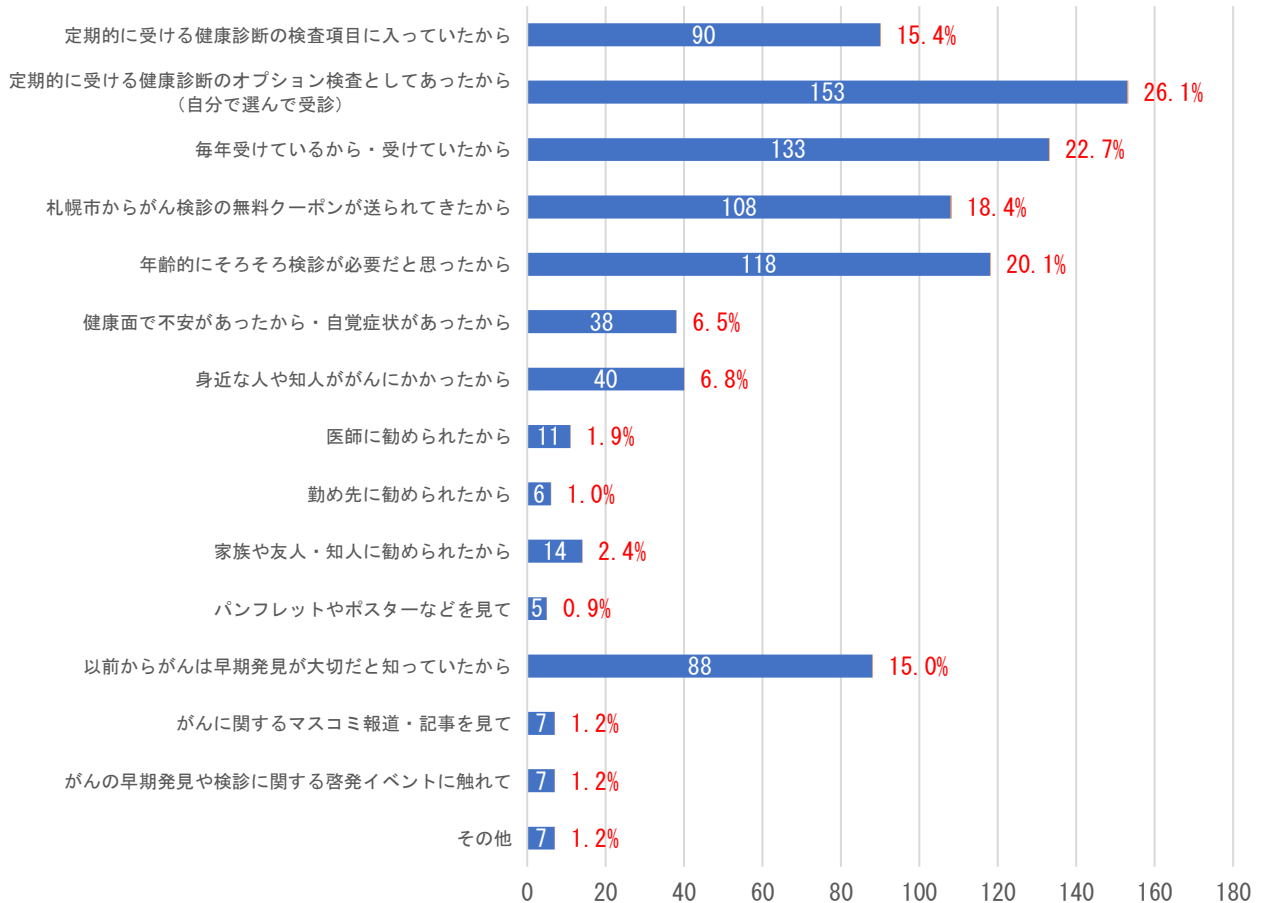
子宮（頸）がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	70	14.5%	24	10.7%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	114	23.6%	45	20.1%
毎年受けているから・受けていたから	106	21.9%	56	25.0%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	76	15.7%	21	9.4%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	76	15.7%	43	19.2%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	36	7.4%	10	4.5%
身近な人や知人ががんにかかったから	21	4.3%	14	6.3%
医師に勧められたから	52	10.7%	29	12.9%
勤め先に勧められたから	7	1.4%	2	0.9%
家族や友人・知人に勧められたから	22	4.5%	4	1.8%
パンフレットやポスターなどを見て	2	0.4%	5	2.2%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	60	12.4%	43	19.2%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	4	0.8%	5	2.2%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	4	0.8%	3	1.3%
その他	18	3.7%	6	2.7%
サンプル計	484	100.0%	224	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が26.1%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が22.7%となっている。

乳がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：586人)

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が26.5%、就労なしは「毎年受けているから・受けていたから」が26.2%で最も高くなっている。

乳がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	67	18.0%	21	10.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	99	26.5%	53	25.7%
毎年受けているから・受けていたから	77	20.6%	54	26.2%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	70	18.8%	36	17.5%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	76	20.4%	41	19.9%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	28	7.5%	9	4.4%
身近な人や知人ががんにかかったから	27	7.2%	13	6.3%
医師に勧められたから	7	1.9%	4	1.9%
勤め先に勧められたから	4	1.1%	2	1.0%
家族や友人・知人に勧められたから	10	2.7%	4	1.9%
パンフレットやポスターなどを見て	2	0.5%	3	1.5%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	47	12.6%	39	18.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	4	1.1%	3	1.5%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	5	1.3%	2	1.0%
その他	3	0.8%	4	1.9%
サンプル計	373	100.0%	206	100.0%

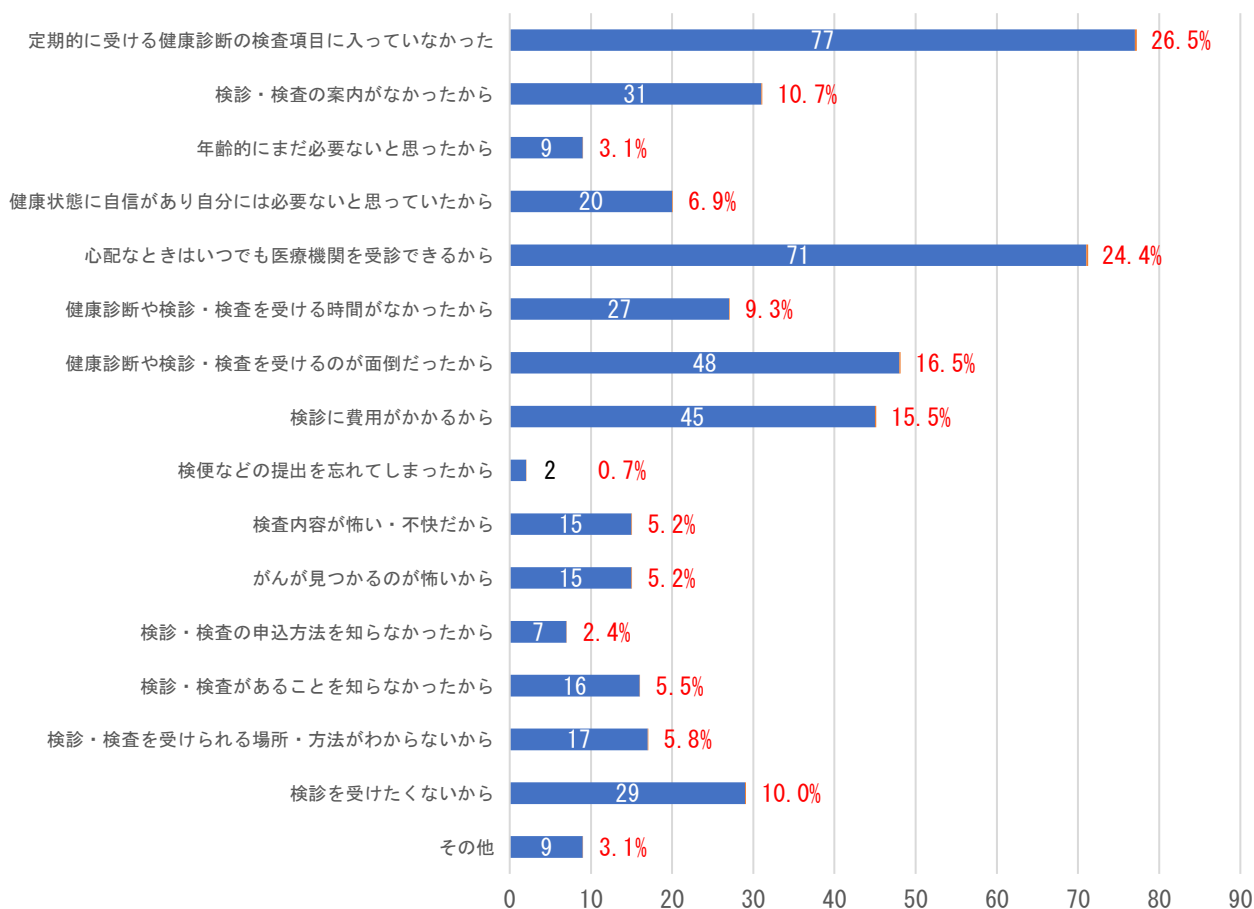
(7) 検診・検査を受診しない理由（複数回答）

問4(4)で「受診したことはない」「受診したかどうか覚えてない・不明」を選択した回答者に、検診・検査を受診しない理由について聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が26.5%で最も高く、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が24.4%となっている。

肺がん検診を受けていない理由（複数回答）



(サンプル計：291人)

性別に見ると、男性は「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が39.3%、女性は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が27.9%で最も高くなっている。

肺がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	44	39.3%	33	18.4%
検診・検査の案内がなかったから	17	15.2%	14	7.8%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	2	1.8%	7	3.9%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	4	3.6%	16	8.9%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	21	18.8%	50	27.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	9	8.0%	18	10.1%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	18	16.1%	30	16.8%
検診に費用がかかるから	17	15.2%	28	15.6%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.9%	1	0.6%
検査内容が怖い・不快だから	7	6.3%	8	4.5%
がんが見つかるのが怖いから	6	5.4%	9	5.0%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	5	4.5%	2	1.1%
検診・検査があることを知らなかったから	8	7.1%	8	4.5%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	11	9.8%	6	3.4%
検診を受けたくないから	12	10.7%	17	9.5%
その他	0	0.0%	9	5.0%
サンプル計	112	100.0%	179	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が37.0%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が34.2%で最も高くなっている。

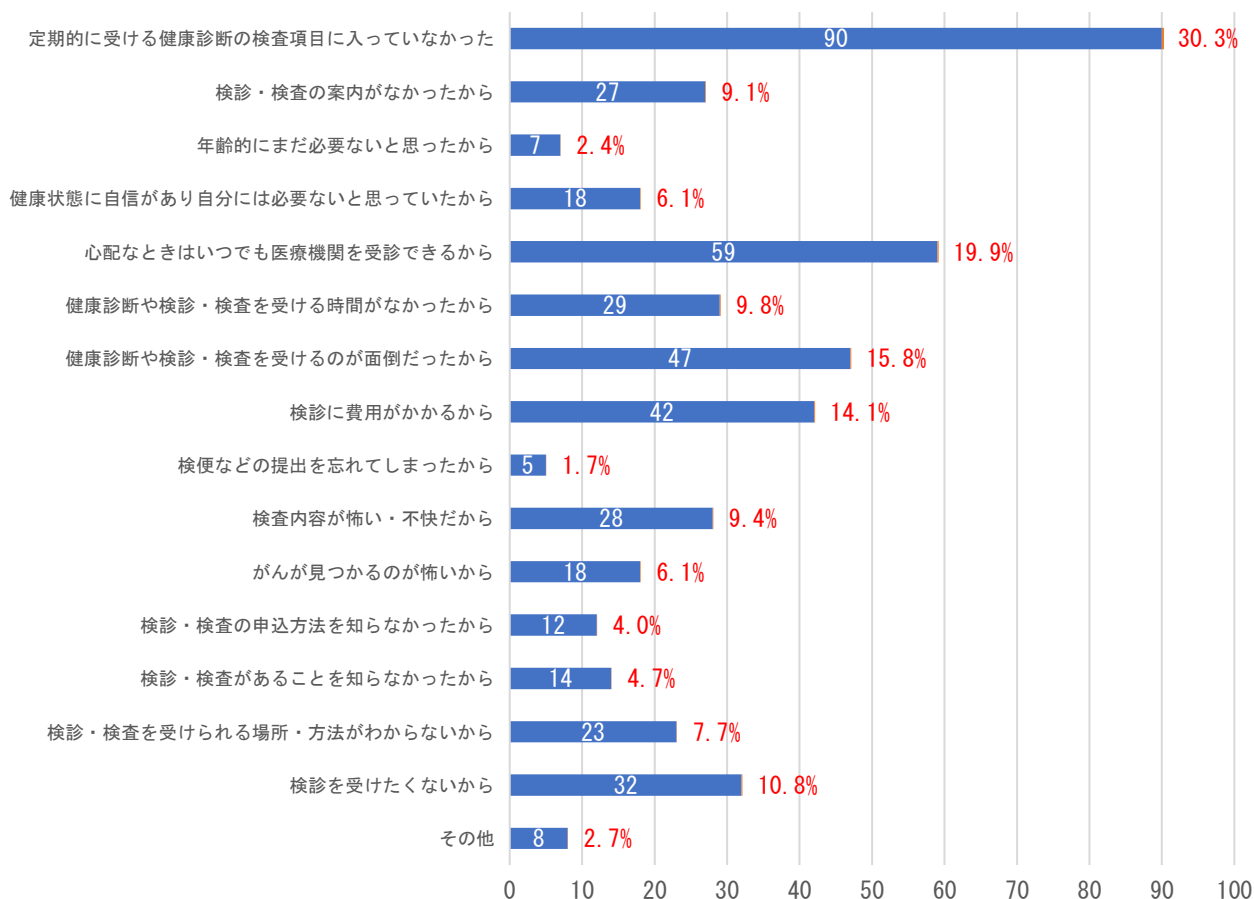
肺がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	61	37.0%	14	11.7%
検診・検査の案内がなかったから	24	14.5%	7	5.8%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	5	3.0%	3	2.5%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	9	5.5%	10	8.3%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	29	17.6%	41	34.2%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	21	12.7%	5	4.2%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	22	13.3%	25	20.8%
検診に費用がかかるから	35	21.2%	9	7.5%
検便などの提出を忘れてしまったから	2	1.2%	0	0.0%
検査内容が怖い・不快だから	6	3.6%	9	7.5%
がんが見つかるのが怖いから	10	6.1%	5	4.2%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	4	2.4%	2	1.7%
検診・検査があることを知らなかったから	10	6.1%	6	5.0%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	10	6.1%	5	4.2%
検診を受けたくないから	11	6.7%	16	13.3%
その他	3	1.8%	6	5.0%
サンプル計	165	100.0%	120	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が30.3%で最も高く、次いで「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」で19.9%となっている。

大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：297人）

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が最も高く、男性は42.2%、女性は23.4%となっている。

大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	46	42.2%	44	23.4%
検診・検査の案内がなかったから	14	12.8%	13	6.9%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	1	0.9%	6	3.2%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	3	2.8%	15	8.0%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	16	14.7%	43	22.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	13	11.9%	16	8.5%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	18	16.5%	29	15.4%
検診に費用がかかるから	17	15.6%	25	13.3%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.9%	4	2.1%
検査内容が怖い・不快だから	5	4.6%	23	12.2%
がんが見つかるのが怖いから	4	3.7%	14	7.4%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	9	8.3%	3	1.6%
検診・検査があることを知らなかったから	8	7.3%	6	3.2%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	14	12.8%	9	4.8%
検診を受けたくないから	10	9.2%	22	11.7%
その他	1	0.9%	7	3.7%
サンプル計	109	100.0%	188	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が38.2%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が27.4%で最も高くなっている。

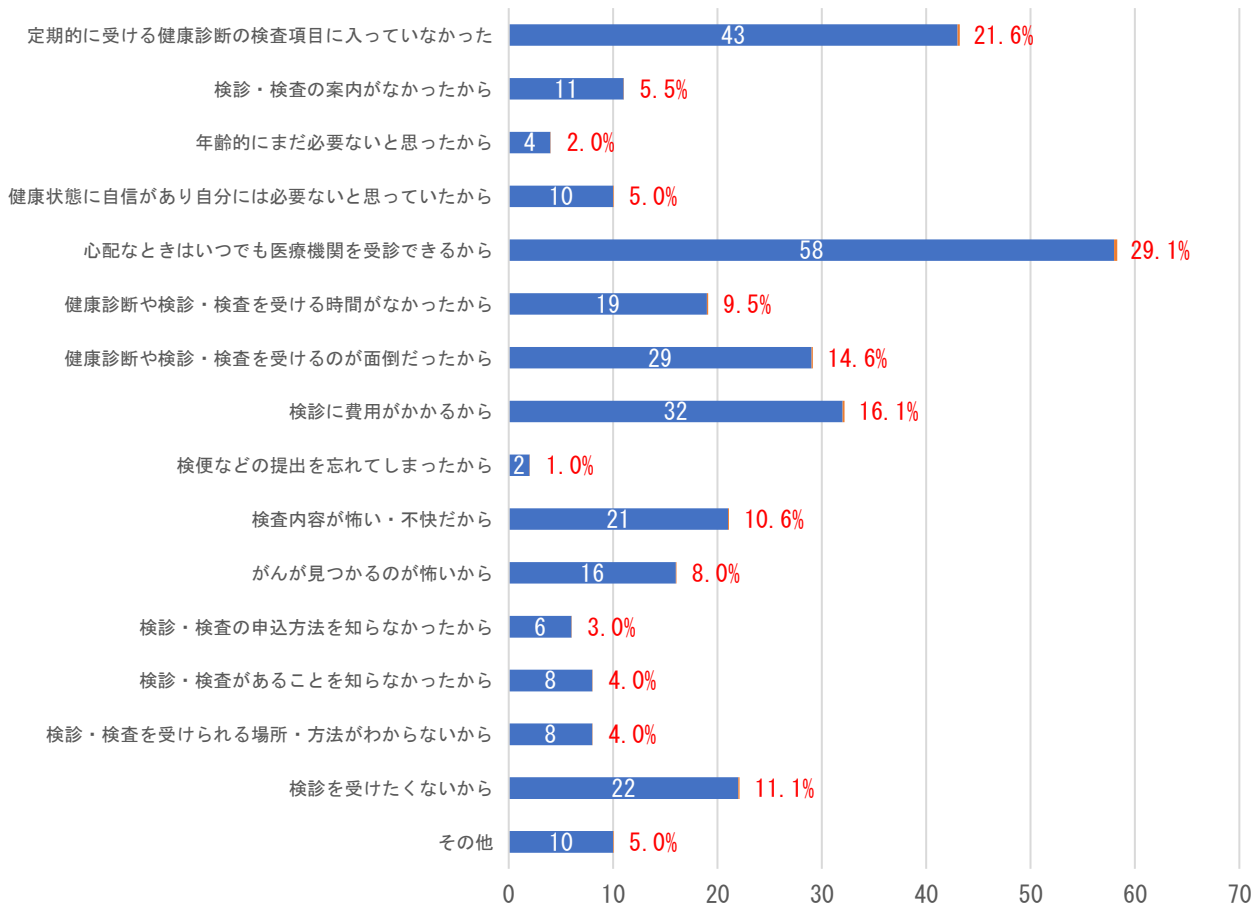
大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	68	38.2%	19	16.8%
検診・検査の案内がなかったから	22	12.4%	5	4.4%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	4	2.2%	3	2.7%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	9	5.1%	8	7.1%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	27	15.2%	31	27.4%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	27	15.2%	1	0.9%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	24	13.5%	21	18.6%
検診に費用がかかるから	31	17.4%	9	8.0%
検便などの提出を忘れてしまったから	4	2.2%	1	0.9%
検査内容が怖い・不快だから	13	7.3%	15	13.3%
がんが見つかるのが怖いから	12	6.7%	6	5.3%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	7	3.9%	3	2.7%
検診・検査があることを知らなかったから	8	4.5%	5	4.4%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	13	7.3%	7	6.2%
検診を受けたくないから	12	6.7%	19	16.8%
その他	3	1.7%	5	4.4%
サンプル計	178	100.0%	113	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が29.1%で最も高く、次いで「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」の21.6%となっている。

胃がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：199人）

性別に見ると、男性は「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が29.5%、女性は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が33.9%で最も高くなっている。

胃がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	23	29.5%	20	16.5%
検診・検査の案内がなかったから	8	10.3%	3	2.5%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	4	5.1%	0	0.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	4	5.1%	6	5.0%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	17	21.8%	41	33.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	6	7.7%	13	10.7%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	9	11.5%	20	16.5%
検診に費用がかかるから	13	16.7%	19	15.7%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	1.3%	1	0.8%
検査内容が怖い・不快だから	5	6.4%	16	13.2%
がんが見つかるのが怖いから	5	6.4%	11	9.1%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	5	6.4%	1	0.8%
検診・検査があることを知らなかったから	4	5.1%	4	3.3%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	6	7.7%	2	1.7%
検診を受けたくないから	8	10.3%	14	11.6%
その他	3	3.8%	7	5.8%
サンプル計	78	100.0%	121	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が35.1%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が38.8%で最も高くなっている。

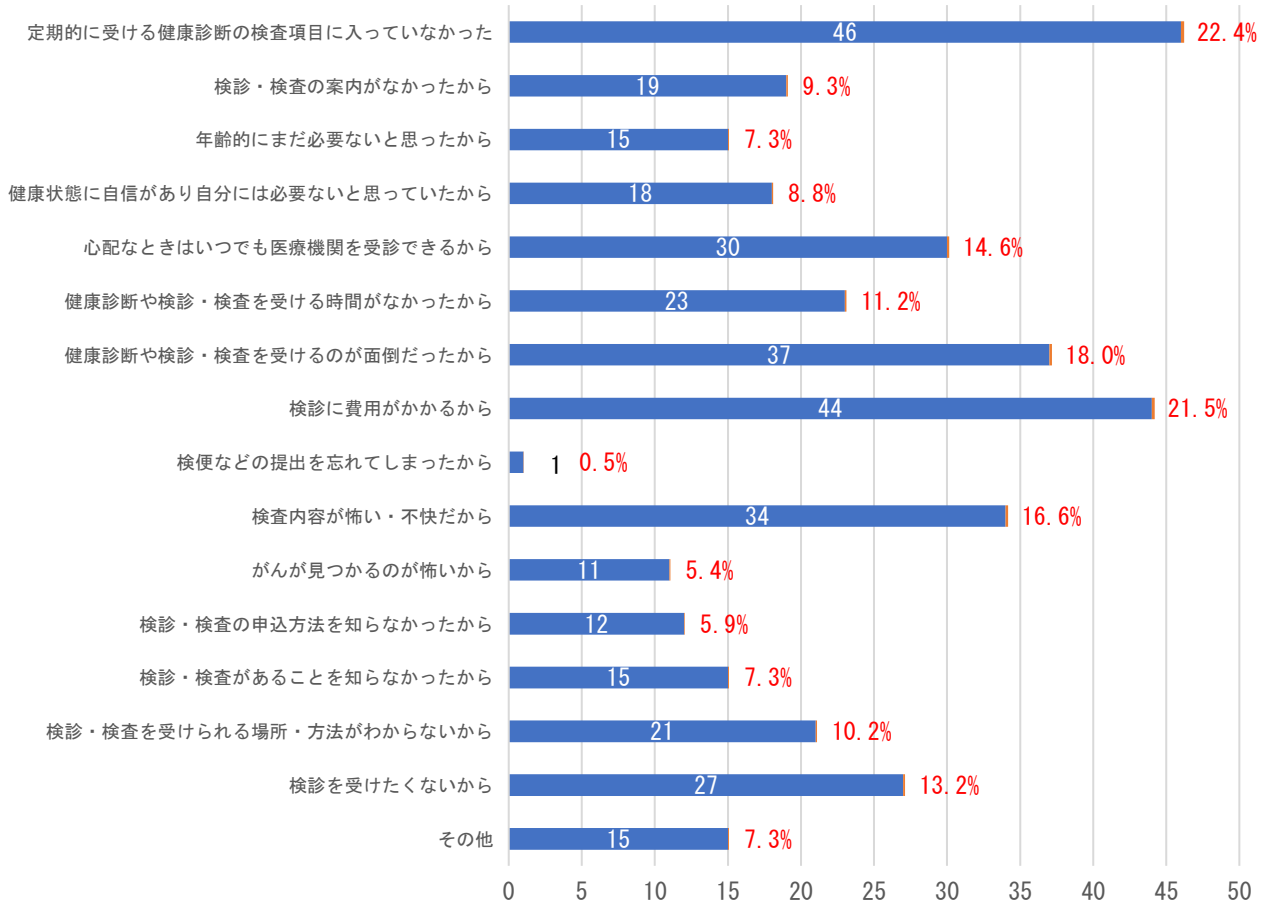
胃がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	34	35.1%	9	9.2%
検診・検査の案内がなかったから	9	9.3%	2	2.0%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	2	2.1%	1	1.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	5	5.2%	5	5.1%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	19	19.6%	38	38.8%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	14	14.4%	5	5.1%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	11	11.3%	17	17.3%
検診に費用がかかるから	21	21.6%	11	11.2%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	1.0%	1	1.0%
検査内容が怖い・不快だから	9	9.3%	12	12.2%
がんが見つかるのが怖いから	9	9.3%	7	7.1%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	4	4.1%	2	2.0%
検診・検査があることを知らなかったから	5	5.2%	3	3.1%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	6	6.2%	1	1.0%
検診を受けたくないから	8	8.2%	14	14.3%
その他	4	4.1%	6	6.1%
サンプル計	97	100.0%	98	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が22.4%で最も高く、次いで「検査に費用がかかるから」が21.5%となっている。

子宮（頸）がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：205人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が27.1%、就労なしは「健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから」が22.6%で最も高くなっている。

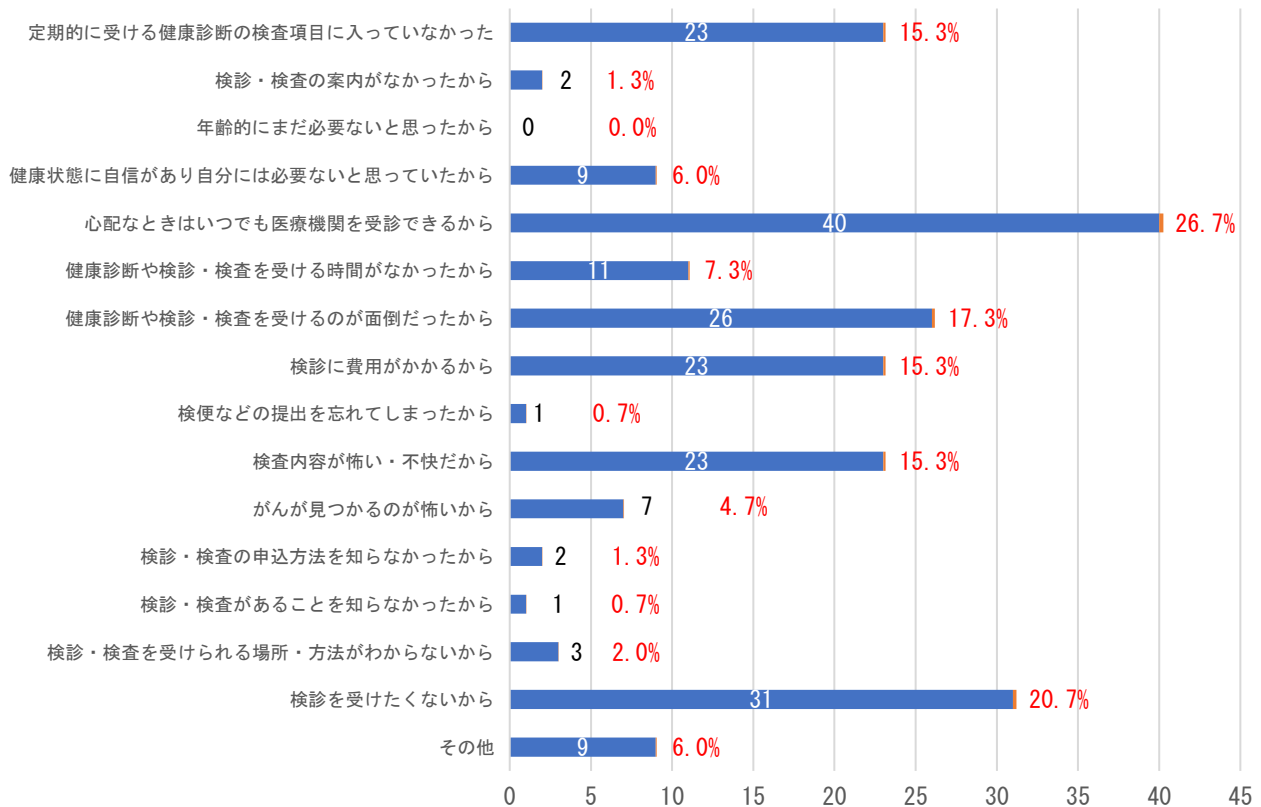
子宮（頸）がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	32	27.1%	13	15.5%
検診・検査の案内がなかったから	10	8.5%	8	9.5%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	9	7.6%	6	7.1%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	11	9.3%	7	8.3%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	14	11.9%	16	19.0%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	18	15.3%	5	6.0%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	17	14.4%	19	22.6%
検診に費用がかかるから	28	23.7%	14	16.7%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.8%	0	0.0%
検査内容が怖い・不快だから	21	17.8%	13	15.5%
がんが見つかるのが怖いから	9	7.6%	2	2.4%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	7	5.9%	5	6.0%
検診・検査があることを知らなかったから	8	6.8%	6	7.1%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	12	10.2%	8	9.5%
検診を受けたくないから	13	11.0%	14	16.7%
その他	7	5.9%	8	9.5%
サンプル計	118	100.0%	84	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が26.7%で最も高く、次いで「検診を受けたくないから」が20.7%となっている。

乳がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：150人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

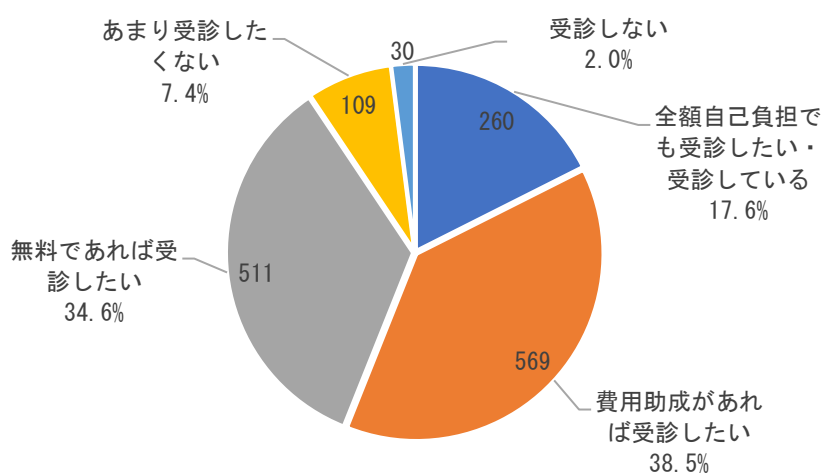
就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が25.0%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が36.6%で最も高くなっている。

乳がん検診を受けていない理由(複数回答)

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	19	25.0%	3	4.2%
検診・検査の案内がなかったから	2	2.6%	0	0.0%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	0	0.0%	0	0.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	3	3.9%	6	8.5%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	14	18.4%	26	36.6%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	10	13.2%	1	1.4%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	14	18.4%	12	16.9%
検診に費用がかかるから	16	21.1%	7	9.9%
検便などの提出を忘れてしまったから	0	0.0%	1	1.4%
検査内容が怖い・不快だから	11	14.5%	12	16.9%
がんが見つかるのが怖いから	4	5.3%	3	4.2%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	2	2.6%	0	0.0%
検診・検査があることを知らなかったから	1	1.3%	0	0.0%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	2	2.6%	0	0.0%
検診を受けたくないから	14	18.4%	16	22.5%
その他	3	3.9%	6	8.5%
サンプル計	76	100.0%	71	100.0%

(8) がん検診の受診についての考え方（択一回答）

がん検診を定期的に受診したいか聞いたところ「費用助成があれば受診したい」が38.5%で最も高く、次いで、「無料であれば受診したい」が34.6%となっている。



（回答者数：1,479人）

性別に見ると、男性は「無料であれば受診したい」が36.6%、女性は「費用助成があれば受診したい」が40.5%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
全額自己負担でも受診したい・受診している	95	18.8%	165	17.0%	0	0.0%
費用助成があれば受診したい	176	34.9%	392	40.5%	0	0.0%
無料であれば受診したい	185	36.6%	322	33.3%	3	100.0%
あまり受診したくない	39	7.7%	70	7.2%	0	0.0%
受診しない	10	2.0%	19	2.0%	0	0.0%
回答数	505	100.0%	968	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「費用助成があれば受診したい」が最も高く、就労ありは40.5%、就労なしは35.8%となっている。

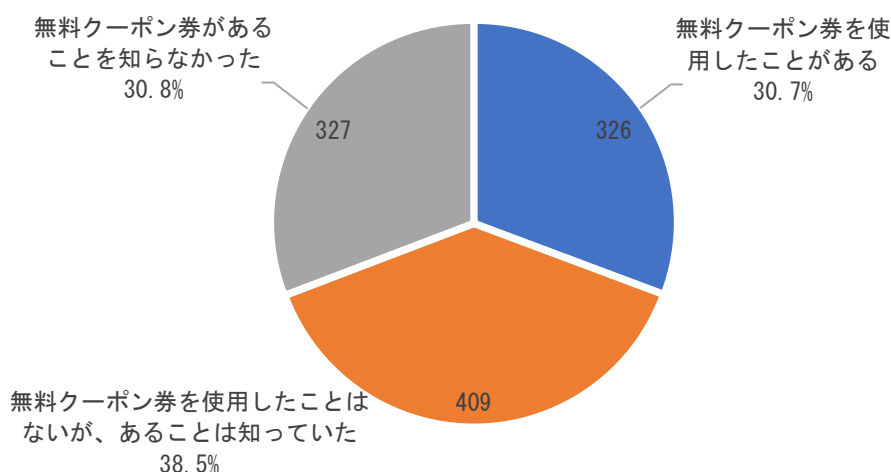
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
全額自己負担でも受診したい・受診している	162	17.1%	97	19.4%
費用助成があれば受診したい	384	40.5%	179	35.8%
無料であれば受診したい	344	36.3%	149	29.8%
あまり受診したくない	45	4.8%	59	11.8%
受診しない	12	1.3%	16	3.2%
回答数	947	100.0%	500	100.0%

(9) 「がん検診無料クーポン事業」について（択一回答）

女性の回答者に、札幌市が配布する【子宮頸がん検診無料クーポン券】及び【乳がん検診無料クーポン券】の利用経験について聞いた。

ア 子宮頸がん検診

「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が38.5%で最も高く、次いで「無料クーポン券があることを知らなかった」が30.8%、「無料クーポン券を使用したことがある」が30.7%となっている。



(回答者数：1,062人)

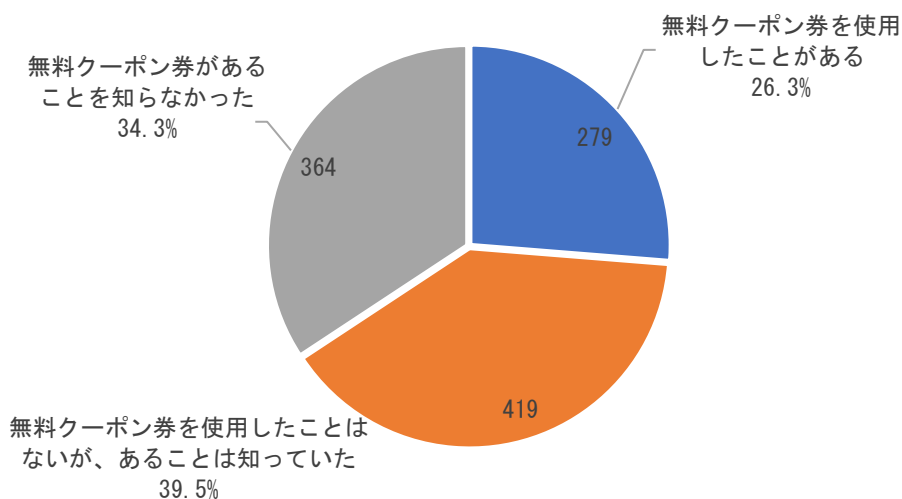
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありなし共に「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が最も高く、どちらも38.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
無料クーポン券を使用したことがある	234	34.9%	89	23.6%
無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた	259	38.7%	146	38.7%
無料クーポン券があることを知らなかった	177	26.4%	142	37.7%
回答数	670	100.0%	377	100.0%

イ 乳がん検診について（択一回答）

「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が39.5%で最も高く、次いで「無料クーポン券があることを知らなかった」が34.3%、「無料クーポン券を使用したことがある」が26.3%となっている。



（回答者数：1,062人）

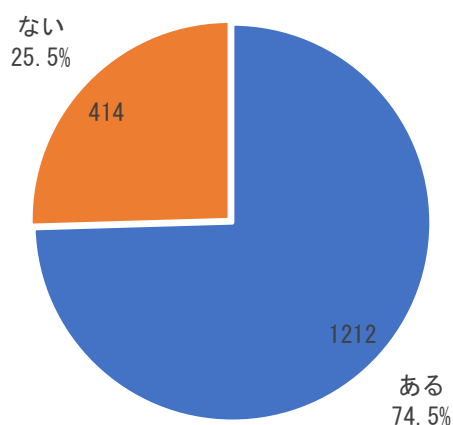
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が41.4%、就労なしは「無料クーポン券があることを知らなかった」が39.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
無料クーポン券を使用したことがある	185	27.7%	90	23.7%
無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた	276	41.4%	139	36.6%
無料クーポン券があることを知らなかった	206	30.9%	151	39.7%
回答数	667	100.0%	380	100.0%

(10) がん検診の受診促進情報について（択一回答）

がん検診を勧める情報を見聞きした経験があるか聞いたところ、74.5%が「ある」と回答した。



（回答者数：1,626人）

性別に見ると、男女共に「ある」が最も高く、男性は63.4%、女性は80.4%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	348	63.4%	859	80.4%	1	33.3%
ない	201	36.6%	210	19.6%	2	66.7%
回答数	549	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

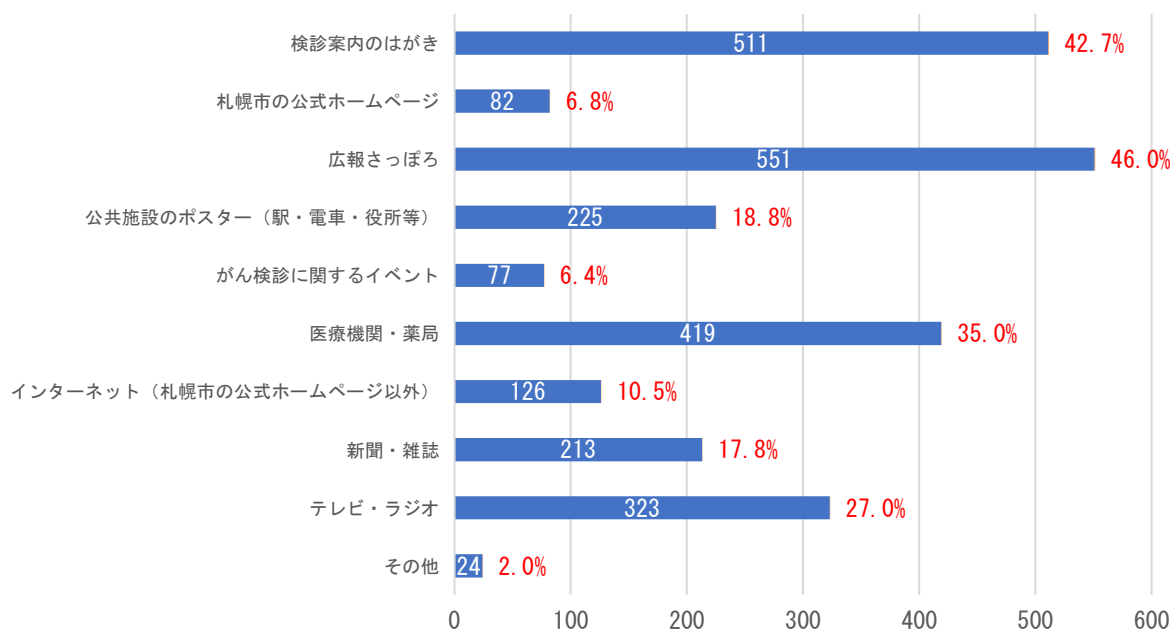
就労別に見ると、就労ありなし共に「ある」が最も高く、就労ありは72.7%、就労なしは78.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	764	72.7%	424	78.5%
ない	287	27.3%	116	21.5%
回答数	1051	100.0%	540	100.0%

(11) がん検診の受診促進情報を得た媒体（複数回答）

問4(10)で「ある」を選択した回答者に、どの媒体から見聞きしたのか聞いたところ、「広報さっぽろ」が46.0%で最も高く、次いで「検診案内のはがき」が42.7%、「医療機関・薬局」が35.0%、「テレビ・ラジオ」が27.0%となっている。

がん検診の情報を得た媒体（複数回答）



（サンプル計：1,198人）

性別に見ると、男性は「広報さっぽろ」が47.8%、女性は「検診案内のはがき」が45.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
検診案内のはがき	123	35.9%	386	45.4%	0	0.0%
札幌市の公式ホームページ	29	8.5%	53	6.2%	0	0.0%
広報さっぽろ	164	47.8%	384	45.2%	0	0.0%
公共施設のポスター（駅・電車・役所等）	49	14.3%	174	20.5%	0	0.0%
がん検診に関するイベント	14	4.1%	63	7.4%	0	0.0%
医療機関・薬局	94	27.4%	324	38.1%	0	0.0%
インターネット（札幌市の公式ホームページ以外）	26	7.6%	99	11.6%	0	0.0%
新聞・雑誌	53	15.5%	159	18.7%	0	0.0%
テレビ・ラジオ	67	19.5%	253	29.8%	1	100.0%
その他	5	1.5%	19	2.2%	0	0.0%
サンプル計	343	100.0%	850	100.0%	1	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「広報さっぽろ」が最も高く、就労ありは43.1%、就労なしは50.8%となっている。

がん検診の情報を得た媒体（複数回答）

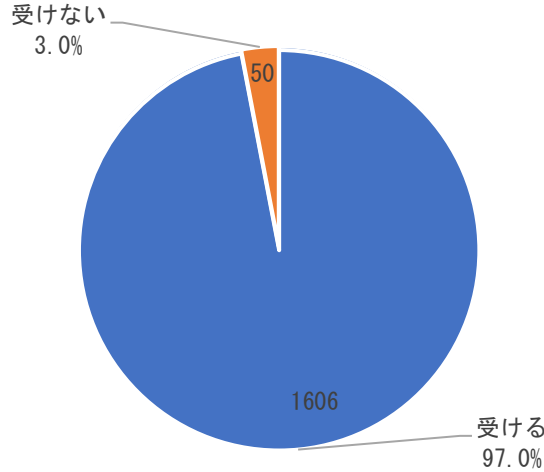
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
検診案内のはがき	306	40.5%	194	46.3%
札幌市の公式ホームページ	54	7.1%	27	6.4%
広報さっぽろ	326	43.1%	213	50.8%
公共施設のポスター（駅・電車・役所等）	159	21.0%	61	14.6%
がん検診に関するイベント	57	7.5%	18	4.3%
医療機関・薬局	276	36.5%	134	32.0%
インターネット（札幌市の公式ホームページ以外）	91	12.0%	33	7.9%
新聞・雑誌	124	16.4%	79	18.9%
テレビ・ラジオ	215	28.4%	99	23.6%
その他	14	1.9%	10	2.4%
サンプル計	756	100.0%	419	100.0%

問5 要精密検査となっている場合の精密検査受診についてお答えください。

(1) 精密検査の受診について（択一回答）

がん検診の結果が「要精密検査」になった場合、精密検査を受けるか聞いたところ、97.0%が「受ける」と回答した。

結果が「要精密検査」になった場合、精密検査を受けるか



(回答者数 : 1,656 人)

性別に見ると、男女共に「受ける」が最も高く、男性は96.8%、女性は97.1%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
受ける	546	96.8%	1053	97.1%	3	100.0%
受けない	18	3.2%	31	2.9%	0	0.0%
回答数	564	100.0%	1084	100.0%	3	100.0%

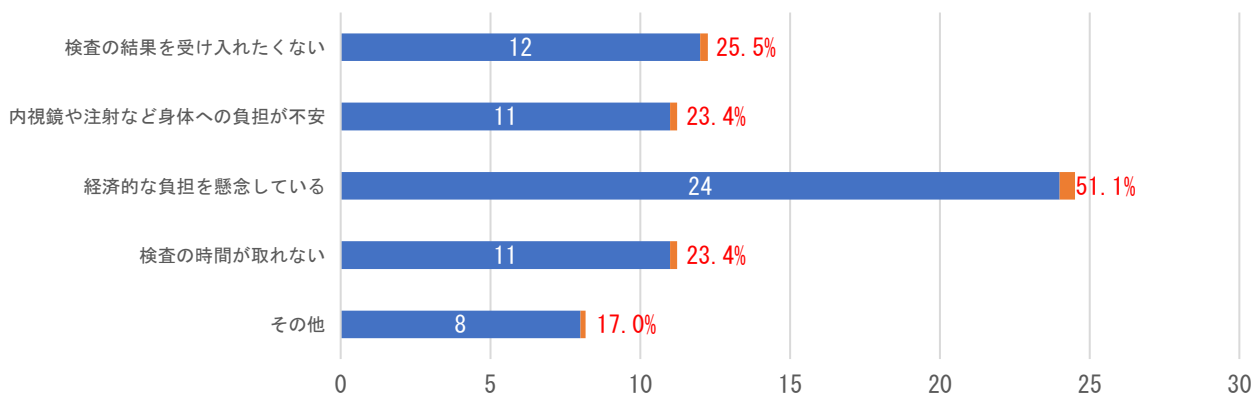
就労別に見ると、就労ありなし共に「受ける」が最も高く、就労ありは97.3%、就労なしは96.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
受ける	1044	97.3%	529	96.7%
受けない	29	2.7%	18	3.3%
回答数	1073	100.0%	547	100.0%

(2) 精密検査を受けない理由（複数回答）

問5(1)で「受けない」を選択した回答者に、精密検査を受けない理由を聞いたところ「経済的な負担を懸念している」が51.1%で最も高く、次いで「検査の結果を受け入れたくない」が25.5%となっている。

精密検査を受けない理由（複数回答）



(サンプル計：47人)

性別に見ると、男女共に「経済的な負担を懸念している」が最も高く、男性は52.9%、女性は48.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
検査の結果を受け入れたくない	4	23.5%	7	24.1%	0	0.0%
内視鏡や注射など身体への負担が不安	3	17.6%	8	27.6%	0	0.0%
経済的な負担を懸念している	9	52.9%	14	48.3%	0	0.0%
検査の時間が取れない	3	17.6%	8	27.6%	0	0.0%
その他	3	17.6%	5	17.2%	0	0.0%
サンプル計	17	100.0%	29	100.0%	0	0.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「経済的な負担を懸念している」が最も高く、就労ありは44.4%、就労なしは64.7%となっている。

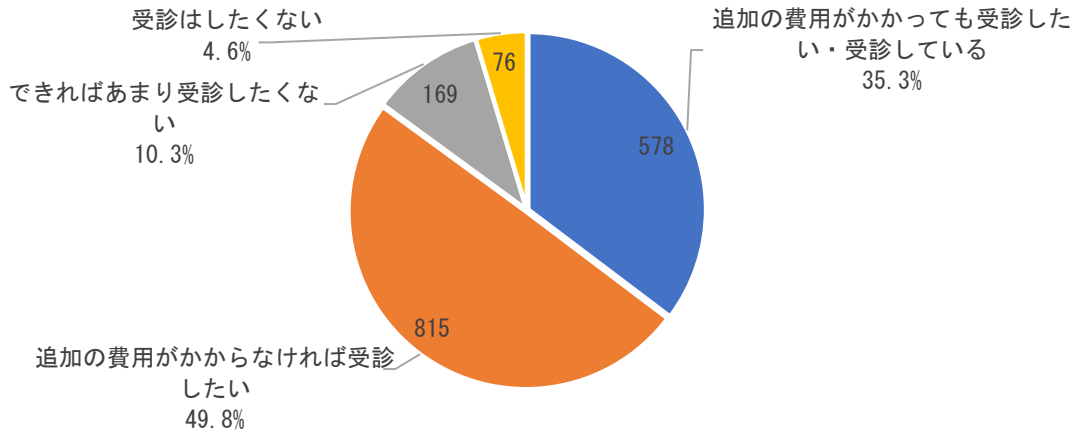
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
検査の結果を受け入れたくない	5	18.5%	6	35.3%
内視鏡や注射など身体への負担が不安	8	29.6%	3	17.6%
経済的な負担を懸念している	12	44.4%	11	64.7%
検査の時間が取れない	9	33.3%	2	11.8%
その他	4	14.8%	2	11.8%
サンプル計	27	100.0%	17	100.0%

問6 ピロリ菌検査・ピロリ菌除去に関するご意向についてお答えください。

(1) ピロリ菌有無の検査について（択一回答）

ピロリ菌の有無について調べる検査の受診を希望するか聞いたところ、「追加の費用がかからなければ受診したい」が49.8%で最も高く、次いで「追加の費用がかかっても受診したい・受診している」が35.3%、「できればあまり受診したくない」が10.3%となっている。

ピロリ菌の有無について調べる検査の受診を希望するか



(回答者数：1,638人)

性別に見ると、男女共に「追加の費用がかからなければ受診したい」が最も高く、男性は48.4%、女性は50.2%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
追加の費用がかかっても受診したい・受診している	200	35.8%	378	35.2%	0	0.0%
追加の費用がかからなければ受診したい	270	48.4%	539	50.2%	2	100.0%
できればあまり受診したくない	59	10.6%	110	10.3%	0	0.0%
受診はしたくない	29	5.2%	46	4.3%	0	0.0%
回答数	558	100.0%	1073	100.0%	2	100.0%

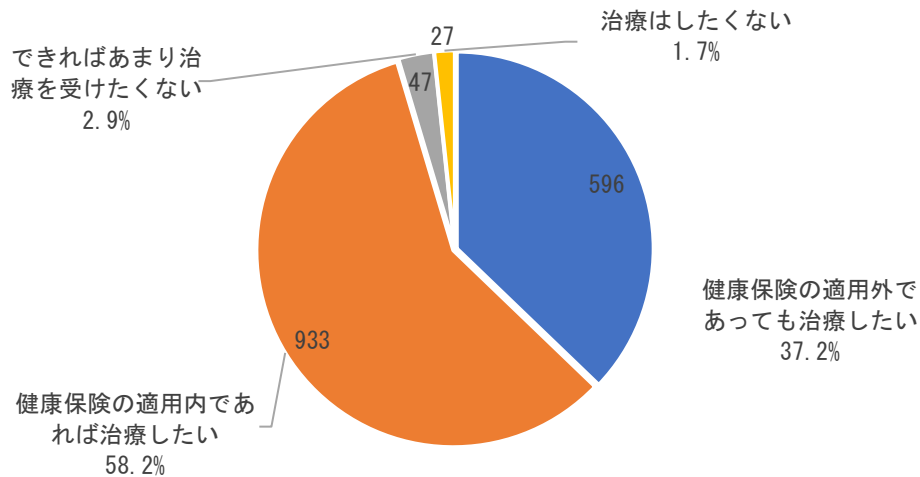
就労別に見ると、就労ありなし共に「追加の費用がかからなければ受診したい」が最も高く、就労ありは53.3%、就労なしは42.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
追加の費用がかかっても受診したい・受診している	365	34.3%	205	38.0%
追加の費用がかからなければ受診したい	568	53.3%	228	42.3%
できればあまり受診したくない	91	8.5%	74	13.7%
受診はしたくない	41	3.8%	32	5.9%
回答数	1065	100.0%	539	100.0%

(2) ピロリ菌除去について（択一回答）

ピロリ菌検査の結果が陽性だった場合、ピロリ菌除去の治療を希望するかと聞いたところ、「健康保険の適用内であれば治療したい」が58.2%で最も高く、次いで「健康保険の適用外であっても治療したい」の37.2%となっている。

検査の結果が陽性だった場合ピロリ菌除去の治療を希望するか



（回答者数：1,603人）

性別で見ると、男女共に「健康保険の適用内であれば治療したい」が最も高く、男性は60.0%、女性は57.2%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても治療したい	190	35.2%	405	38.4%	1	33.3%
健康保険の適用内であれば治療したい	324	60.0%	603	57.2%	2	66.7%
できればあまり治療を受けたくない	15	2.8%	32	3.0%	0	0.0%
治療はしたくない	11	2.0%	15	1.4%	0	0.0%
回答数	540	100.0%	1055	100.0%	3	100.0%

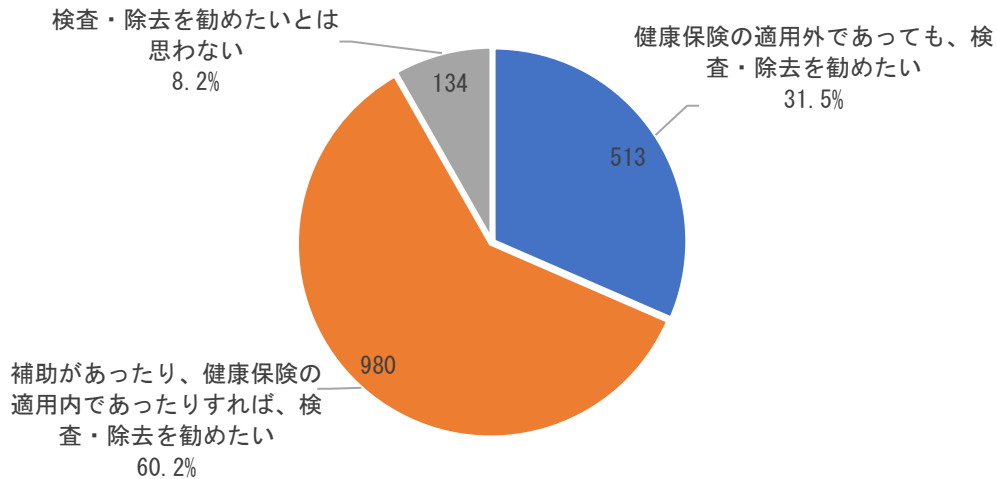
就労ありなし共に「健康保険の適用内であれば治療したい」が最も高く、就労ありは59.2%、就労なしは55.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても治療したい	393	37.7%	194	36.8%
健康保険の適用内であれば治療したい	617	59.2%	294	55.8%
できればあまり治療を受けたくない	20	1.9%	26	4.9%
治療はしたくない	12	1.2%	13	2.5%
回答数	1042	100.0%	527	100.0%

(3) ピロリ菌の検査・除去を家族や友人に勧めるかについて（択一回答）

回答者の家族や友人に、ピロリ菌の検査や除去を勧めるか聞いたところ、「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が60.2%で最も高く、次いで「健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい」が31.5%となっている。

ピロリ菌検査・除去を家族や友人に勧めるか



(回答者数：1,627人)

性別で見ると、男女共に「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が最も高く、男性は59.5%、女性は60.5%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい	165	29.7%	346	32.5%	2	66.7%
補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい	331	59.5%	643	60.5%	1	33.3%
検査・除去を勧めたいとは思わない	60	10.8%	74	7.0%	0	0.0%
回答数	556	100.0%	1063	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が最も高く、就労ありは61.0%、就労なしは57.7%となっている。

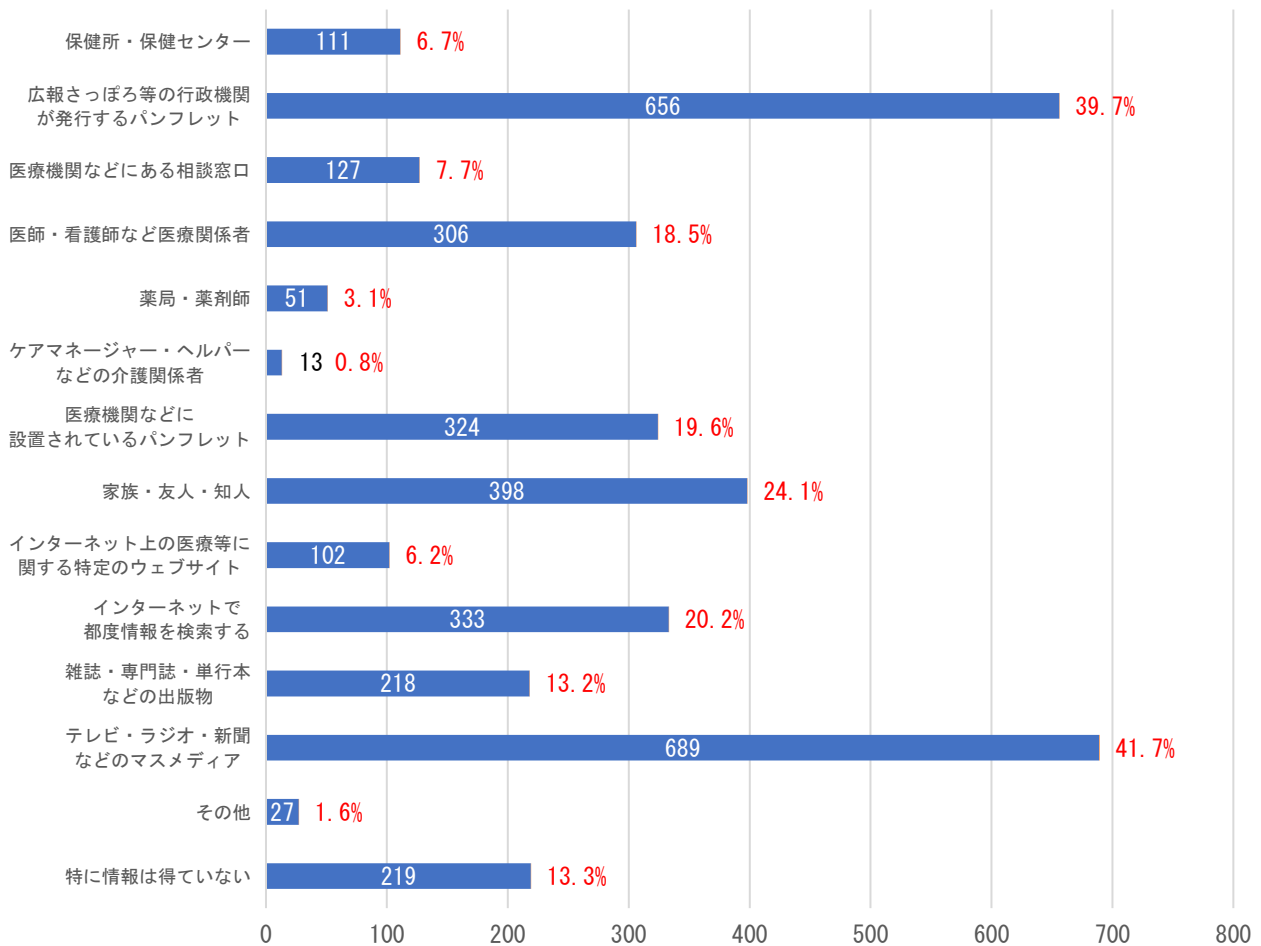
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい	343	32.4%	163	30.6%
補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい	647	61.0%	307	57.7%
検査・除去を勧めたいとは思わない	70	6.6%	62	11.7%
回答数	1060	100.0%	532	100.0%

問7 がんに関する情報の入手について、お答えください。

(1) 情報の入手先（複数回答）

がんやがんの予防に関する情報をどの媒体から得ているのか聞いたところ、「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が41.7%で最も高く、次いで「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が39.7%となっている。

がんに関する情報の入手先について（複数回答）



(サンプル計：1,651人)

性別で見ると、男性は「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が40.2%、女性は「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が43.0%で最も高くなっている。

がんに関する情報の入手先について（複数回答）

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
保健所・保健センター	39	6.9%	72	6.7%	0	0.0%
「広報さっぽろ」や、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット	226	40.2%	428	39.6%	0	0.0%
医療機関などにある相談窓口	35	6.2%	91	8.4%	1	33.3%
医師・看護師など医療関係者	117	20.8%	189	17.5%	0	0.0%
薬局・薬剤師	15	2.7%	36	3.3%	0	0.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	5	0.9%	8	0.7%	0	0.0%
医療機関・介護施設・薬局などに設置されているパンフレット	89	15.8%	233	21.5%	1	33.3%
家族・友人・知人（上記以外）	97	17.3%	300	27.7%	0	0.0%
インターネット上の医療等に関する特定のウェブサイト	28	5.0%	73	6.7%	1	33.3%
インターネットで都度情報を検索する	100	17.8%	233	21.5%	0	0.0%
雑誌・専門誌・単行本などの出版物	70	12.5%	148	13.7%	0	0.0%
テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア	220	39.1%	465	43.0%	2	66.7%
その他	7	1.2%	20	1.8%	0	0.0%
特に情報は得ていない	91	16.2%	126	11.6%	1	33.3%
サンプル計	562	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が39.9%、就労なしは「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が48.4%で最も高くなっている。

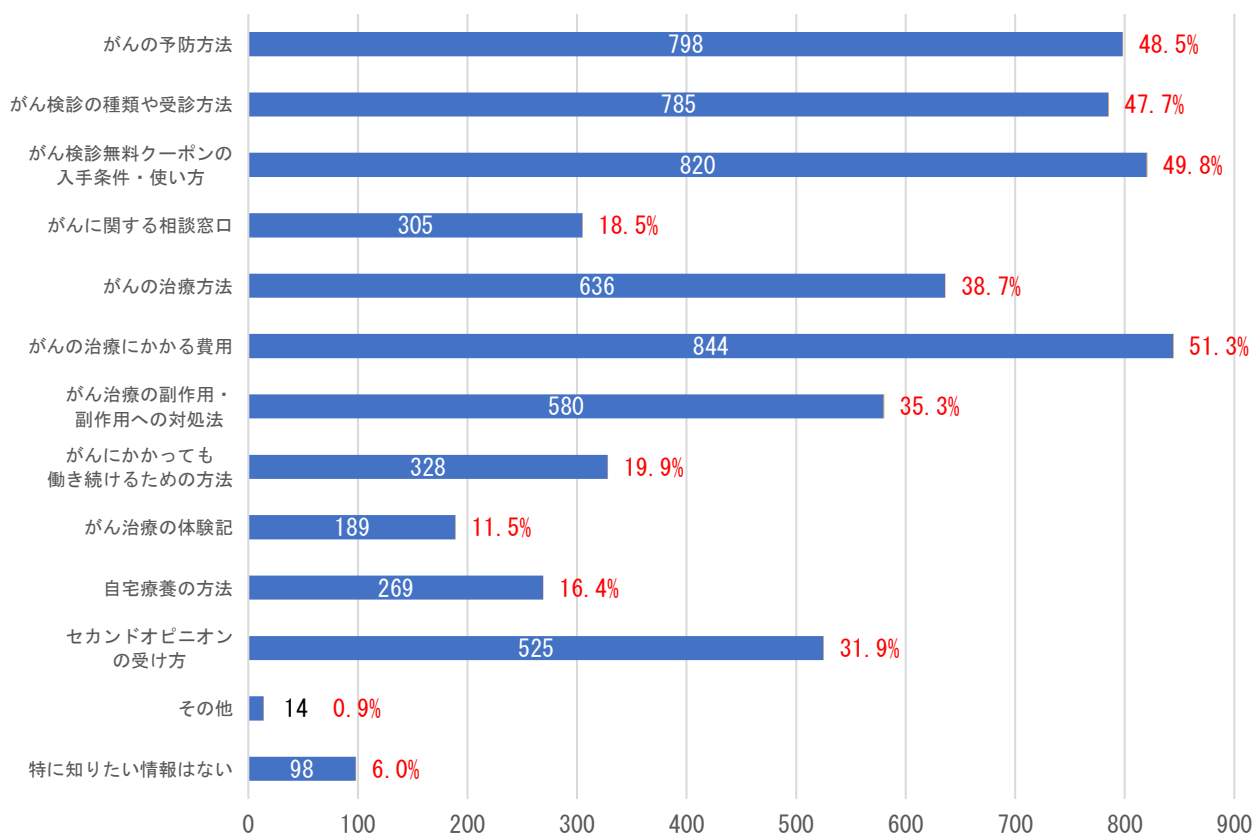
がんに関する情報の入手先について（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
保健所・保健センター	71	6.6%	38	6.9%
「広報さっぽろ」や、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット	375	35.1%	265	48.4%
医療機関などにある相談窓口	83	7.8%	41	7.5%
医師・看護師など医療関係者	197	18.4%	102	18.6%
薬局・薬剤師	36	3.4%	14	2.6%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	9	0.8%	3	0.5%
医療機関・介護施設・薬局などに設置されているパンフレット	206	19.3%	111	20.3%
家族・友人・知人（上記以外）	260	24.3%	128	23.4%
インターネット上の医療等に関する特定のウェブサイト	73	6.8%	27	4.9%
インターネットで都度情報を検索する	239	22.4%	90	16.5%
雑誌・専門誌・単行本などの出版物	132	12.3%	78	14.3%
テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア	426	39.9%	242	44.2%
その他	21	2.0%	5	0.9%
特に情報は得ていない	145	13.6%	69	12.6%
サンプル計	1,069	100.0%	547	100.0%

(2) 知りたい情報について（複数回答）

がんに関して、どのような情報が知りたいか聞いたところ、「がんの治療にかかる費用」が51.3%で最も高く、次いで「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が49.8%、「がんの予防方法」が48.5%となっている。

がんに関して、どのような情報が知りたいか（複数回答）



（サンプル計：1,645人）

性別に見ると、男性は「がんの予防方法」が48.5%、女性は「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が53.8%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がんの予防方法	271	48.5%	521	48.3%	2	66.7%
がん検診の種類や受診方法	262	46.9%	520	48.2%	2	66.7%
がん検診無料クーポンの入手条件・使い方	235	42.0%	581	53.8%	2	66.7%
がんに関する相談窓口	85	15.2%	216	20.0%	3	100.0%
がんの治療方法	196	35.1%	436	40.4%	3	100.0%
がんの治療にかかる費用	261	46.7%	576	53.4%	3	100.0%
がん治療の副作用・副作用への対処法	171	30.6%	405	37.5%	3	100.0%
がんにかかっても働き続けるための方法	82	14.7%	243	22.5%	2	66.7%
がん治療の体験記	35	6.3%	152	14.1%	2	66.7%
自宅療養の方法	56	10.0%	212	19.6%	1	33.3%
セカンドオピニオンの受け方	122	21.8%	401	37.2%	2	66.7%
その他	4	0.7%	10	0.9%	0	0.0%
特に知りたい情報はない	51	9.1%	47	4.4%	0	0.0%
サンプル計	559	100.0%	1079	100.0%	3	100.0%

就労ありは「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が53.8%、就労なしは「がんの治療にかかる費用」が49.4%で最も高くなっている。

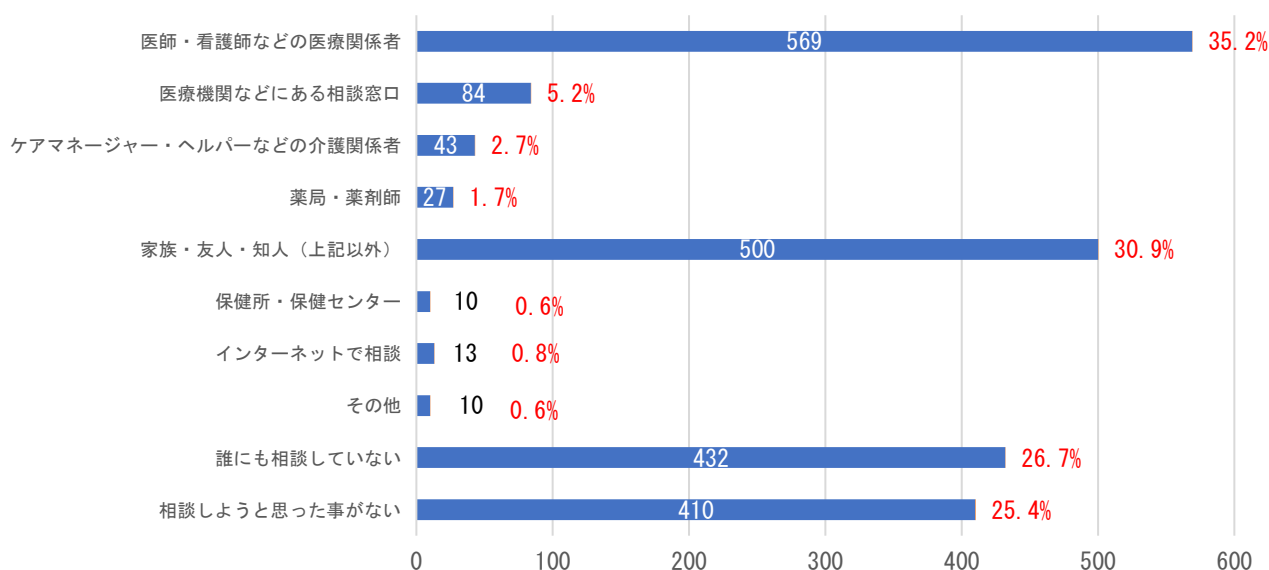
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がんの予防方法	515	48.3%	267	49.1%
がん検診の種類や受診方法	518	48.5%	251	46.1%
がん検診無料クーポンの入手条件・使い方	574	53.8%	232	42.6%
がんに関する相談窓口	188	17.6%	111	20.4%
がんの治療方法	410	38.4%	210	38.6%
がんの治療にかかる費用	551	51.6%	269	49.4%
がん治療の副作用・副作用への対処法	388	36.4%	180	33.1%
がんにかかっても働き続けるための方法	300	28.1%	23	4.2%
がん治療の体験記	130	12.2%	54	9.9%
自宅療養の方法	163	15.3%	95	17.5%
セカンドオピニオンの受け方	330	30.9%	179	32.9%
その他	9	0.8%	4	0.7%
特に知りたい情報はない	58	5.4%	38	7.0%
サンプル計	1067	100.0%	544	100.0%

問8 がんに関する相談先についてお答えください。

(1) がんに関する相談の経験有無（複数回答）

がんやがんの恐れ、もしくはがんの予防や治療方法などについて誰かに相談した経験があるか聞いたところ、「医師・看護師などの医療関係者」が35.2%で最も高く、一方で「誰にも相談していない」の26.7%、「相談しようと思ったことがない」の25.4%を合わせると、半数以上の回答者が誰にも相談していない。

がんについて誰かに相談した経験があるか（複数回答）



（サンプル計：1,616人）

性別に見ると、男性は「誰にも相談していない」が36.8%、女性は「医師・看護師などの医療関係者」が35.9%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	189	34.1%	379	35.9%	0	0.0%
医療機関などにある相談窓口	32	5.8%	52	4.9%	0	0.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	13	2.3%	30	2.8%	0	0.0%
薬局・薬剤師	10	1.8%	17	1.6%	0	0.0%
家族・友人・知人（上記以外）	130	23.4%	369	35.0%	1	33.3%
保健所・保健センター	5	0.9%	5	0.5%	0	0.0%
インターネットで相談	3	0.5%	10	0.9%	0	0.0%
その他	4	0.7%	6	0.6%	0	0.0%
誰にも相談していない	204	36.8%	228	21.6%	0	0.0%
相談しようと思った事がない	133	24.0%	273	25.9%	2	66.7%
サンプル計	555	100.0%	1055	100.0%	3	100.0%

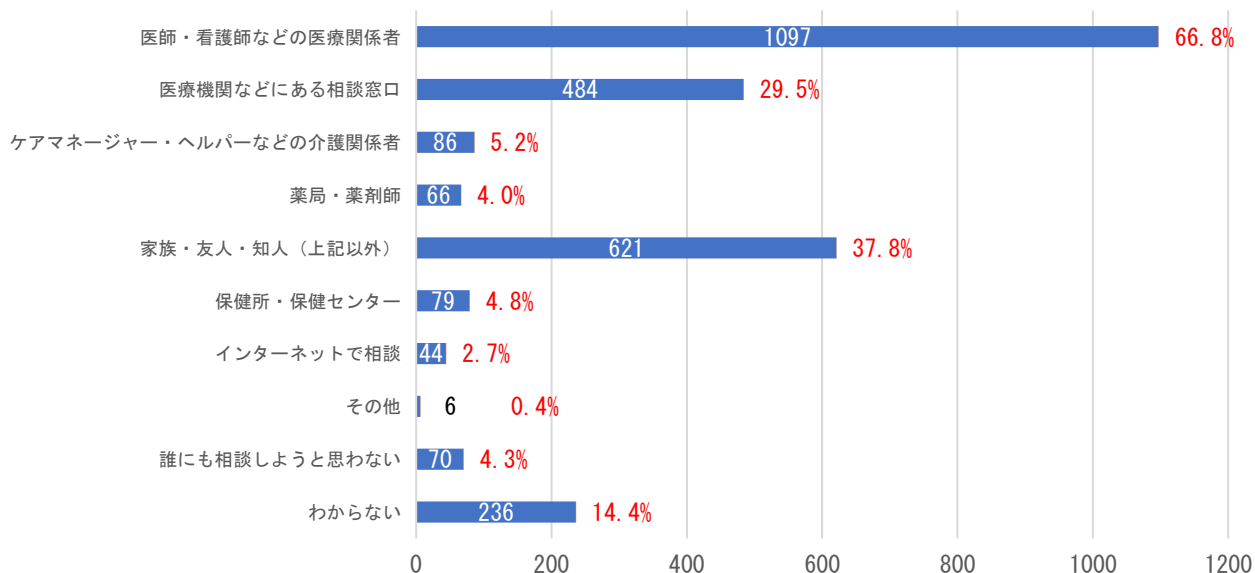
就労別に見ると、就労ありなし共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、就労ありは33.2%、就労なしは39.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	352	33.2%	208	39.7%
医療機関などにある相談窓口	57	5.4%	26	5.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	29	2.7%	14	2.7%
薬局・薬剤師	21	2.0%	6	1.1%
家族・友人・知人（上記以外）	342	32.3%	148	28.2%
保健所・保健センター	6	0.6%	3	0.6%
インターネットで相談	9	0.8%	4	0.8%
その他	7	0.7%	3	0.6%
誰にも相談していない	281	26.5%	143	27.3%
相談しようと思った事がない	261	24.6%	136	26.0%
サンプル計	1059	100.0%	524	100.0%

(2) がんについて希望する相談先（複数回答）

がんやがんの恐れ、がんの予防や治療方法について今後誰に相談したいか聞いたところ「医師・看護師などの医療関係者」の66.8%が最も高く、次いで「家族・友人・知人（医療関係者・介護関係者・薬剤師以外）」が37.8%となっている。

がんについて今後希望する相談先（複数回答）



（サンプル計：1,642人）

男女共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、男性は66.0%、女性は67.3%となっている。

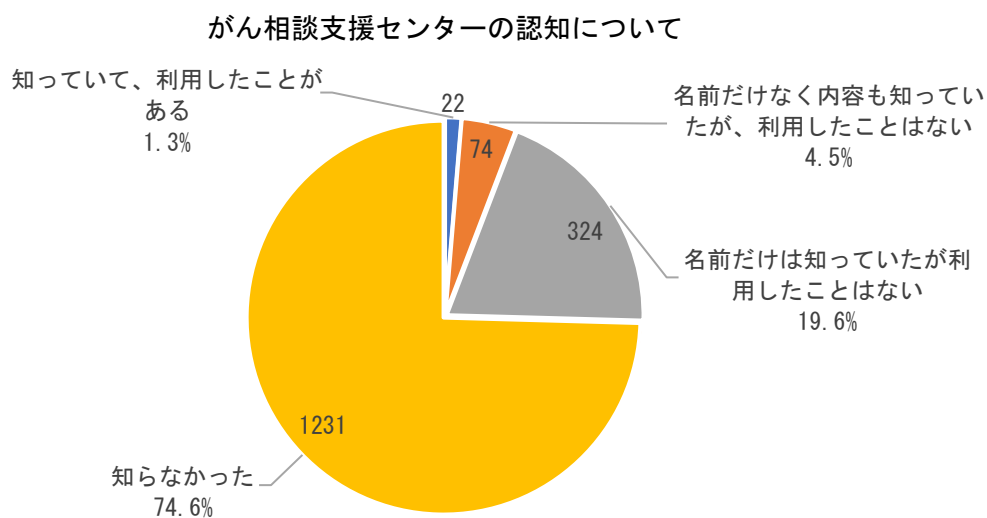
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	370	66.0%	724	67.3%	2	66.7%
医療機関などにある相談窓口	145	25.8%	336	31.3%	2	66.7%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	24	4.3%	62	5.8%	0	0.0%
薬局・薬剤師	19	3.4%	47	4.4%	0	0.0%
家族・友人・知人（上記以外）	152	27.1%	468	43.5%	1	33.3%
保健所・保健センター	24	4.3%	54	5.0%	1	33.3%
インターネットで相談	13	2.3%	31	2.9%	0	0.0%
その他	2	0.4%	4	0.4%	0	0.0%
誰にも相談しようと思わない	38	6.8%	31	2.9%	1	33.3%
わからない	89	15.9%	146	13.6%	0	0.0%
サンプル計	561	100.0%	1075	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、就労ありは66.5%、就労なしは68.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	710	66.5%	370	68.3%
医療機関などにある相談窓口	317	29.7%	158	29.2%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	53	5.0%	30	5.5%
薬局・薬剤師	45	4.2%	21	3.9%
家族・友人・知人（上記以外）	402	37.6%	207	38.2%
保健所・保健センター	58	5.4%	19	3.5%
インターネットで相談	28	2.6%	15	2.8%
その他	5	0.5%	1	0.2%
誰にも相談しようと思わない	44	4.1%	25	4.6%
わからない	157	14.7%	72	13.3%
サンプル計	1068	100.0%	542	100.0%

(3) 「がん相談支援センター」の認知について（択一回答）

がん相談支援センターについてしているか聞いたところ「知らなかった」が74.6%で最も高く、次いで「名前だけは知っていたが利用したことはない」が19.6%となっている。



(回答者数：1,651人)

性別で見ると、男女共に「知らなかった」が最も高く、男性は73.7%、女性は74.9%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知っている、利用したことがある	5	0.9%	17	1.6%	0	0.0%
名前だけでなく内容も知っていたが、利用したことはない	22	3.9%	52	4.8%	0	0.0%
名前だけは知っていたが利用したことはない	121	21.5%	203	18.8%	0	0.0%
知らなかった	415	73.7%	810	74.9%	3	100.0%
回答数	563	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「知らなかった」が最も高く、就労ありは75.4%、就労なしは73.2%となっている。

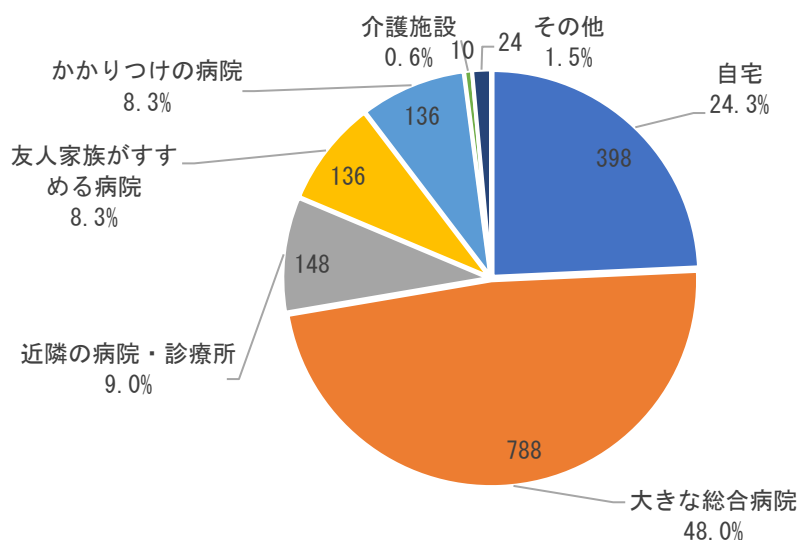
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知っている、利用したことがある	13	1.2%	7	1.3%
名前だけでなく内容も知っていたが、利用したことはない	49	4.6%	23	4.2%
名前だけは知っていたが利用したことはない	201	18.8%	117	21.4%
知らなかった	807	75.4%	401	73.2%
回答数	1070	100.0%	548	100.0%

問9 がん入院治療後の療養についてお答えください。

(1) がんにかかった場合の療養先（択一回答）

回答者自身ががんにかかった場合、希望する療養先について聞いたところ、「大きな総合病院」が48.0%で最も高く、次いで「自宅」が24.3%となっている。

がんにかかった場合に希望する療養先



(回答者数：1,640人)

性別に見ると、男女共に「大きな総合病院」が最も高く、男性は50.5%、女性は46.8%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自宅	125	22.2%	273	25.5%	0	0.0%
大きな総合病院	285	50.5%	500	46.8%	2	66.7%
近隣の病院・診療所	51	9.0%	95	8.9%	0	0.0%
友人家族がすすめる病院	39	6.9%	97	9.1%	0	0.0%
かかりつけの病院	51	9.0%	84	7.9%	0	0.0%
介護施設	3	0.5%	7	0.7%	0	0.0%
その他	10	1.8%	13	1.2%	1	33.3%
回答数	564	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

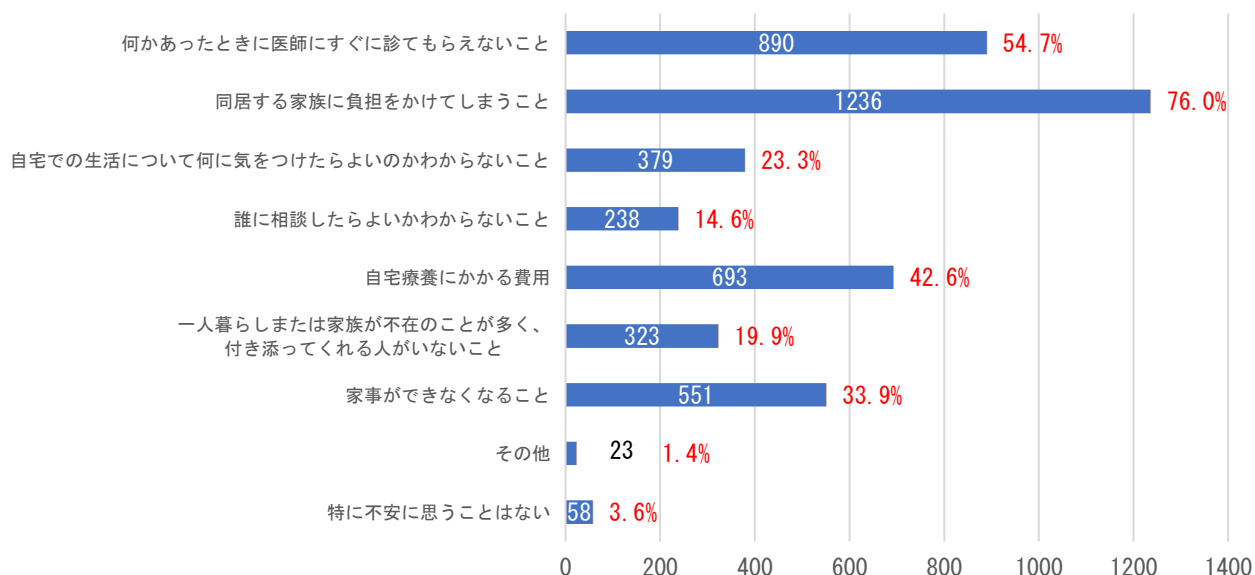
就労別に見ると、就労ありなし共に「大きな総合病院」が最も高く、就労ありは51.1%、就労なしは42.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自宅	254	23.8%	135	25.1%
大きな総合病院	546	51.1%	228	42.5%
近隣の病院・診療所	91	8.5%	53	9.9%
友人家族がすすめる病院	88	8.2%	46	8.6%
かかりつけの病院	69	6.5%	64	11.9%
介護施設	4	0.4%	4	0.7%
その他	17	1.6%	7	1.3%
回答数	1069	100.0%	537	100.0%

(2) 自宅で療養する場合の不安点（複数回答）

回答者自身ががんになり自宅での療養をした場合の不安点について聞いたところ、「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が76.0%で最も高く、次いで「何かあったときに医師にすぐ診てもらえないこと」が54.7%となっている。

自宅で療養する場合の不安点（複数回答）



(サンプル計：1,626人)

男女共に「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も高く、男性は75.1%、女性は76.5%となっている。

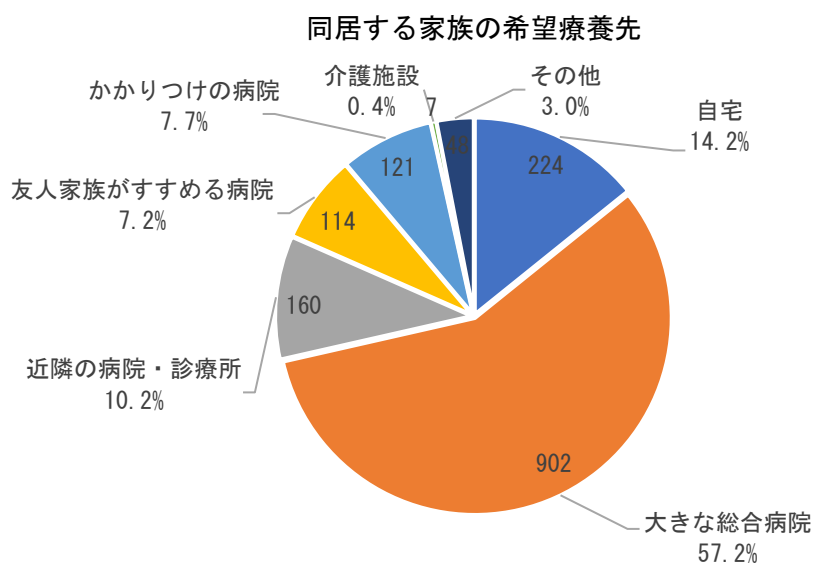
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	279	50.7%	607	56.8%	2	66.7%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	413	75.1%	818	76.5%	2	66.7%
自宅での生活について何に気をつけたらよいかわからないこと	120	21.8%	255	23.9%	3	100.0%
誰に相談したらよいかわからないこと	76	13.8%	159	14.9%	2	66.7%
自宅療養にかかる費用	201	36.5%	487	45.6%	3	100.0%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	89	16.2%	232	21.7%	2	66.7%
家事ができなくなること	72	13.1%	474	44.3%	2	66.7%
その他	5	0.9%	18	1.7%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	28	5.1%	30	2.8%	0	0.0%
サンプル計	550	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も高く、就労ありは76.0%、就労なしは76.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	559	52.7%	311	58.5%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	806	76.0%	407	76.5%
自宅での生活について何に気をつけたらよいのかわからないこと	259	24.4%	113	21.2%
誰に相談したらよいかわからないこと	166	15.6%	68	12.8%
自宅療養にかかる費用	475	44.8%	201	37.8%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	207	19.5%	108	20.3%
家事ができなくなること	328	30.9%	208	39.1%
その他	18	1.7%	5	0.9%
特に不安に思うことはない	32	3.0%	25	4.7%
サンプル計	1061	100.0%	532	100.0%

(3) 同居する家族の療養先（択一回答）

回答者の家族ががんにかかった場合、希望する療養先を聞いたところ、「大きな総合病院」が57.2%で最も高く、次いで「自宅」が14.2%となっている。



(回答者数：1,576人)

性別に見ると、男女共に「大きな総合病院」が最も高く、男性は61.9%、女性は54.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自宅	63	11.8%	161	15.6%	0	0.0%
大きな総合病院	332	61.9%	566	54.7%	2	66.7%
近隣の病院・診療所	51	9.5%	109	10.5%	0	0.0%
友人家族がすすめる病院	33	6.2%	81	7.8%	0	0.0%
かかりつけの病院	41	7.6%	80	7.7%	0	0.0%
介護施設	3	0.6%	4	0.4%	0	0.0%
その他	13	2.4%	34	3.3%	1	33.3%
回答数	536	100.0%	1035	100.0%	3	100.0%

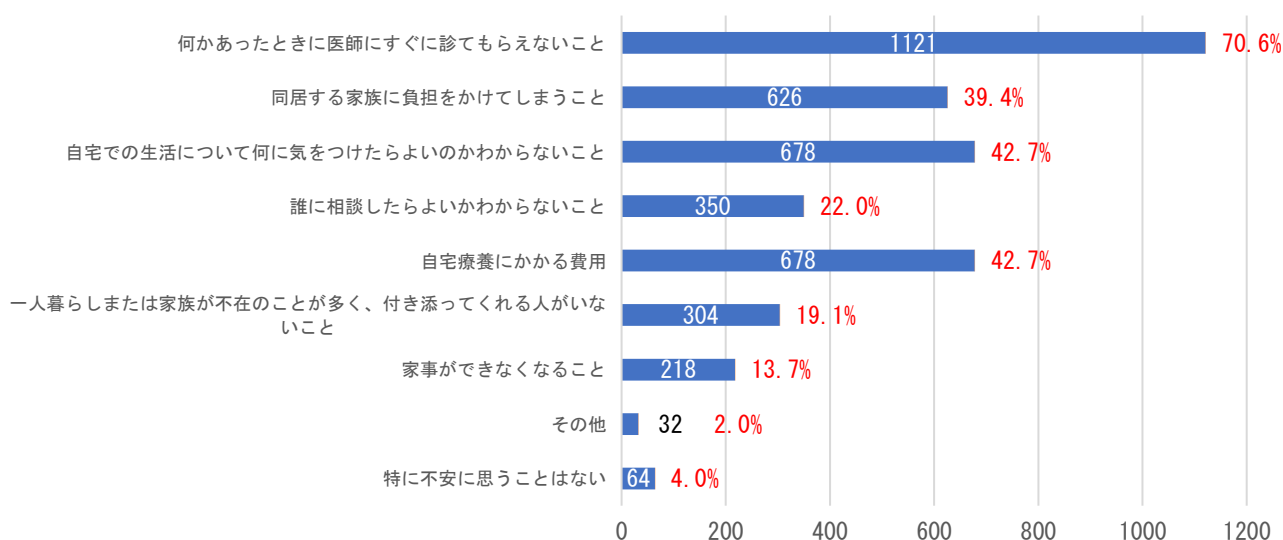
就労別に見ると、就労ありなし共に「大きな総合病院」が最も高く、就労ありは59.8%、就労なしは51.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自宅	149	14.4%	73	14.3%
大きな総合病院	618	59.8%	264	51.6%
近隣の病院・診療所	101	9.8%	57	11.1%
友人家族がすすめる病院	68	6.6%	42	8.2%
かかりつけの病院	61	5.9%	58	11.3%
介護施設	6	0.6%	1	0.2%
その他	31	3.0%	17	3.3%
回答数	1034	100.0%	512	100.0%

(4) 家族が自宅で療養する場合の不安点（複数回答）

回答者の家族ががんの療養を自宅で行う場合、不安点について聞いたところ、「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が70.6%で最も高く、次いで「自宅での生活について何に気をつけたらよいかかわからないこと」及び「自宅療養にかかる費用」が42.7%で同率となっている。

家族が自宅で療養する場合の不安点（複数回答）



(サンプル計：1,588人)

性別に見ると、男女共に「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が最も高く、男性は65.6%、女性は73.1%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	351	65.6%	765	73.1%	2	66.7%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	258	48.2%	367	35.1%	0	0.0%
自宅での生活について何に気をつけたらよいかかわからないこと	194	36.3%	480	45.8%	3	100.0%
誰に相談したらよいかかわからないこと	97	18.1%	249	23.8%	3	100.0%
自宅療養にかかる費用	198	37.0%	476	45.5%	2	66.7%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	90	16.8%	212	20.2%	1	33.3%
家事ができなくなること	81	15.1%	136	13.0%	1	33.3%
その他	6	1.1%	26	2.5%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	26	4.9%	38	3.6%	0	0.0%
サンプル計	535	100.0%	1047	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が最も高く、就労ありは69.8%、就労なしは71.1%となっている。

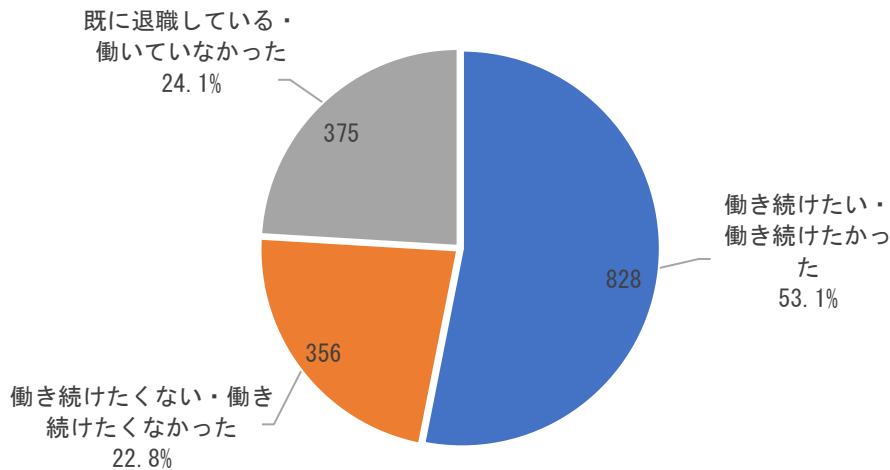
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	724	69.8%	369	71.1%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	418	40.3%	195	37.6%
自宅での生活について何に気をつけたらよいのかわからないこと	438	42.2%	228	43.9%
誰に相談したらよいかわからないこと	241	23.2%	107	20.6%
自宅療養にかかる費用	458	44.2%	205	39.5%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	224	21.6%	72	13.9%
家事ができなくなること	141	13.6%	72	13.9%
その他	19	1.8%	13	2.5%
特に不安に思うことはない	41	4.0%	22	4.2%
サンプル計	1037	100.0%	519	100.0%

問 10 がんにかかった際の就労継続についてお答えください。

(1) がんにかかった際の就労継続意思（択一回答）

回答者ががんにかかった場合、働き続ける意志はあるか聞いたところ、「働き続けたい・働き続けたかった」が53.1%で最も高く、次いで、「既に退職している・働いていなかった」が24.1%、「働き続けたくない・働き続けなくなかった」が22.8%となっている。

がんにかかった際の就労継続意思



(回答者数：1,559人)

性別に見ると、男女共に「働き続けたい・働き続けたかった」が最も高く、男性は56.7%、女性は51.2%となっている。

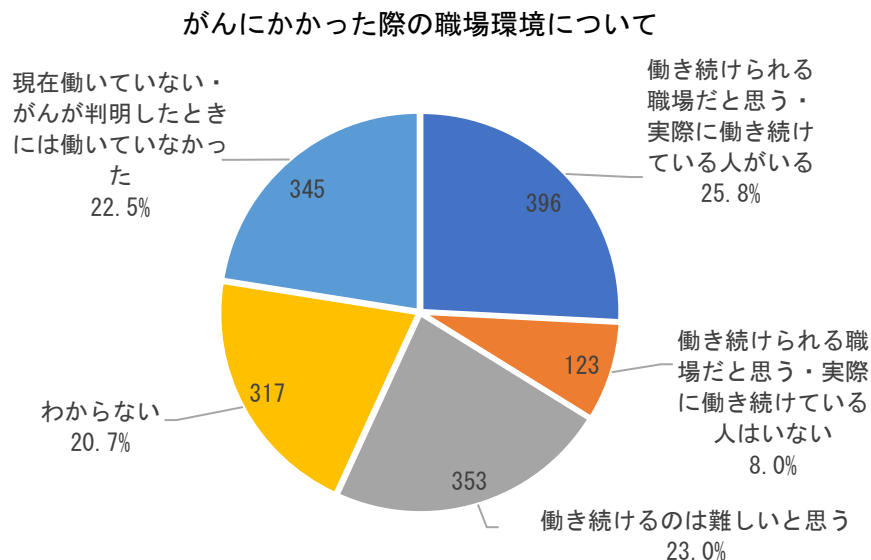
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
働き続けたい・働き続けたかった	309	56.7%	516	51.2%	1	33.3%
働き続けたくない・働き続けなくなかった	101	18.5%	253	25.1%	2	66.7%
既に退職している・働いていなかった	135	24.8%	239	23.7%	0	0.0%
回答数	545	100.0%	1008	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「働き続けたい・働き続けたかった」が69.4%、就労なしは「既に退職している・働いていなかった」が71.3%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
働き続けたい・働き続けたかった	730	69.4%	83	17.4%
働き続けたくない・働き続けなくなかった	294	27.9%	54	11.3%
既に退職している・働いていなかった	28	2.7%	340	71.3%
回答数	1052	100.0%	477	100.0%

(2) がんにかかった際の職場環境（択一回答）

回答者の職場について、がんにかかった場合でも働き続けられる職場かどうか聞いたところ、「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が25.8%で最も高く、次いで「働き続けるのは難しいと思う」が23.0%となっている。



(回答者数：1,534人)

性別に見ると、男性は「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が35.7%、女性は「現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった」が25.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる	189	35.7%	207	20.7%	0	0.0%
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人はいない	48	9.1%	74	7.4%	1	33.3%
働き続けるのは難しいと思う	101	19.1%	251	25.2%	0	0.0%
わからない	100	18.9%	213	21.3%	2	66.7%
現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった	92	17.4%	253	25.4%	0	0.0%
回答数	530	100.0%	998	100.0%	3	100.0%

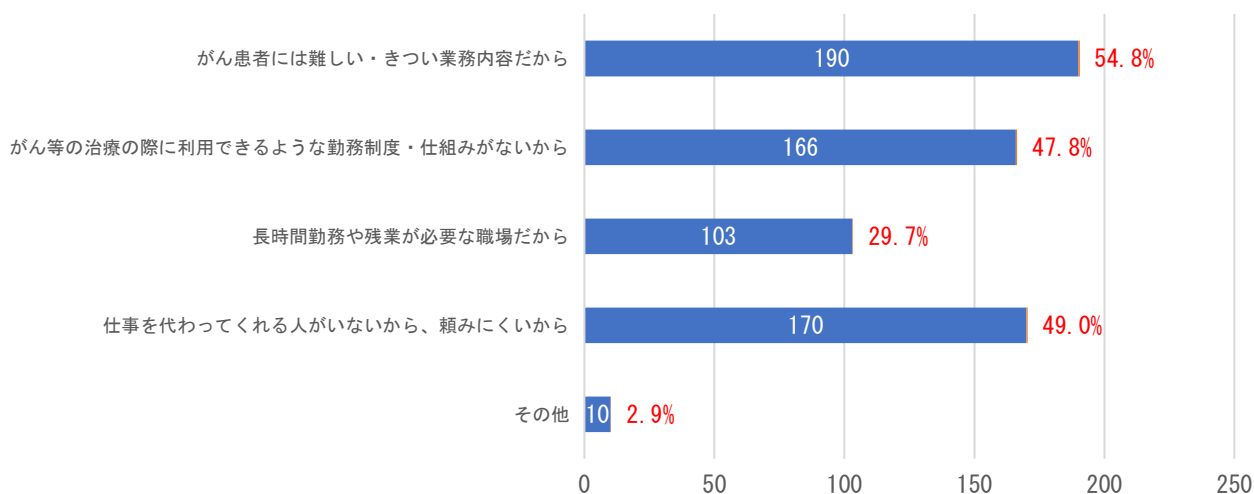
就労別に見ると、就労ありは「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が34.0%、就労なしは「現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった」が70.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる	359	34.0%	33	7.3%
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人はいない	120	11.4%	2	0.4%
働き続けるのは難しいと思う	306	29.0%	36	8.0%
わからない	248	23.5%	60	13.3%
現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった	23	2.2%	319	70.9%
回答数	1056	100.0%	450	100.0%

(3) 就労継続が難しい理由（複数回答）

問10(1)で、「働き続けるのは難しいと思う」を選択した回答者に理由を聞いたところ、「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」の54.8%が最も高く、次いで「仕事を変わってくれる人がいないから、頼みにくいから」が49.0%、「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」が47.8%となっている。

就労継続が難しい理由（複数回答）



(サンプル計：347人)

性別に見ると、男性は「仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから」が51.5%、女性は「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」が57.5%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がん患者には難しい・きつい業務内容だから	48	48.5%	142	57.5%	0	0.0%
がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから	49	49.5%	117	47.4%	0	0.0%
長時間勤務や残業が必要な職場だから	31	31.3%	71	28.7%	0	0.0%
仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから	51	51.5%	118	47.8%	0	0.0%
その他	2	2.0%	8	3.2%	0	0.0%
サンプル計	99	100.0%	247	100.0%	0	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」が56.0%、就労なしは「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」が68.6%で最も高くなっている。

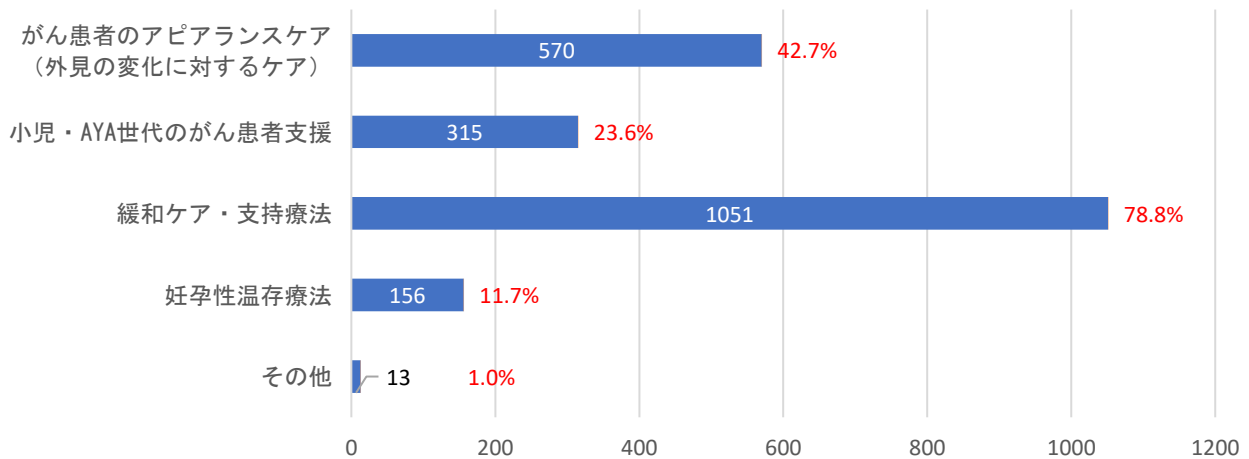
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がん患者には難しい・きつい業務内容だから	169	56.0%	16	45.7%
がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから	136	45.0%	24	68.6%
長時間勤務や残業が必要な職場だから	87	28.8%	12	34.3%
仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから	148	49.0%	18	51.4%
その他	7	2.3%	1	2.9%
サンプル計	302	100.0%	35	100.0%

問 11 がん治療中・治療後の日常生活、職場復帰についてお答えください。

(1) がん治療に関する関心（複数回答）

がん治療に関連した話題について関心があるものを聞いたところ、「緩和ケア・支持療法」が78.8%で最も高く、次いで「がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）」が42.7%、「小児・AYA世代のがん患者支援」が23.6%となっている。

がん治療に関する関心（複数回答）



※1 AYA 世代：思春期や若年成人のことをいい、概ね15歳～39歳の方を指す。

※2 妊孕性温存療法：がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣の凍結を行い、治療後にこれらを用いて妊娠・出産を目指す治療法（サンプル計：1,334人）

性別に見ると、男女共に「緩和ケア・支持療法」が最も高く、男性は79.7%、女性は78.4%となっている。

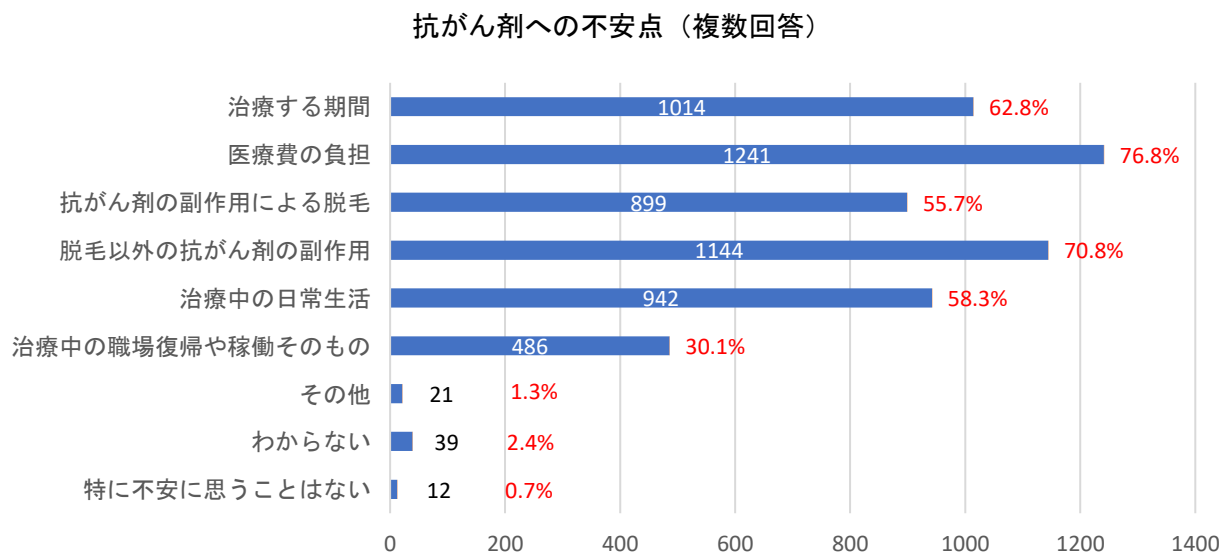
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）	152	36.4%	417	45.7%	1	33.3%
小児・AYA世代のがん患者支援	56	13.4%	258	28.3%	1	33.3%
緩和ケア・支持療法	333	79.7%	715	78.4%	2	66.7%
妊孕性温存療法	15	3.6%	141	15.5%	0	0.0%
その他	7	1.7%	5	0.5%	1	33.3%
回答数	418	100.0%	912	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「緩和ケア・支持療法」が最も高く、就労ありは76.2%、就労なしは84.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）	391	43.9%	166	39.5%
小児・AYA世代のがん患者支援	223	25.1%	85	20.2%
緩和ケア・支持療法	678	76.2%	353	84.0%
妊孕性温存療法	121	13.6%	30	7.1%
その他	9	1.0%	4	1.0%
回答数	890	100.0%	420	100.0%

(2) 抗がん剤への不安点（複数回答）

抗がん剤治療を受けることになった場合の不安点を聞いたところ、「医療費の負担」が76.8%で最も高く、次いで「脱毛以外の抗がん剤の副作用」が70.8%、「治療する期間」が62.8%となっている。



（サンプル計：1,615人）

性別に見ると、男女共に「医療費の負担」が最も高く、男性は72.4%、女性は79.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
治療する期間	305	56.1%	705	66.1%	3	100.0%
医療費の負担	394	72.4%	843	79.0%	3	100.0%
抗がん剤の副作用による脱毛	224	41.2%	671	62.9%	3	100.0%
脱毛以外の抗がん剤の副作用	331	60.8%	810	75.9%	3	100.0%
治療中の日常生活	271	49.8%	668	62.6%	3	100.0%
治療中の職場復帰や稼働そのもの	147	27.0%	337	31.6%	2	66.7%
その他	5	0.9%	15	1.4%	1	33.3%
わからない	20	3.7%	19	1.8%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	7	1.3%	5	0.5%	0	0.0%
回答数	544	100.0%	1067	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「医療費の負担」が最も高く、就労ありは79.3%、就労なしは71.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
治療する期間	666	62.7%	330	63.2%
医療費の負担	843	79.3%	373	71.5%
抗がん剤の副作用による脱毛	605	56.9%	278	53.3%
脱毛以外の抗がん剤の副作用	767	72.2%	360	69.0%
治療中の日常生活	624	58.7%	305	58.4%
治療中の職場復帰や稼働そのもの	442	41.6%	34	6.5%
その他	12	1.1%	9	1.7%
わからない	19	1.8%	19	3.6%
特に不安に思うことはない	7	0.7%	5	1.0%
回答数	1063	100.0%	522	100.0%

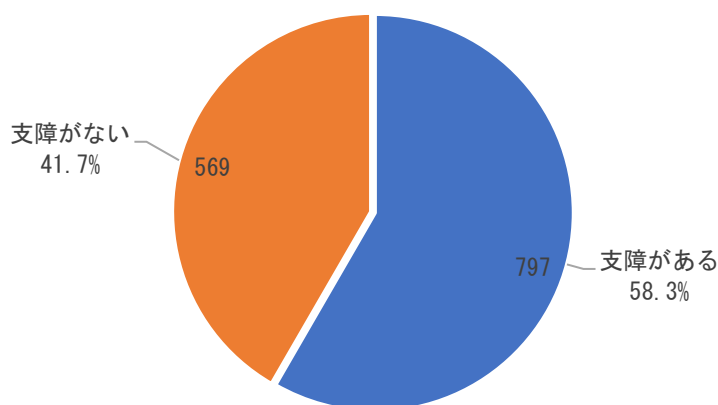
(3) 抗がん剤の副作用による脱毛の影響

問 11(2)で「抗がん剤の副作用による脱毛」「治療中の日常生活」「治療中の職場復帰や稼働そのもの」を選択した回答者に、抗がん剤の副作用による脱毛の影響について支障があるか聞いた。

ア 日常生活への影響（択一回答）

「支障がある」が 58.3%、「支障がない」が 41.7%となっている。

抗がん剤治療の「日常生活」への影響



(回答者数：1,366人)

性別に見ると、男性は「支障がない」が 59.1%、女性は「支障がある」が 66.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	179	40.9%	616	66.7%	2	66.7%
支障がない	259	59.1%	308	33.3%	1	33.3%
回答数	438	100.0%	924	100.0%	3	100.0%

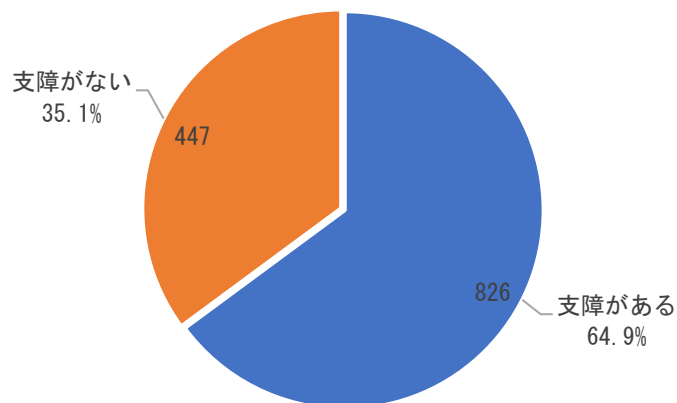
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは 58.1%、就労なしは 59.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	544	58.1%	242	59.5%
支障がない	392	41.9%	165	40.5%
回答数	936	100.0%	407	100.0%

イ 抗がん剤治療の働くことへの影響（択一回答）

「支障がある」が64.9%、「支障がない」が35.1%となっている。

抗がん剤治療の「働くこと」への影響



（回答者数：1,273人）

性別に見ると、男性は「支障がない」が53.8%、女性は「支障がある」が73.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	190	46.2%	632	73.7%	3	100.0%
支障がない	221	53.8%	226	26.3%	0	0.0%
回答数	411	100.0%	858	100.0%	3	100.0%

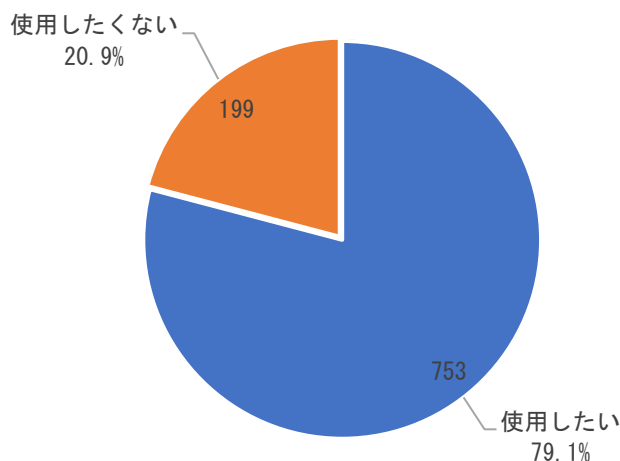
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは69.2%、就労なしは52.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	648	69.2%	166	52.4%
支障がない	288	30.8%	151	47.6%
回答数	936	100.0%	317	100.0%

(4) 医療用ウィッグの使用希望（択一回答）

問 11(3)で、「支障がある」を選択した回答者のうち、脱毛に対応した医療用ウィッグの使用を希望するか聞いたところ、「使用したい」が 79.1%、「使用したくない」が 20.9%となっている。

医療用ウィッグの使用希望



(回答者数：952人)

性別に見ると、男性は「使用したくない」が 61.9%、女性は「使用したい」が 90.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
使用したい	80	38.1%	669	90.7%	3	100.0%
使用したくない	130	61.9%	69	9.3%	0	0.0%
回答数	210	100.0%	738	100.0%	3	100.0%

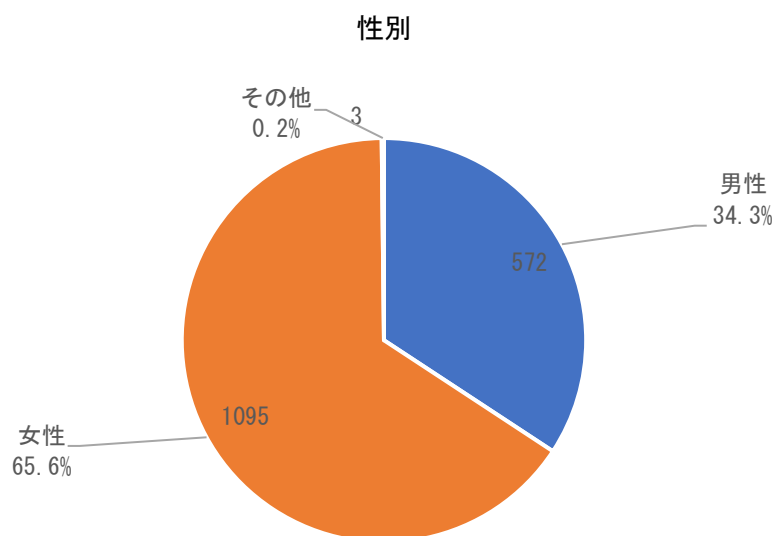
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは 79.3%、就労なしは 79.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
使用したい	535	79.3%	208	79.1%
使用したくない	140	20.7%	55	20.9%
回答数	675	100.0%	263	100.0%

問 12 あなたご自身のことについてお答えください。

(1) 性別（択一回答）

回答者の性別は、女性が 65.6%、男性が 34.3%であった。



(回答者数 : 1,670 人)

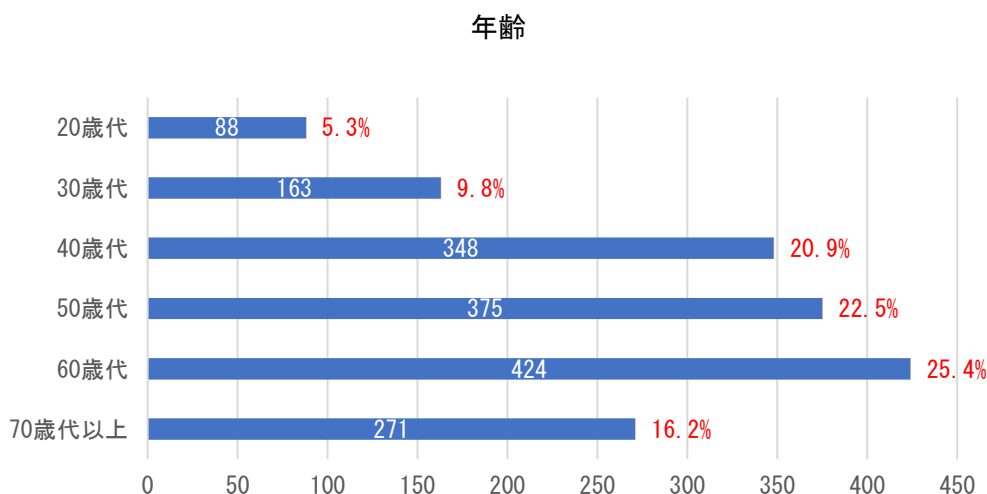
※性別によるクロス集計は省略。

就労別に見ると、就労ありなし共に「女性」が最も高く、就労ありは 63.6%、就労なしは 70.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
男性	392	36.2%	166	29.9%
女性	689	63.6%	389	70.1%
その他	3	0.3%	0	0.0%
回答数	1084	100.0%	555	100.0%

(2) 年齢（択一回答）

回答者の年齢は「60歳代」が25.4%で最も高く、次いで「50歳代」が22.5%、「40歳代」が20.9%となっている。



※ 20歳代及び30代は女性のみ。

（回答者数：1,669人）

性別に見ると、男女共に「60歳代」が最も高く、男性は、30.8%、女性は22.7%となっている。

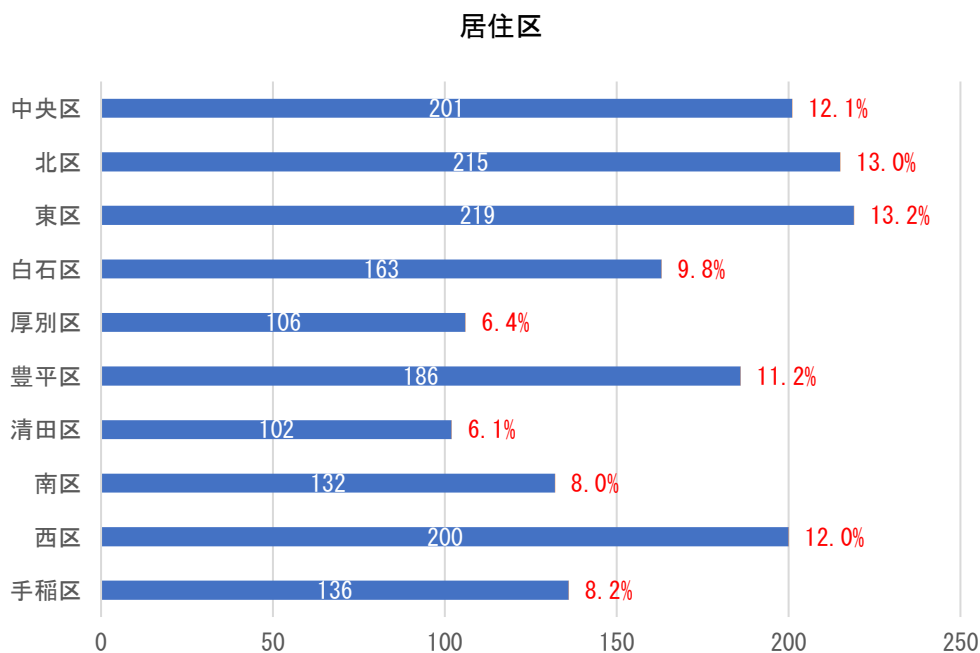
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
20歳代	-	-	87	8.0%	1	33.3%
30歳代	-	-	162	14.8%	1	33.3%
40歳代	119	20.8%	229	20.9%	0	0.0%
50歳代	142	24.8%	232	21.2%	1	33.3%
60歳代	176	30.8%	248	22.7%	0	0.0%
70歳代以上	135	23.6%	136	12.4%	0	0.0%
回答数	572	100.0%	1094	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「50歳代」が28.5%、就労なしは「60歳代」が35.4%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
20歳代	62	5.7%	25	4.5%
30歳代	133	12.3%	29	5.2%
40歳代	291	26.8%	50	9.0%
50歳代	309	28.5%	61	11.0%
60歳代	217	20.0%	196	35.4%
70歳代以上	72	6.6%	193	34.8%
回答数	1084	100.0%	554	100.0%

(3) 居住区（択一回答）

回答者の居住区は、「東区」が13.2%で最も高く、次いで「北区」が13.0%、「中央区」が12.1%、「西区」が12.0%となっている。



(回答者数：1,660人)

性別に見ると、男性は「北区」が13.2%、女性は「東区」が13.9%で最も高くなっている。

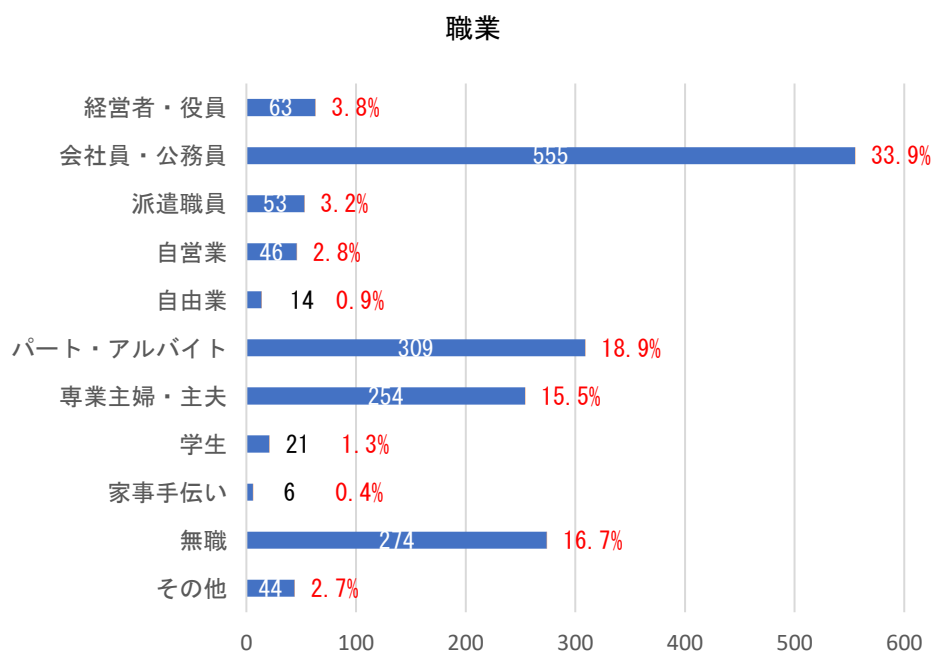
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中央区	72	12.7%	129	11.8%	0	0.0%
北区	75	13.2%	139	12.8%	1	33.3%
東区	66	11.6%	152	13.9%	1	33.3%
白石区	50	8.8%	113	10.4%	0	0.0%
厚別区	37	6.5%	69	6.3%	0	0.0%
豊平区	63	11.1%	123	11.3%	0	0.0%
清田区	34	6.0%	68	6.2%	0	0.0%
南区	50	8.8%	82	7.5%	0	0.0%
西区	70	12.3%	129	11.8%	1	33.3%
手稲区	50	8.8%	86	7.9%	0	0.0%
回答数	567	100.0%	1090	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「西区」が13.9%、就労なしは「北区」が15.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
中央区	138	12.8%	63	11.4%
北区	123	11.4%	87	15.8%
東区	138	12.8%	75	13.6%
白石区	115	10.7%	44	8.0%
厚別区	63	5.8%	43	7.8%
豊平区	128	11.9%	53	9.6%
清田区	51	4.7%	49	8.9%
南区	86	8.0%	44	8.0%
西区	150	13.9%	47	8.5%
手稲区	87	8.1%	46	8.3%
回答数	1079	100.0%	551	100.0%

(4) 職業（択一回答）

回答者の職業は、「会社員・公務員」が最も高く 33.9%、次いで「パート・アルバイト」が 18.9%、「無職」が 16.7%、「専業主婦・主夫」が 15.5%となっている。



(回答者数：1,639人)

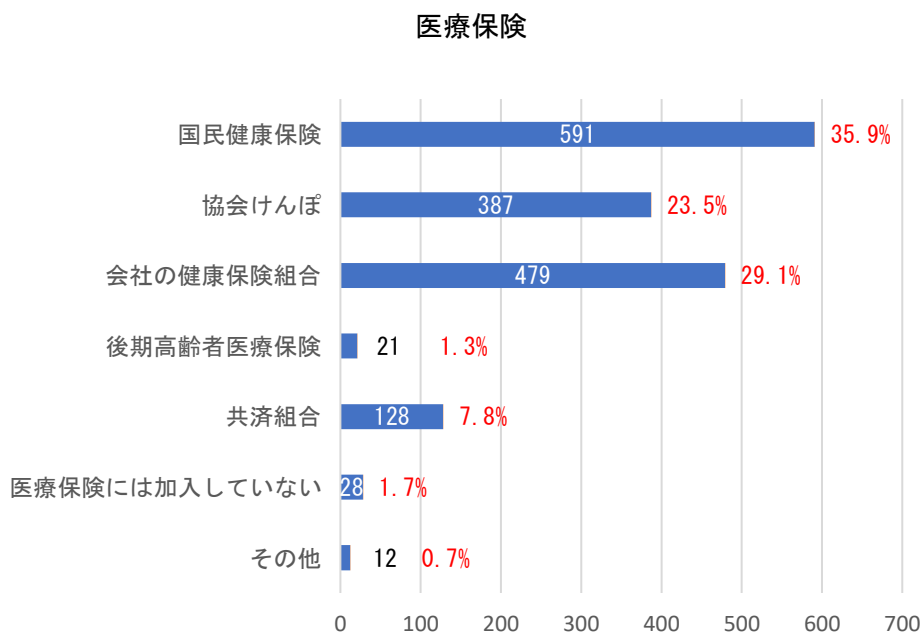
性別で見ると、男女共に「会社員・公務員（正社員）」が最も高く、男性は 45.3%、女性は 28.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
経営者・役員	40	7.2%	23	2.1%	0	0.0%
会社員・公務員（正社員）	253	45.3%	302	28.0%	0	0.0%
派遣職員	14	2.5%	39	3.6%	0	0.0%
自営業	24	4.3%	22	2.0%	0	0.0%
自由業	3	0.5%	11	1.0%	0	0.0%
パート・アルバイト	43	7.7%	263	24.4%	3	100.0%
専業主婦・主夫	5	0.9%	249	23.1%	0	0.0%
学生	0	0.0%	21	1.9%	0	0.0%
家事手伝い	0	0.0%	6	0.6%	0	0.0%
無職	161	28.9%	113	10.5%	0	0.0%
その他	15	2.7%	29	2.7%	0	0.0%
回答数	558	100.0%	1078	100.0%	3	100.0%

※就労状況によるクロス集計は省略。

(5) 医療保険（択一回答）

回答者の医療保険は、「国民健康保険」が35.9%で最も高く、次いで「会社の健康保険組合」が29.1%、「協会けんぽ」が23.5%となっている。



（回答者数：1,646人）

性別に見ると、男女共に「国民健康保険」が最も高く、男性は37.7%、女性は34.9%となっている。

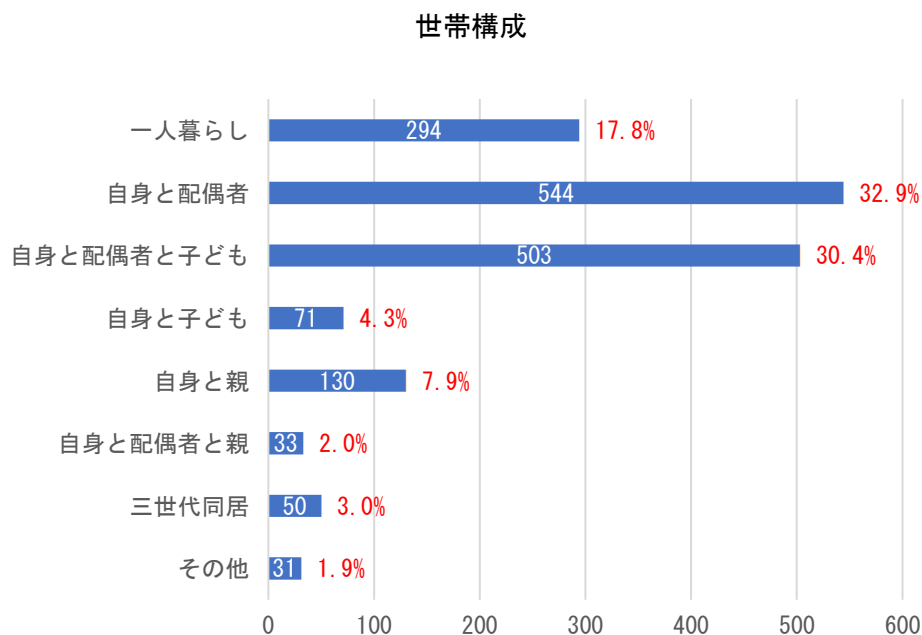
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
国民健康保険	212	37.7%	377	34.9%	2	66.7%
協会けんぽ（全国健康保険協会〇〇支部など。旧政府管掌健康保険）	131	23.3%	256	23.7%	0	0.0%
会社の健康保険組合（「〇〇健康保険組合」など。組合管掌健康保険）	143	25.4%	335	31.0%	1	33.3%
後期高齢者医療保険	10	1.8%	11	1.0%	0	0.0%
共済組合	50	8.9%	78	7.2%	0	0.0%
医療保険には加入していない	12	2.1%	16	1.5%	0	0.0%
その他	4	0.7%	8	0.7%	0	0.0%
回答数	562	100.0%	1081	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「会社の健康保険組合」が35.6%、就労なしは「国民健康保険」が60.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
国民健康保険	253	23.5%	328	60.7%
協会けんぽ（全国健康保険協会〇〇支部など。旧政府管掌健康保険）	325	30.1%	57	10.6%
会社の健康保険組合（「〇〇健康保険組合」など。組合管掌健康保険）	384	35.6%	83	15.4%
後期高齢者医療保険	2	0.2%	18	3.3%
共済組合	109	10.1%	19	3.5%
医療保険には加入していない	4	0.4%	24	4.4%
その他	1	0.1%	11	2.0%
回答数	1078	100.0%	540	100.0%

(6) 世帯構成（択一回答）

回答者の世帯構成は、「自身と配偶者」が32.9%で最も高く、次いで「自身と配偶者と子ども」が30.4%、「一人暮らし」が17.8%となっている。



(回答者数：1,656人)

性別で見ると、男性は「自身と配偶者（夫婦のみ）」が41.7%、女性は「自身と配偶者と子ども（夫婦と子）」が31.1%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
一人暮らし	91	15.9%	202	18.7%	1	33.3%
自身と配偶者（夫婦のみ）	238	41.7%	305	28.2%	1	33.3%
自身と配偶者と子ども（夫婦と子）	167	29.2%	336	31.1%	0	0.0%
自身と子ども（ひとり親家庭）	7	1.2%	64	5.9%	0	0.0%
自身と親（親と同居）	32	5.6%	97	9.0%	1	33.3%
自身と配偶者と親（夫婦が親と同居）	17	3.0%	16	1.5%	0	0.0%
三世代同居	13	2.3%	37	3.4%	0	0.0%
その他	6	1.1%	25	2.3%	0	0.0%
回答数	571	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

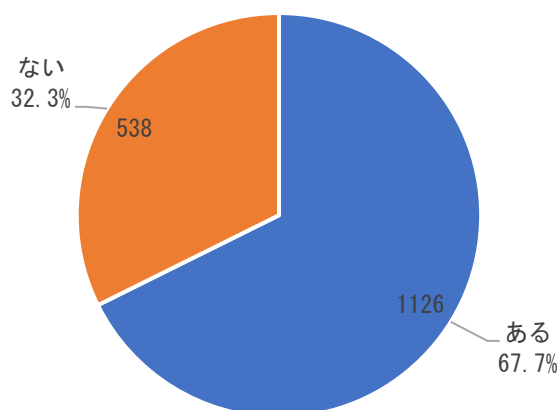
就労別に見ると、就労ありは「自身と配偶者と子ども（夫婦と子）」が32.5%、就労なしは「自身と配偶者（夫婦のみ）」が42.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
一人暮らし	201	18.6%	84	15.3%
自身と配偶者（夫婦のみ）	305	28.3%	234	42.7%
自身と配偶者と子ども（夫婦と子）	351	32.5%	148	27.0%
自身と子ども（ひとり親家庭）	54	5.0%	16	2.9%
自身と親（親と同居）	94	8.7%	32	5.8%
自身と配偶者と親（夫婦が親と同居）	29	2.7%	3	0.5%
三世帯同居	27	2.5%	19	3.5%
その他	18	1.7%	12	2.2%
回答数	1079	100.0%	548	100.0%

(7) 入院経験の有無（択一回答）

回答者の入院経験は、「ある」が67.7%で、「ない」が32.3%となっている。

入院経験の有無



（回答者数：1,664人）

性別に見ると、男女共に「ある」が最も高く、男性は74.1%、女性は64.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	421	74.1%	700	64.3%	1	33.3%
ない	147	25.9%	389	35.7%	2	66.7%
回答数	568	100.0%	1089	100.0%	3	100.0%

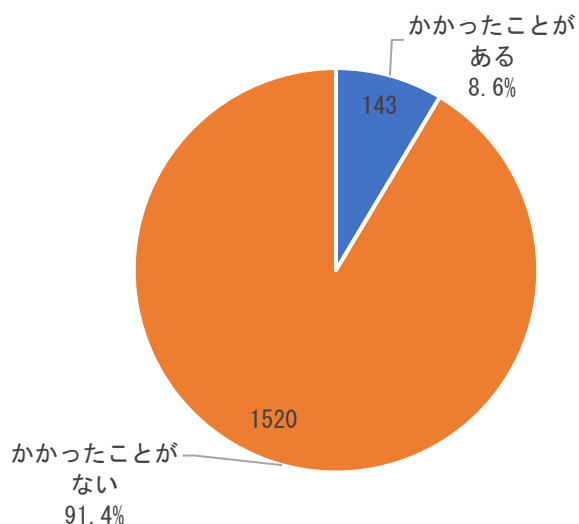
就労別に見ると、就労ありなし共に「ある」が最も高く、就労ありは63.2%、就労なしは75.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	683	63.2%	414	75.5%
ない	398	36.8%	134	24.5%
回答数	1081	100.0%	548	100.0%

(8) がんの罹患経験（択一回答）

回答者にこれまでにがんにかかった経験があるか聞いたところ、「かかったことがない」が91.4%で、「かかったことがある」が8.6%となっている。

がんの罹患経験の有無



(回答者数：1,663人)

性別に見ると、男女共に「かかったことがない」が最も高く、男性は91.0%、女性は91.6%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
かかったことがある	51	9.0%	91	8.4%	0	0.0%
かかったことがない	516	91.0%	998	91.6%	3	100.0%
回答数	567	100.0%	1089	100.0%	3	100.0%

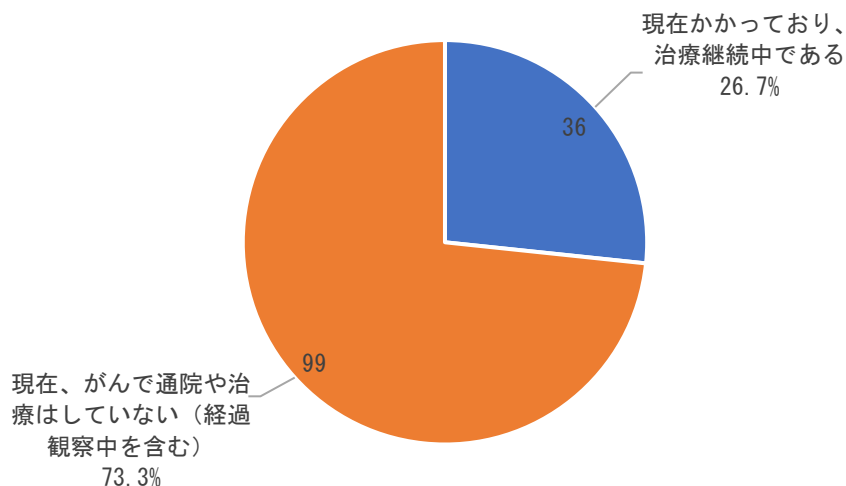
就労別に見ると、就労ありなし共に「かかったことがない」が最も高く、就労ありは93.4%、就労なしは87.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
かかったことがある	71	6.6%	68	12.4%
かかったことがない	1009	93.4%	480	87.6%
回答数	1080	100.0%	548	100.0%

(9) 現在のがんの状況（択一回答）

問 12(8)で、「かかった事がある」を選択した回答者に、現在のがんの状況について聞いたところ、「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が73.3%となっている。

現在のがんの状況について



(回答者数：135人)

性別に見ると、男女共に「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が最も高く、男性は70.2%、女性は75.9%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
現在かかっており、治療継続中である	14	29.8%	21	24.1%	0	0.0%
現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）	33	70.2%	66	75.9%	0	0.0%
回答数	47	100.0%	87	100.0%	0	100.0%

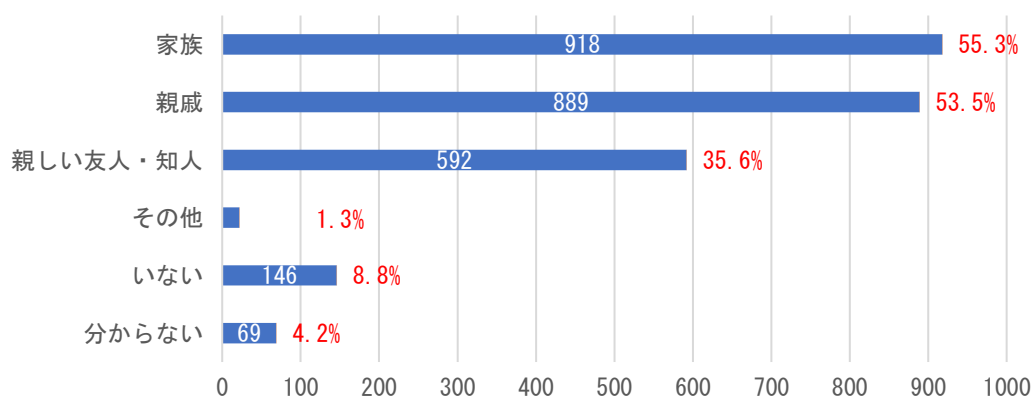
就労別に見ると、就労ありなし共に「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が最も高く、就労ありは77.9%、就労なしは69.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
現在かかっており、治療継続中である	15	22.1%	19	30.2%
現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）	53	77.9%	44	69.8%
回答数	68	100.0%	63	100.0%

(10) 周囲のがんの罹患状況(複数回答)

回答者の親しい人でがんにかかった人はいるか聞いたところ、「家族」が55.3%で最も高く、次いで「親戚」が53.5%、「親しい友人・知人」が35.6%となっている。

周囲のがんの罹患状況（複数回答）



(サンプル計：1,661人)

性別に見ると、男女共に「家族」が最も高く、男性は53.2%、女性は56.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
家族	301	53.2%	613	56.3%	2	66.7%
親戚	292	51.6%	592	54.4%	2	66.7%
親しい友人・知人	198	35.0%	392	36.0%	0	0.0%
その他	4	0.7%	18	1.7%	0	0.0%
いない	56	9.9%	90	8.3%	0	0.0%
分からない	31	5.5%	38	3.5%	0	0.0%
サンプル計	566	100.0%	1088	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「家族」が56.2%、就労なしは「親戚」が55.6%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
家族	605	56.2%	296	53.9%
親戚	565	52.5%	305	55.6%
親しい友人・知人	372	34.5%	206	37.5%
その他	17	1.6%	4	0.7%
いない	102	9.5%	42	7.7%
分からない	33	3.1%	33	6.0%
サンプル計	1077	100.0%	549	100.0%